

# 新潟医療福祉大学 教職支援センター年報

第6号〔2021年度版〕

Annual Report 2021〔NO.6〕

Niigata University of Health and Welfare

Teaching Career Support Center



# 目 次

## 研究ノート

- 「総合的な学習の時間の指導法」の充実に向けて—「総合的な学習の時間」学習実態調査から—  
(杵渕 洋美・脇野 哲郎・佐藤 裕紀) ..... 1
- 総合的な学習の時間の指導で教員が抱える困難性、課題に関する研究  
—X市の小学校教諭、中学校教諭へのインタビューの分析から—  
(佐藤 裕紀・杵渕 洋美・吉田 重和・脇野 哲郎) ..... 15

## 実践報告

### 取組紹介

- 健康栄養学科学学生と地域小中学校との連携による実践研究などの取組  
(斎藤 トシ子・齊藤 公二) ..... 26
- オンデマンド型講義における公正な評価を目指したオンライン定期試験の取り組み  
—教育心理学Ⅰ・Ⅱにおける工夫を題材として— (上田 純平) ..... 30

### 実習報告

- 教育実習報告 [小学校] (健康科学部 健康栄養学科 鈴木 渉太) ..... 34
- 教育実習報告 [小学校] (健康科学部 健康栄養学科 高橋 羽海) ..... 36
- 教育実習報告 [小学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 近 怜子) ..... 38
- 教育実習報告 [小学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 高橋 秀) ..... 40
- 教育実習報告 [中学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 穴澤 沙也可) ..... 42
- 教育実習報告 [中学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 紺野 琢也) ..... 44
- 教育実習報告 [高等学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 大日向 史伎) ..... 46
- 教育実習報告 [高等学校] (健康科学部 健康スポーツ学科 唐橋 万結) ..... 48
- 養護実習報告 (看護学部 看護学科 池上 悠) ..... 50
- 養護実習報告 (看護学部 看護学科 鈴木 里彩) ..... 52

### 教員採用試験受験報告

- 教員採用試験受験報告 (健康科学部 健康栄養学科 山田 日菜子) ..... 54
- 教員採用試験受験報告 (健康科学部 健康スポーツ学科 野崎 駿) ..... 55
- 教員採用試験受験報告 (健康科学部 健康スポーツ学科 櫻田 陽) ..... 57
- 教員採用試験受験報告 (看護学部 看護学科 佐藤 栞) ..... 58

### 活動報告

- 新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会 開催報告  
(吉田 重和・若月 弘久) ..... 60

## 自己評価

### 教職課程アンケート集計結果

- (森泉 哲也・久保 晃・佐藤 裕紀・杵渕 洋美・丸山 幸恵) ..... 62
- 自己点検の達成状況と残された課題 (吉田 重和) ..... 66
- 教職支援センター運営委員会の総括 (吉田 重和・杵渕 洋美・渡辺 優奈・高田 大輔) ..... 69

## 資料

- 教員養成理念 (全学・健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科) ..... 71
- 教員免許取得状況および教員就職状況 ..... 76
- 教職課程在籍者数 ..... 77

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 教職課程実習修了者数 .....               | 77 |
| 教職課程活動記録 .....                 | 78 |
| 教職科目担当者一覧 .....                | 79 |
| 教職支援センター利用状況 .....             | 88 |
| 教職課程アンケート .....                | 90 |
| <br>                           |    |
| 刊行物                            |    |
| 教職支援センターニューズレター第8号 .....       | 93 |
| 教職支援センターニューズレター第9号 .....       | 95 |
| <br>                           |    |
| 『新潟医療福祉大学教職支援センター年報』刊行規程 ..... | 97 |
| <br>                           |    |
| 執筆担当者一覧、編集委員一覧 .....           | 98 |
| <br>                           |    |
| 編集後記 .....                     | 99 |

# 「総合的な学習の時間の指導法」の充実に向けて

## —「総合的な学習の時間」学習実態調査から—

杵淵 洋美・脇野 哲郎・佐藤 裕紀

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

### 〈概要〉

本研究は、新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の学生を対象とした「総合的な学習の時間」の学習経験・意識調査を踏まえ、大学における教職課程の「総合的な学習の時間の指導法」の効果的な授業内容や教育方法を考察するものである。初回授業時に行った学習履歴および意識調査の結果、座学の勉強とは異なる学習活動を行う「総合的な学習の時間」を肯定的に受け止めているが、その意義や目標、内容については理解が曖昧な学生像が確認できた。今後の授業実践にあたっては、早期に自らの学習体験と結びつけ総合的な学習の時間をイメージできるような授業内容、多くの実践事例の紹介等が有効だと考えられ、より具体的で実践的な学びとすることが今後の課題である。

### 〈キーワード〉

総合的な学習の時間 学習体験 学習指導要領 探究的な見方・考え方 横断的・総合的な学習

### I. はじめに

本研究の目的は、新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の学生を対象とした「総合的な学習の時間」の学習経験・意識調査を行い実態を把握すること、それを踏まえて新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の学生に対する「総合的な学習の時間の指導法」の効果的な授業内容や教育方法を考察することである。

「総合的な学習の時間」は1998年の教育課程審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」で創設が決定し、同年告示の学習指導要領から小学校第3学年以上において創設された。「総合的な学習の時間」の教育課程上の位置付けは、「各学校において創意工夫を生かした学習活動」で、学習活動は教科横断的なものとされた。また国が目標、内容等を示す各教科等と同様なものとして位置付けることは適当ではないとして、各学校が学校教育目標に照らしてその内容を設定し、地域の教材や学習環境を活用することとされた<sup>1)</sup>。

その後2003年のPISA（生徒の学習到達度調査）の調査結果の順位が下がると、授業時間の削減等のいわゆる「ゆとり教育」が原因だと指摘され、「ゆとり教育」批判が相次ぎ、総合的な学習の時間の授業時数削減が行われた。しかし2012年のOECD（経

済協力開発機構）によるPISA報告において総合的な学習の時間が問題解決能力の育成に寄与していると評価された<sup>2)</sup> こと等からその意義が見直された。現学習指導要領（平成29年、平成30年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、より一層重要な学習活動として位置づけられている<sup>3)</sup>。

大学の教職課程においても、従来の「特別活動の指導法」から「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」2単位を開設することとし、各大学の実態に応じて申請、実施することとなっている<sup>4)</sup>。新潟医療福祉大学では「総合的な学習の時間の指導論」を開設しており、その履修者は養護教諭を目指す看護学科の学生、栄養教諭を目指す健康栄養学科の学生、中学校・高等学校の保健体育科教員を目指す健康スポーツ学科の学生である。2021年度は健康栄養学科・看護学科の学生が224名中11名で、健康スポーツ学科の学生が9割以上を占める。

新潟医療福祉大学の「総合的な学習の時間の指導論」履修者が教育課程履修学生であることから、総合的な学習の時間に関する教職課程履修学生を対象とした先行研究を確認した。大橋（2020）は平成30年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査と同じ内容のアンケートを「特別活動と総合的な学習の時間の指導法」を受講している学生に実施し、「関西では比較的名前の知れた伝統ある大学であり、入学す



るには一定の学力を要する」学生の回答から「『主体的・対話的で深い学び』に前向きに取り組んだ結果として本学の学生として過ごしている」として、「学力との一定の相関関係がある」と捉え、総合的な学習の時間での積極的な取組みが学力の向上に寄与すると考察している<sup>5)</sup>。田中(2020)は、東日本と西日本の中核的国立大学教育学部に在籍し、教職課程を履修している学生を対象とした質問紙調査を行い、学校設置者(公立・私立)及び地域による差(東日本・西日本)に着目し、大学生の総合的な学習の時間の満足度や学習内容を調査した。その結果、公立高校の方が私立高校より学習指導要領の趣旨に沿った学習がなされている可能性が高く、西日本の高校の方が東日本よりも総合的な学習の時間の目標にかなった教育活動がなされている可能性が高いと考察している<sup>6)</sup>。渡邊、田代(2020)は、「教育の内容と方法」において総合的な学習について1回講義を行った上で履修生に「総合的な学習の時間」に関する意識調査を行うとともに、総合的な学習の時間創設当時の諸環境について論じている。調査の結果、「その自由さや内容の多様さ、集団活動などを評価している記述が多くみられ」、学習者の「主体性・自発性を重視した学習」を望ましい学習とする意見が多かった<sup>7)</sup>。白井、三宅(2020)は、2019年度入学の1年生を対象に小学校4年から高校3年までに経験した総合的な学習の時間について調査し、結果から「どのような力を身につけるのか」についてあまり理解しておらず、学習成果が「大学での主体的な学びへはあまり影響しておらず、活かされているケースも少ない」と結論づけている<sup>8)</sup>。和田、新庄(2019)は、2018年度に「特別活動の指導法」を履修している学生を対象に、小学校・中学校・高等学校それぞれの総合的な学習の時間における学習内容、目的や教育的意義の理解、興味・関心、指導にあたっての不安、大学の学修で期待する内容、総合的な学習の時間と特別活動の違いの理解について調査し、特別活動との目標や指導法等の違いについて不明瞭であることや、将来教員として指導する際の不安等を把握し、今後のシラバス、授業内容に活かすこととしている<sup>9)</sup>。総合的な学習の時間の履修実態調査の実施にあたり、本研究では、今後の授業内容等に活かすための調査設計をしている和田、新庄(2019)の調査項目を用いることとした。和田、新庄(2019)は授業内容を中心に考察しているが、本研究は授業方法にも言及し、「どのように」授業を行うことが効果的かを考察した。

## II. 方法

### 1. 調査対象

新潟医療福祉大学で2021年度前期に「総合的な学習の時間の指導論」を履修している学生(健康スポーツ学科)213名<sup>注1)</sup>

### 2. 調査時期

2021年4月6日～2021年5月4日

### 3. 調査内容

調査項目は和田、新庄(2019)に準じたものを作成し、主に下記に関する内容を尋ねた。なお調査に使用したGoogleフォームは文末に記載した。

- ① 小学校、中学校、高校それぞれの「総合的な学習の時間」における学習内容
- ② 「総合的な学習の時間」の目的や教育的意義等の理解、興味・関心
- ③ 教師として「総合的な学習の時間」を指導するにあたっての不安
- ④ 大学の学修で期待する内容
- ⑤ 「総合的な学習の時間」と「特別活動」との違いの理解

### 4. 調査方法

多肢選択式及び自由記述式によるアンケート調査  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業形態が非対面でのオンデマンド配信となり、e-Campusと呼ばれるeラーニングシステム上にGoogleフォームのURLを設置した。第1回の授業は、オリエンテーション動画の後にアンケート回答方法解説動画を設置、「研究協力をお願い」を貼付した上でGoogleフォームのURLを設置した。注意書きとして「オリエンテーション動画を視聴後に、本編動画を見る前に回答してください」と記載した。その次に第1回の授業本編動画を設置した。

### 5. 倫理的配慮

新潟医療福祉大学の倫理委員会による倫理審査を受審した(受付番号18608)。「研究協力をお願い」において研究へ参加しない場合の成績への不利益はないことを記載し、オプトアウトにより参加の同意を得た。

## III. 結果

### 1. 回収率

調査1の回答数は192名/213名で回収率は90.1%

であった。

## 2. 調査結果

### 1) 調査からわかる学生の学習経験と実態 (学生像)

#### (1) 小・中・高の総合的な学習の時間における学習内容

質問項目は、「小・中・高の「総合的な学習の時間」で学習したことを内容項目に分けて該当するものに○をつけてください（複数○をつけることができます）。そして活動内容を具体的に書き

てください。活動内容が不明の場合は、不明と書いてください。」である。Googleフォームによる回答のため、実際には小・中・高とそれぞれ複数チェックボックスを付ける回答方法とした。

内容項目は、学習指導要領の探究課題で例示されているものを示し、小・中・高の校種別に選択するものとした。【図1、2、3】

小学校では、「6. 覚えていない」が44.8%で最も多く、「2. 地域や学校の特色に応じた課題」、「1-3. 環境」「4. 職業や自己の将来に関する

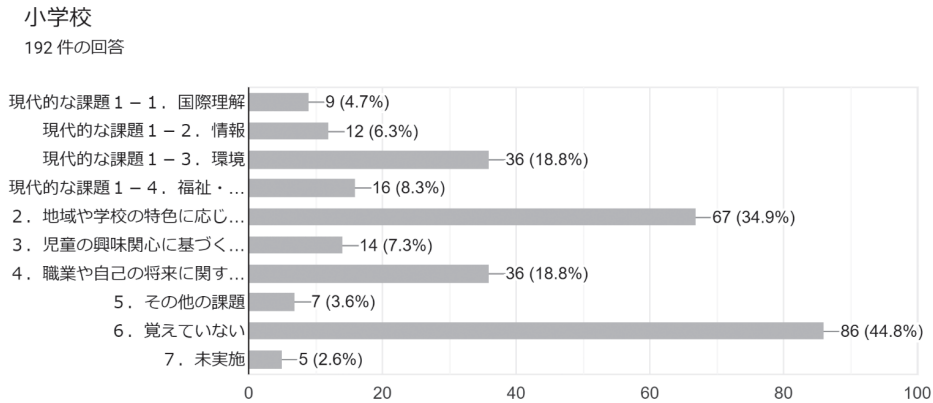


図1 「総合的な学習の時間」の学習内容 (小学校)

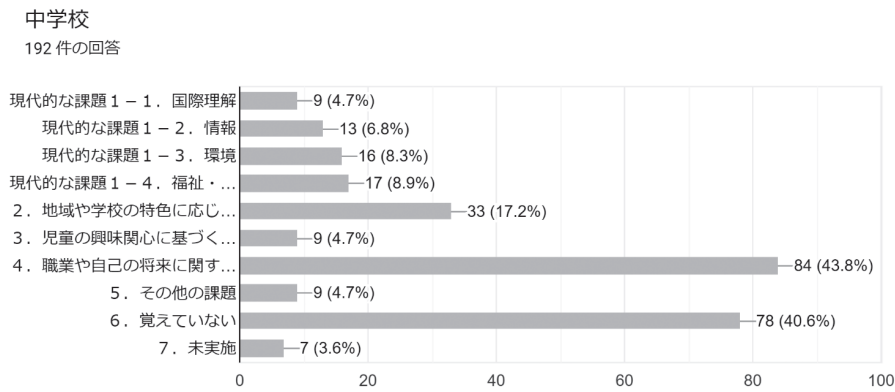


図2 「総合的な学習の時間」の学習内容 (中学校)

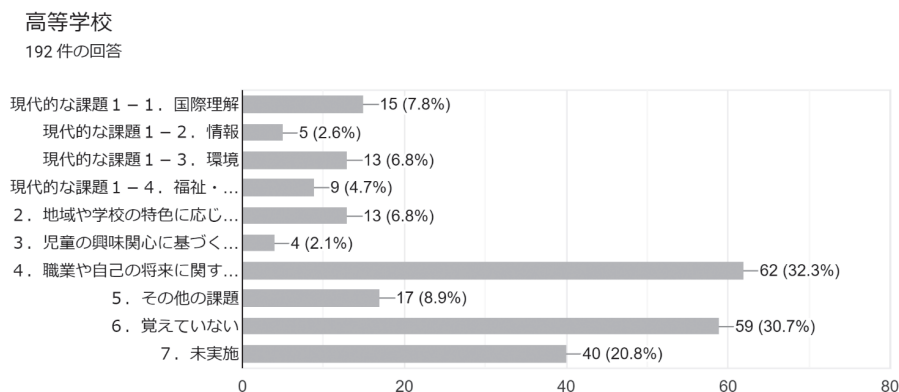


図3 「総合的な学習の時間」の学習内容 (高等学校)

課題」の順であった。

中学校では「4. 職業や自己の将来に関する課題」が43.8%と最も多く、次いで「6. 覚えていない」「2. 地域や学校の特色に応じた課題」となっている。

高等学校では「4. 職業や自己の将来に関する課題」が32.3%で最も多く、「6. 覚えていない」「7. 未実施」「5. その他の課題」の順であった。

回答数の最も多い内容項目（「6. 覚えていない」を除く）の具体的な活動内容は、小学校では、田植え・稲作体験、地域の特色調べ、地域の地図づくり、地域の川や湖の水質検査、環境保護（「1-3. 環境」に含まれる可能性があるが、回答結果に従い記載）が挙げられた。中学校では職業・職場体験、高等学校では職業調べ、進路学習、職場体験が挙げられた。

(2) 「総合的な学習の時間」への興味関心

質問項目は「『総合的な学習の時間』は好きでしたか。」である。和田、新庄（2019）によると、各学校で実施されている総合的な学習の時間を学生がどのように受け止めているかを把握するためにこの質問項目を設定している<sup>10)</sup>。【図4】

「好き」「どちらかといえば好き」が92%を占め、「嫌い」は1%（1名）であった。非常に肯定的に受け止めていることがわかる。回答の理由として主なものは以下であった。

- ・自分の興味のあることについて学べるから。
- ・座学とは違い、校外で様々な活動ができるから。
- ・グループ活動や話し合いが楽しかったから。
- ・座学とは異なる学習方法で、自己表現できたから。
- ・いつもの勉強とは違ったから。勉強の息抜きができたから。

「総合的な学習の時間」は好きでしたか。

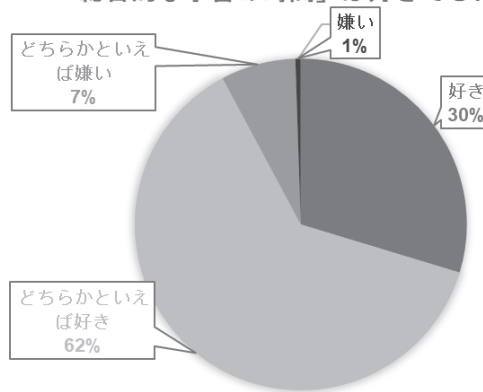


図4 「総合的な学習の時間」への興味関心

(3) 「総合的な学習の時間」の目標や教育的意義の理解

質問項目は、「『総合的な学習の時間』はどのようなことを学習する時間だと思いますか。当てはまるもの最大3つに○をつけてください。」で、学習指導要領における目標に示されている目指す資質・能力や内容を挙げた。なお、和田、新庄（2019）の調査には「オ. 互いの良さを生かして協力し、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」はないが、学習指導要領に記載の総合的な学習の時間の目標に照らして追加した。【図5】

「ア. 日常生活や社会に目を向け、自ら課題を設定する」が57.3%で最も多く、「イ. 探究的な見方や考え方を身につける」が49.5%、「エ. 必要な情報を収集し、整理・分析、まとめ・表現する」が45.3%、「カ. よくわからない」と回答したのは3.6%であった。

(4) 「総合的な学習の時間」における知識・技能、能力・態度の修得

質問項目は、「『総合的な学習の時間』では、ど

「総合的な学習の時間」はどのようなことを...当てはまるもの最大3つに○をつけてください。

192件の回答

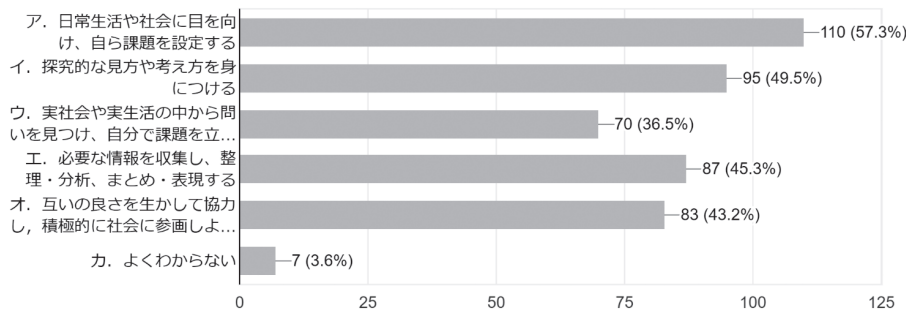


図5 「総合的な学習の時間」の学習内容

「総合的な学習の時間」では、どのような力...当てはまるもの最大3つに○をつけてください。  
192件の回答

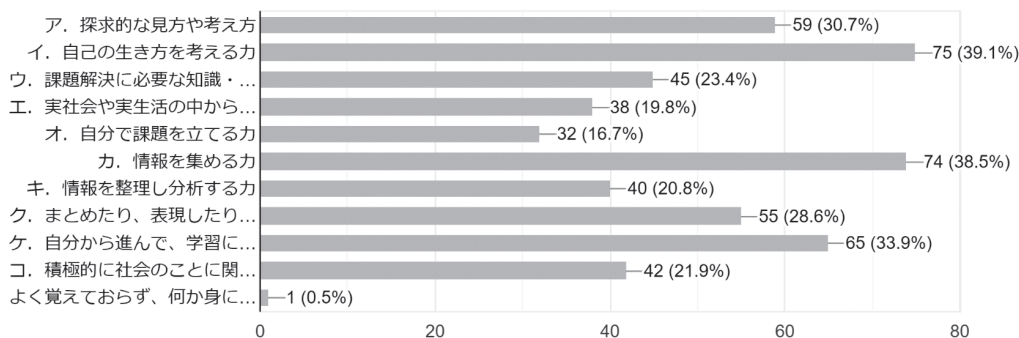


図6 「総合的な学習の時間」で身についた力

のような力が身についたと思いますか。当てはまるもの最大3つに○をつけてください。」である。学習指導要領では育成すべき資質・能力の3つの柱として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を打ち出している。【図6】

「イ. 自己の生き方を考える力」が39.1%、「カ. 情報を集める力」が38.5%が多かった。次いで「ケ. 自分から進んで、学習に取り組んだり、協力したりする態度」「ア. 探求的な見方や考え方」の順であった。

(5) 「総合的な学習の時間」と「特別活動」の違いの理解

質問項目は、「『総合的な学習の時間』と『特別活動』の違いはわかりますか。1つに○をつけてください。」である。【図7】

「わかる」「どちらかといえばわかる」が24%で「どちらかといえばわからない」「わからない」が76%となり、約8割の学生が違いを理解していな

「総合的な学習の時間」と「特別活動」の違いはわかりますか

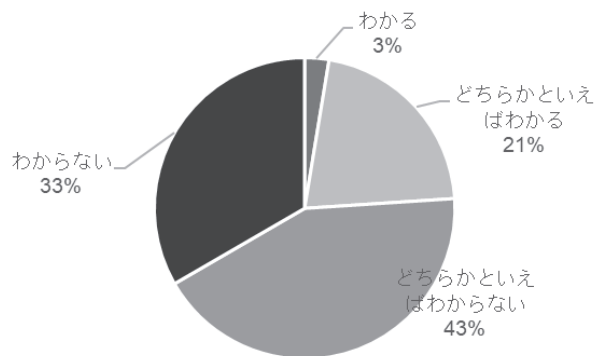


図7 「総合的な学習の時間」と「特別活動」の違いの理解

い状況が明らかになった。

(6) 指導上の不安

質問項目は、「あなたが教師として『総合的な学習の時間』を指導するにあたり、どのようなことが不安ですか。一番当てはまるもの1つに○をつけてください。」である。【図8】

あなたが教師として「総合的な学習の時間」を指導するにあたり、どのようなことが不安ですか。

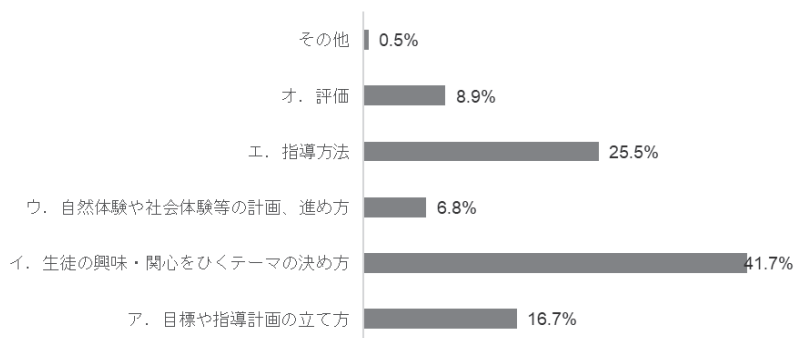


図8 「総合的な学習の時間」の指導上の不安

あなたが教師として「総合的な学習の時間」を指導するにあたり、大学ではどのようなことを学びたいですか。

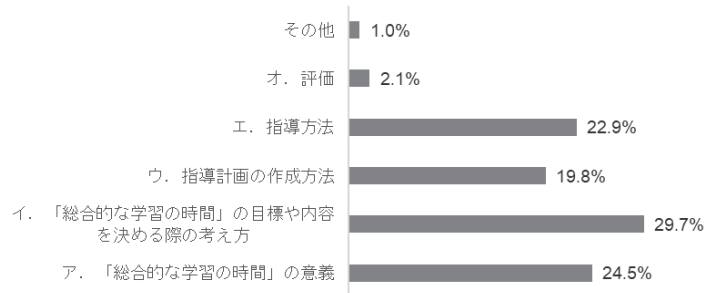


図9 「総合的な学習の時間」に関して大学で学びたいこと

「イ. 生徒の興味・関心をひくテーマの決め方」が41.7%と最も多く、「エ. 指導方法」25.5%、「ア. 目標や指導計画の立て方」16.7%の順であった。

(7) 「総合的な学習の時間」に関する学修への期待

質問項目は、「あなたが教師として『総合的な学習の時間』を指導するにあたり、大学ではどのようなことを学びたいですか。一番当てはまるもの1つに○をつけてください。」である。【図9】

「イ. 『総合的な学習の時間』の目標や内容を定める際の考え方」が29.7%で最も多く、「ア. 『総合的な学習の時間』の意義」が24.5%、「エ. 指導方法」22.9%の順であった。

(8) 学校教育における「総合的な学習の時間」の必要性

質問項目は「あなたは、これからの学校教育において、『総合的な学習の時間』は必要だと思いますか。」である。【図10】

「必要である」が72%、「どちらかといえば必要である」が28%で、必要ないと回答した学生はゼロであった。

あなたは、これからの学校教育において、「総合的な学習の時間」は必要だと思いますか。

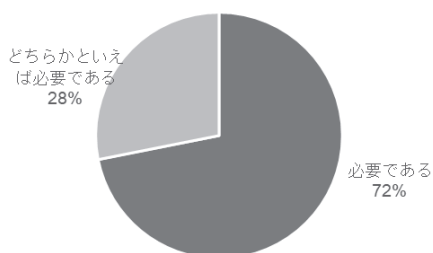


図10 「総合的な学習の時間」は必要か

口であった。主な理由は以下であった。

- ・社会に出ていくために必要なことが学べるから。
- ・自分が体験をして大切、必要だと思うから。
- ・他の教科とは違い、社会により近いところで学べるから。
- ・自分で考えて行動したり調べたりすることがこれから必要だから。

(9) 「総合的な学習の時間」についての自由記述

質問項目は、「『総合的な学習の時間』について、あなたの意見や考えなど、どのようなことでも構いませんので自由に書いてください。」である。主な回答は以下のようなものであった。(下線は筆者による)。

- ・正直、先生によっては同じ学年でも内容が違うため本当の総合的な学習の時間は何なのかわからないのでしっかり学びたい。
- ・総合的な学習の授業でどういった活動を行っていたかしっかりと記憶がないので、どんな活動かという所から学んでいきたい。
- ・学校の中だけで授業を行うのではなく、外でしか学べないことがあると思う。自らが体験し感じることは、人間性を豊かにしていくのではないかと考える。私は、総合的な学習の時間は重要な授業の一つであると思う。
- ・総合の時間というのは他の教科とは少し違って自由に調べたり話し合ったりできる楽しい時間である。学生は誰でも楽しいと思えることにはとことん積極的になると思う。だからこそ自分がもし教員になったらこの時間を有効的に使っていきたいと思う。
- ・自分がもし教師として総合的な学習の時間を教

えるとしたら、どれだけ生徒に興味を持ってもらえる授業が出来るかということを目標に頑張っていきたい。

- ・自分は総合的な学習の時間はめんどくさがっていた。なので生徒にどのように取り組ませるかがとても考えなければいけない。
- ・総合的な学習の時間は小学校から上の学年になるにつれ多くの時間を使った方がいいと思う。将来のことが不安になるのを少しでも解消することが出来るのがこの時間だと思う。
- ・総合的な学習の時間は一人ですべて解決するというよりかは、他の人と協力することがカギになることが多い時間だと思った。この時間を通じて、人とのコミュニケーションの取り方も学べるのではないかと思う。
- ・総合的な学習の時間を設ける意図を生徒に教えるべきだと思う。
- ・小学生の頃から総合的な学習をたくさんやってきて、とても自分を見つめ直すことが沢山あった。そして、いろいろな事にも目を向けられるのでとてもいい時間だと考える。

学習経験の記憶がないため総合的な学習の時間の活動内容を学びたいといった記述や、自分の学習経験を踏まえた記述、教員になってからどのような指導をしたいかといった記述がみられた。総合的な学習の時間の魅力としては、外でしか学べないことがある、自由に調べたり話し合ったりできる、コミュニケーションの取り方も学べるといった記述がみられ、「主体的・対話的で深い学び」に繋がっていることがわかる。また、将来の不安を解消できる、自分を見つめ直すといった、キャリア教育に関連した記述も散見された。これらの肯定的な意見から、総合的な学習の時間のねらい通りの学習経験をしていることがわかる。この時間を設ける意図を生徒に教えるべきという記述があるが、総合的な学習の時間が創設された背景や目的を学習者に伝えてから学習に取り組ませることでより「主体的・対話的で深い学び」となると考えられ、指導法を教授する際のポイントが明らかになった。

#### IV. 考察

「総合的な学習の時間の指導論」初回授業時に行った学生の実態調査から明らかになった点を、先行研究との比較を含めて考察する。

#### 1. 総合的な学習の時間での活動内容

小学校・中学校・高等学校における総合的な学習の時間では、和田、新庄（2019）においては「具体的な活動内容の記載が多く、学修の記憶が鮮明」で「特に、探究的な学習や体験活動など」が「学習体験として記憶に残っている」<sup>11)</sup>とされている。しかし新潟医療福祉大学の調査では約4割の学生が「覚えていない」と回答している。学習指導要領では「総合的な学習の時間」の名称について「各学校において適切に定めること」とされており、自分の行ってきた学習活動が総合的な学習の時間だったと認識できていないことが推測できる。指導法の授業においては、一定数以上の学生が覚えていない点に配慮した授業づくりが必要となるだろう。例えば、活動事例をいくつか提示して記憶を喚起するとか、学生同士がグループワークで学習経験を語り合う時間を設けるといったことが考えられる。

#### 2. 総合的な学習の時間への興味関心

総合的な学習の時間は好きかどうかを尋ねた質問への回答は、和田、新庄（2019）同様に肯定的な回答が多数であったが、その理由から「体験活動や実際の調べ学習等の関心が高く、学習活動そのものが興味・関心を高める体験となっている」<sup>12)</sup>ことに比べ、新潟医療福祉大学の学生は通常の座学の「勉強」とは異なることから肯定的に受け止めていると思われる回答が一定数見受けられた。

#### 3. 総合的な学習の時間の目標や教育的意義の理解

「総合的な学習の時間はどのようなことを学習する時間か」を尋ねた結果は、「よくわからない」と回答した割合が和田、新庄（2019）の9%に対して3.6%と低い割合であったが、「大学で学びたいこと」の質問項目では「総合的な学習の時間の意義」という回答が24.5%と二番目に多かった。このことから、「どのようなことを学習する時間か」と聞かれれば選択肢から選択できるものの、「意義」と言われればこれから学びたいという回答が一定数みられ、教育的意義を確実に理解しているとは言い難い結果だといえる。

#### 4. 総合的な学習の時間で身に付けた知識・技能や能力・態度

「どのような力が身に付いたか」を尋ねた質問では、「自己の生き方を考える力」が多く、和田、新庄（2019）と同じ結果であった。自由記述でみられ



たキャリア教育関連の記述と繋がる結果である。しかし1名「よく覚えておらず、何か身につけた覚えがない」という回答があった。先述した学習内容の質問で「覚えていない」が4割であることを考えると、この回答が4割の学生の本音かもしれない。推測の域を出ないが、一定数以上の学生が学習内容を覚えていない点に配慮した授業づくり、総合的な学習の時間設立の背景・意図を理解させる指導法の必要性がここでも確認できる。

### 5. 総合的な学習の時間と特別活動の違いの理解

和田、新庄（2019）で約半数、新潟医療福祉大学の学生は76%が特別活動との違いを理解していない結果であったが、その背景として和田、新庄（2019）は「教育課程上の位置づけが学校によって異なることや、教員の理解不足等」<sup>13)</sup>を挙げている。これは、学習指導要領において総合的な学習の時間の学習活動を特別活動や学校行事と関連付けて実施可能としていることに起因する。授業を受ける児童生徒の立場からすれば、教科横断的にさまざまな教科や活動を通して資質・能力が身に付けばいいので、違いを理解した上で活動や学習は不要だといえる。しかし、教員を目指す教職課程においては、その違いを理解した上で授業実践することが求められ、「総合的な学習の時間の指導法」において理解と定着を促す授業が必要である<sup>注2)</sup>。

### 6. 総合的な学習の時間の指導上の不安

和田、新庄（2019）と同様に、生徒の興味・関心を喚起する授業やテーマの決め方、目標や指導計画の立て方、指導方法等について、学生は不安感を抱いていることが分かった。和田、新庄（2019）は「大学での授業では、具体的な指導方法や各学校における実践事例等の紹介、指導計画の作成等、実践的な学修を進めることが必要」<sup>14)</sup>としてシラバスの作成や授業内容に反映することとしているが、新潟医療福祉大学の授業でもより実践的な学修が必要であるう。

## V. おわりに

本調査の結果から考えられる新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の学生像は以下ようになる。総合的な学習の時間の学習活動は具体的には「覚えていない」が、好きか嫌いかと聞かれれば座学の勉強とは違うから「好き」だと答え、どのようなことを学習するかといった教育的意義については

選択肢があれば選べるがこれから学びたいこととして「総合的な学習の時間の意義」を選択する割合が一定数いる、つまり教育的意義を完全には理解していない。身に付いたことも実際にはよくわからない可能性もあり、一様にテーマの決め方や目標設定、指導方法に不安を抱いている。

このような学生への指導にあたっては、早期に自らの授業体験と総合的な学習の時間の活動内容を結びつけられるようにし、より具体的に総合的な学習の時間をイメージできるようにすることが効果的だと考える。例えば多くの実践事例の提示や指導計画・指導案の作成を事例で紹介し、実際にやって見せること等が有効だろう。また、カリキュラム編成としては、現在2年次後期に設置している学習指導要領の変遷を学ぶ「教育課程論」、指導案の作成方法や授業方法を学ぶ「教育方法・技術」を履修した上で本科目「総合的な学習の時間の指導論」を履修することが望ましいと考える。

最後に、「総合的な学習の時間の指導論」の今後の展望として、本科目においても「総合的な学習の時間」のような探究的な学習活動を積極的に行いたい。今後の対面授業の実施にあたっては、座学の勉強とは違うから「好き」と回答した学生の学習意欲を向上させるため、自らの興味関心に基づき、自分で課題を見つけてその解決を図る学修の仕方、日常生活や社会に目を向け、実社会や実生活から問いを見つけられる学習素材の提供等を通して、より具体的に実践的な学びとすることが、これからの課題である。

### 注釈

注1) 新潟医療福祉大学の「総合的な学習の時間の指導論」は、教員免許取得希望者以外の学生も履修することができるため、調査対象者全てが教職課程履修者とは言い切れない。

注2) 筆者が行った全国の小・中学校の教員を対象とした高齢者の理解や高齢者との関わりに関する授業・活動の実施状況調査（JSPS科学研究費基盤研究（C）「子どもの高齢者理解を深める福祉教育プログラムの開発と学校教育現場への応用」（JP21K02340））では、活動を行う時間・教科に関する質問に対し、本来「特別活動」であるはずの学級活動や生徒会活動、学校行事、小学校のクラブ活動が「その他」として多く回答されていた。この調査により、学校現場では、教員でも特別活

動の具体的活動内容を正確に理解していないという実態も明らかになった。

#### 引用参考文献

- 1) 教育課程審議会, 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 盲学校, 聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について (答申), 1998.7
- 2) OECD, "PISA2012 Results : Creative Problem Solving : Students' Skills in Tracking Real-Life Problems" vol.V, p.124
- 3) 文部科学省, 小学校学習指導要領 (平成29年告示), 2017、中学校学習指導要領 (平成29年告示), 2017、高等学校学習指導要領 (平成30年告示), 2018
- 4) 文部科学省, 教職課程認定申請の手引き, 2017.7
- 5) 大橋忠司, 総合的な学習の時間の成果と課題と方向性:「特別活動と総合的な学習の時間の指導法」の授業から, 同志社大学教職課程年報第9号, pp.65-77, 2020
- 6) 田中将之, 「総合的な学習の時間」の意義と目標に関する一研究, 尚絅大学研究紀要 人文・社会科学編第52号, pp.1-11, 2020
- 7) 渡邊均、田代裕一, 「総合的な学習の時間」に関する研究 I—大学での教職教育への示唆—, 西南学院大学人間科学論集第16巻, pp.227-264, 2020
- 8) 白井靖敏、三宅元子, 「総合的な学習の時間」と大学での主体的な学び, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編 人文・社会編第66号, pp.141-150, 2020
- 9) 和田孝、新庄恵子, 教職課程の新科目である「総合的な学習の時間および特別活動の指導法」の実施に向けての課題—実態調査を踏まえた「総合的な学習の時間」の学習の実態, 帝京大学教職センター年報第6号, pp.3-14, 2019
- 10) 9) p.5
- 11) 9) p.10
- 12) 9) p.10
- 13) 9) p.10
- 14) 9) p.11



調査に使用したGoogleフォーム

1. 小・中・高の「総合的な学習の時間」で学習したことを内容項目に分けて該当するものに○をつけてください（複数○をつけることができます）。そして活動内容を具体的に書いてください。活動内容が不明の場合は、不明と書いてください。

説明（省略可）

例）外国人との交流、パソコンを使った調べ学習、環境汚染の調査、社会福祉に関する施設の訪問、健康安全などの課題についての調査、地域の活動への参加、進路学習、職場体験、稲作、自然体験、ボランティア活動、地域調査、観察や実験、見学や調査、発表や討論など、授業は行っていたが内容を覚えていない方は「覚えていない」、実施していなかった・実施した記憶がない「未実施」と書いてください。

説明（省略可）

- 現代的な課題 1 - 1. 国際理解
- 現代的な課題 1 - 2. 情報
- 現代的な課題 1 - 3. 環境
- 現代的な課題 1 - 4. 福祉・健康
- 2. 地域や学校の特色に応じた課題
- 3. 児童の興味関心に基づく課題
- 4. 職業や自己の将来に関する課題
- 5. その他の課題
- 6. 覚えていない
- 7. 未実施

2. 「総合的な学習の時間」は好きでしたか。 \*

- 好き
- どちらかといえば好き
- どちらかといえば嫌い
- 嫌い

その理由を書いてください。 \*

記述式テキスト（短文回答）

---

3. 「総合的な学習の時間」はどのようなことを学習する時間だと思いますか。当てはまるもの最大3つに○をつけてください。 \*

- ア. 日常生活や社会に目を向け、自ら課題を設定する
- イ. 探究的な見方や考え方を身につける
- ウ. 実社会や実生活の中から問いを見つけ、自分で課題を立てる
- エ. 必要な情報を収集し、整理・分析、まとめ・表現する
- オ. 互いの良さを生かして協力し、積極的に社会に参画しようとする態度を養う
- カ. よくわからない
- その他...

4. 「総合的な学習の時間」では、どのような力が身についたと思いますか。当てはまるものの最大3つに○をつけてください。 \*

- ア. 探求的な見方や考え方
- イ. 自己の生き方を考える力
- ウ. 課題解決に必要な知識・技能
- エ. 実社会や実生活の中から問題を見出す力
- オ. 自分で課題を立てる力
- カ. 情報を集める力
- キ. 情報を整理し分析する力
- ク. まとめたり、表現したりする力
- ケ. 自分から進んで、学習に取り組んだり、協力したりする態度
- コ. 積極的に社会のことに興味をもったり、参画したりしようとする態度
- その他...

5. 「総合的な学習の時間」と「特別活動」の違いはわかりますか。1つに○をつけてください。 \*

- わかる
- どちらかといえばわかる
- どちらかといえばわからない
- わからない

6. あなたが教師として「総合的な学習の時間」を指導するにあたり、どのようなことが不安ですか。一番当てはまるもの1つに○をつけてください。 \*

- ア. 目標や指導計画の立て方
- イ. 生徒の興味・関心をひくテーマの決め方
- ウ. 自然体験や社会体験等の計画、進め方
- エ. 指導方法
- オ. 評価
- その他...

7. あなたが教師として「総合的な学習の時間」を指導するにあたり、大学ではどのようなことを学びたいですか。一番当てはまるもの1つに○をつけてください。 \*

- ア. 「総合的な学習の時間」の意義
- イ. 「総合的な学習の時間」の目標や内容を定める際の考え方
- ウ. 指導計画の作成方法
- エ. 指導方法
- オ. 評価
- その他...

8. あなたは、これからの学校教育において、「総合的な学習の時間」は必要だと思います \*  
か。

- 必要である
- どちらかといえば必要である
- どちらかといえば必要ない
- 必要ない

8で答えた理由を書いてください。 \*

記述式テキスト（長文回答）

---

9. 「総合的な学習の時間」について、あなたの意見や考えなど、どのようなことでも構い \*  
ませんので自由に書いてください。

記述式テキスト（長文回答）

---

# 総合的な学習の時間の指導で教員が抱える困難性、課題に関する研究

## —X市の小学校教諭、中学校教諭へのインタビューの分析から—

佐藤 裕紀・杵渕 洋美・吉田 重和・脇野 哲郎

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

### 〈概要〉

本研究は、総合的な学習の時間の指導で教員が抱える困難性、課題について、X市の小学校校長、小学校教諭、中学校校長、中学校教諭への半構造化インタビュー調査を通じて明らかにするものである。分析の結果、困難性について、それぞれが関係しあう3つの領域と、10カテゴリー、サブカテゴリーとして47のカテゴリーが抽出された。明らかになった困難性を改善していく上で、教員養成段階において、「自分自身が探究する経験」「単元づくり」等の機会をいかに具現化していくかが重要である点も明らかになった。

### 〈キーワード〉

総合的な学習の時間 教員の指導上の課題 教員養成

## I. はじめに

### 1. 総合的な学習の時間の意義と課題

総合的な学習の時間（以下「総合」）は、1998年の『学習指導要領』で示され、教育課程の中に位置づけられた。導入の当初、各教科の壁を越えた学習活動への期待と共に、教育目標をはじめ、教育内容や方法等、その多くが各学校、教員へ委ねられたため、学校現場での戸惑いも多かった。

2008年の『学習指導要領』の改訂では、OECDの生徒の学習到達度調査（PISA2003）の結果から、国語や算数、数学、理科等の教科の学習時間の充実が指摘され、「総合」の時間数は3分1程度削減された<sup>1)</sup>。

しかし、近年では、総合的な学習の時間の取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成の両方につながっている点や、各教科等における探究的な学習の根幹になっている点、OECDの実施するPISA調査の好成績につながっている等、肯定的な評価を得ている<sup>2)</sup>。『学習指導要領』の改訂ごとに「総合」の位置づけは大きくなってきており、例えば苫野（2019）は、今後の教育の方向性として「学びの個別化・協働化・プロジェクト化」の融合を掲げ、特にカリキュラムの中核を「プロジェクト」あるいは「探究」へと転換することを提案する等<sup>3)</sup>、「総合」はその中核としての役割を期待されていると言えよう。

一方で「総合」には、「各教科等との関連が不十

分」、「指導方法の工夫や校内体制の整備等に学校間格差」、「探究のプロセスの中で『整理・分析』『まとめ・表現』に対する取組が不十分」等の課題も挙げられ<sup>4)</sup>、「指導する側の教師の意識や各学校での取組は、果たしてその期待に応えられるまでになっているのであろうか<sup>5)</sup>」という懸念の声もある。

「総合」における教員の力量や、必要な資質・能力について焦点を当てた研究として、村井（2002）は、小学校教員を対象とした質問紙調査で、①単元設計力、②授業評価力、③学習評価力、④環境設定力、⑤課題分析力、⑥状況把握力の6点に整理・分析している<sup>6)</sup>。また村井（2015a）及び村井（2015b）は、「総合」の指導にあたって、その展開を阻害する要因について検討するため、金沢市内の小学校教諭への質問紙調査を行った。その結果、若手教員ほど「総合」を得意としていない傾向があるものの、指導が好きだと意識している教員は多い点、「総合」の指導を得意であると意識している教員は多くはないが、指導が好きであると意識している教員は多い点、環境設定力が身につけていないと意識している教員が多い点等を明らかにした<sup>7)</sup>。また、「総合」の好き嫌いについて、肯定的な要因としては「主体的活動」「意欲的活動」等11の概念化を、否定的な要因として「目的や内容」「見通し」等11の概念化を試みている<sup>8)</sup>。

また浦郷（2011）は、佐賀県の教員への質問紙調査から、小学校教員が「総合」の指導において抱え

る課題として、多い順に「具体的な学習課題の設定・教材開発」、「地域人材の発掘・確保」、「単元を開発することによる教師への負担増」を挙げている。さらに単元開発を行う際に感じる困難として、①地域に関すること、②「総合」を準備する時間の不足、③授業時数の減少、④児童の思いや願い、実態、⑤学校の事情、⑥教師と整理をしている<sup>9)</sup>。

谷尻・林(2020)は、和歌山県の教員を対象に質問紙調査を行い、探究の学習の4つの過程の中で、特に「課題の設定」に困難さを感じている教員が多いことを明らかにしている<sup>10)</sup>。最後に藤上(2021)は先行研究を参考に「総合」を担う教員に必要な資質・能力として「カリキュラム・マネジメント力」「単元デザイン力」「課題設定力」「環境デザイン力」「状況把握・対応力」「評価力」を導き出した。さらにその開発した資質・能力に基づき、教職志望学生や若手小学校教員が抱える課題やニーズについて調査を行い、「カリキュラム・マネジメント力」「単元設定力」「課題設定力」に関する悩みや不安を抱えていることを明らかにしている<sup>11)</sup>。

しかし、管見のかぎり、多くの先行研究は質問紙調査による研究である。また、教員が「総合」を指導する上での困難性に影響を与えていることが予想される構造や環境についての視点の不足や、時期ごとの変化、そして困難性・課題の構造化という点で、分析の余地が残っていると考えられる。

そこで、本研究では、X市の小学校校長、小学校教諭及び中学校校長、中学校教諭4名に対してそれぞれインタビュー調査を行い、個人個人のこれまでの総合の実践内容を振り返ってもらいながら、「総合」の指導にあたって、小学校教諭や中学校教諭がどのような点に困難性や課題を感じているのかを具体的に明らかにし、困難性の構造化を試みた。

また、明らかにした困難性や課題に対して、教員養成段階で求められる取組も明らかにし、本学での実践方法の検討を行った。

## 2. 研究の対象と方法

本研究におけるデータの収集は、X市内で小学校教諭や中学校教諭として「総合」の指導、実践経験が豊富な4名(中学校校長A、中学校教諭B、小学校校長C、小学校教諭D)に対して、勤務校にて、一人一人への半構造化インタビューによる面接調査を実施した。

インタビューの対象には、X市教育委員会が優れた指導力を有すると認定した教諭や、「総合」につ

いて指導経験が豊富な教諭等、本研究目的、選定基準に合致する方を選定した。

調査にあたっては、研究の概要について文面を示し、口頭で説明して、文書による同意を得ている。なお、インタビューは2021年3月に行い、本稿の末尾に、インタビューガイドも掲載している(本学倫理審査を経て実施)。

インタビュー内容は許可を得て録音し、録音内容の文字起こしは業者へ委託した。文字起こしされたデータから、「総合」の実践における課題、困難性に関して語られている箇所を抜き出し、データの切片化とラベルの抽出を行った。

その後、本研究の共同研究者計3名で、教員4名分のカテゴリ及びサブカテゴリの抽出と、カテゴリの関連・構造化を行った。

なお、カテゴリの抽出、分析作業では、浦郷(2011)をはじめとした先行研究で示された課題や困難も参考とした。

## II. 分析の結果

### 1. 実践上の困難性の全体像

図1は、インタビューの結果抽出した「総合」の実践における困難性のカテゴリを構造化したものである。

図を見ながら、全体像の説明をしたい、まず「総合」の指導における教員の困難性・課題は、「総合」を実践する前提となる社会的背景、そして教員を取り巻く学校や地域環境といった〈I. 構造上の困難性〉と、次に、「総合」に関係なく、教員個人が勤務上抱えている〈II. 総合の指導時以外の困難性〉、最後に、教員が「総合」の実践を児童・生徒に指導する具体的な状況で直面する〈III. 総合の指導時の困難性〉の3つの領域に大別、整理できた。

また、カテゴリとして10カテゴリ、サブカテゴリとして47のカテゴリが抽出された。次節以降で、各領域内でのカテゴリ及びサブカテゴリの説明は行うため、本節ではカテゴリ同士の関係性について述べる。

まず「社会事情・国の施策」に関する困難性が、「学校」の困難性に影響を与える。また「社会事情・国の施策」に関する困難性と「学校」の困難性の両者は、教員個人が勤務上抱えている困難性である「準備時間」、「意欲・熱意」、「理解の度合い」といった困難性に影響を与える。「準備時間」、「意欲・熱意」、「理解の度合い」といった困難性は、「地域・保護者」に関する困難性(「教員と地域の関係性」

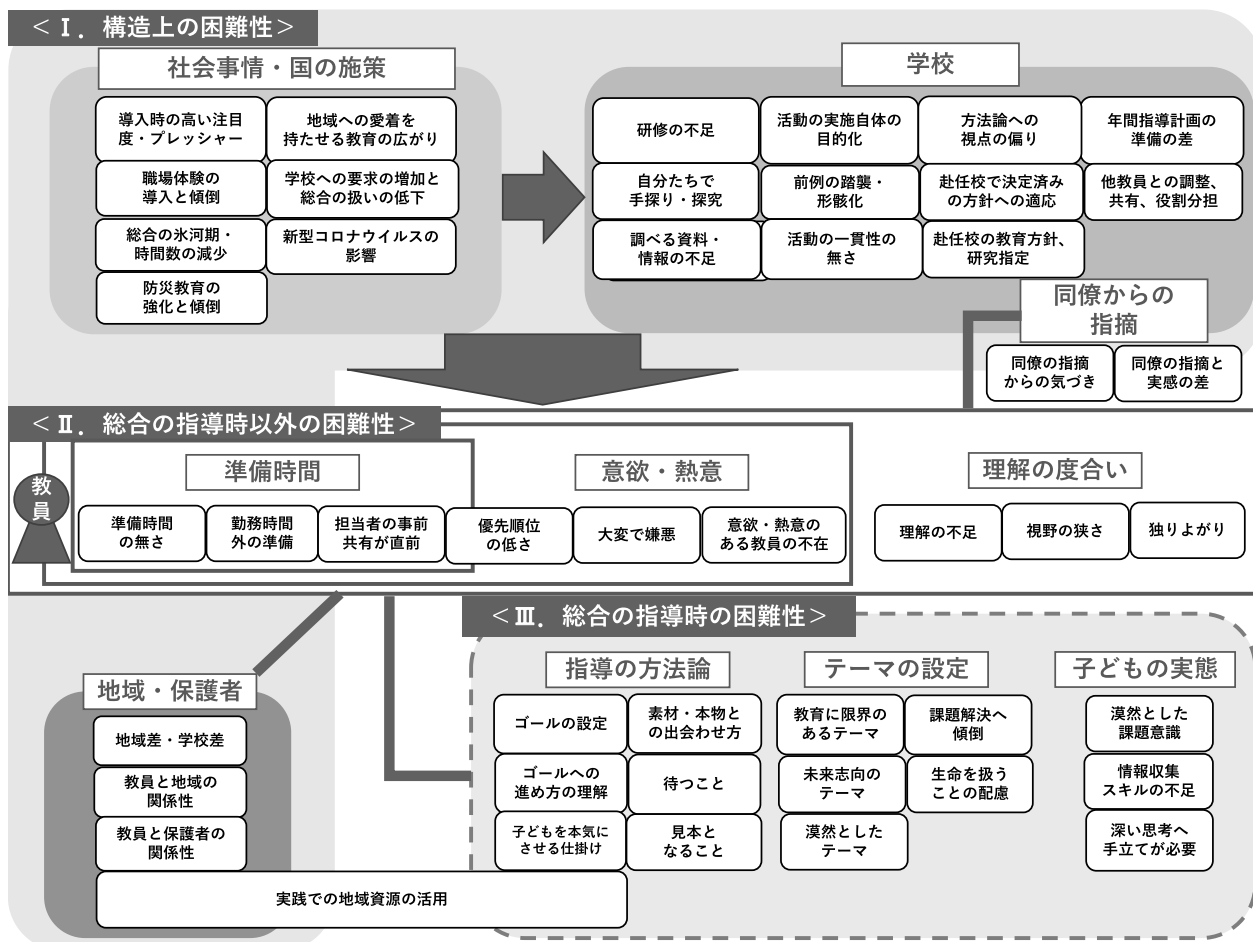


図1 「総合」の実践における困難性の構造

や「教員と保護者の関係性」、「地域差・学校差」、「実践での地域資源の活用」と関連している。

最後に、「指導の方法論」、「テーマの設定」、「子どもの実態」の困難性は、「準備時間」、「意欲・熱意」、「理解の度合い」とも関連しており、「同僚からの指摘」も、教員の「準備時間」、「意欲・熱意」、「理解の度合い」に影響を与えていることが明らかになった。次節からは、領域ごとに導き出されたカテゴリーとサブカテゴリーについて、特徴的なものを中心に説明を行う。

## 2. 構造上の困難性

### 1) 社会事情・国の施策

このカテゴリーは、社会的背景や国の施策といった構造が学校や教員個人に影響を与えている困難性である。以下の7つのサブカテゴリーで示される。

- (1) 導入時の高い注目度・プレッシャー
- (2) 職場体験の導入と傾倒
- (3) 総合の氷河期・時間数の減少
- (4) 防災教育の強化と傾倒
- (5) 地域への愛着を持たせる教育の広がり
- (6) 学校への要求の増加と総合の扱いの低下
- (7) 新型コロナウイルスの影響

まず、1998年の『学習指導要領』から導入された「総合」の注目度は高く、当時の学校や教員へプレッシャーを与えた。次のような語りからもわかる。

「これはほんとにやらないとまずいぞって感じで、鳴り物入りで始まりました。(中学校校長A)」

当時、学校の教員の多くは、特に研修もなく、何をすればいいのか、どうすればいいかわからない中で、自分たちで一生懸命、手探りで実践づくりを行っていた。つまり、教員たち自身が探究を行っていたのである。



しかし、PISA2003の結果を受けた「総合」への批判や、2008年の『学習指導要領』の改訂時の「総合」の時間数の減少といった動向が、教員の「総合」に対する「意欲・熱意」へ影響を与えていった。例えば、次のような声が聞かれた。

「研究会やっても人は来ませんでした。〇〇先生のおときは何千人とか何百人とかで、すごい、体育館で協議会をやったとき、私、お手伝いしてましたけど、私のときはほんとに教室で、端っこのほうにやられてて。(小学校教諭D)」

また、国や自治体の方針で2004年以降にキャリア教育、特に職場体験を5日間実施すること、2011年以降の防災教育の強化といった施策の中で、多くの学校で職場体験と防災教育へ「総合」が傾倒していった。次のような語りから、「楽な」方へ傾倒していった状況がわかる。

「防災も楽なんです。やること決まってるから。職場体験も楽なの。行く先、見つければいいから。だから、楽なことが2つできたので、もう楽なほうに流れて。(中学校校長A)」

その後も、地方の過疎化対策として、地域への愛着を育む教育の広がりや、ICTの活用やプログラミング等、他にも様々な内容が学校教育へ要求される中で、相対的に学校現場や教員の中の「総合」の位置づけが低下、周辺化する。

最近では、新型コロナウイルスの影響で、休校や当初の計画からの大幅な変更を求められる等の困難さが影響を与えている。

「去年の前半に関しては総合はできない状態という。もう、そもそも計画が全部。そもそも学校に来てないし。(中学校教諭B)」

このように、「社会事情・国の施策」に起因する困難性への視点は、教員の「総合」の実践それ自体の困難性の背後にあるものとして、把握しておくことが重要であろう。

## 2) 学校

このカテゴリーは、学校の状況、事情が「総合」の実践に影響を与えている困難性である。以下の11のサブカテゴリーで示される。

- (1) 研修の不足
- (2) 自分たちで手探り・探究
- (3) 調べる資料・情報の不足
- (4) 活動の実施自体の目的化
- (5) 前例の踏襲・形骸化
- (6) 活動の一貫性の無さ
- (7) 方法論への視点の偏り
- (8) 赴任校で決定済みの方針への適応
- (9) 赴任校の教育方針、研究指定
- (10) 年間指導計画の準備の差
- (11) 他教員との調整、共有、役割分担

(1)~(3)については、主に「総合」導入期の学校が抱えた困難性である。導入期には、まだインターネットの普及、利用状況も十分ではなく、子どもたちが調べるための情報が、オンライン上でも書籍でも不足している状況があった。

次に、現在の「学校」における課題で強調すべき点としては、まず、「活動の実施自体の目的化」が挙げられる。例えば次のような声がある。

「活動をやるのが一番になってるから全然、何だろう、子どもが置き去りにされるというか。(小学校教諭D)」

「かつて話題になったのが、『じゃあ、それをやって、どんな力をつけるんだ』っていうことです。子どもたちにどんな力をつけさせたいのかみたいな問題が話題になっていて、今でもそれを真剣に考えれば悩んだらうけど、あんまそういう話が出てこなくなって。(中学校校長A)」

上述したように、導入時は、教員自身も何もわからない中で、どのような取組をするべきかを探究し、その実践の意義についても同僚間で検討していた。

しかし近年では、その活動を行うこと自体が目的化し、その実践によって子どもたちにどのような意義があるのか、資質能力の向上に資するのかどうかについて検討がなされなくなってきたという。

また関連して、「前例の踏襲・形骸化」も見られるようだ。

「昔ちょっとやったから、それが遺産になって、そのままずっと繰り返しやられてるとか。ここ来たと

きは、〇〇やってねって言われて。結局前のをほんのちょっと修正しただけで。(小学校教諭D)

従来行われていたから、目的や意義について再検討が十分なされずに、活動を行うことが重視されている学校の状況が浮かび上がる。

また、教員が異動した際に、赴任校では既に実践方針、内容が決まっており、赴任校で継続して行われている「総合」の実践を、教員本人が体験したことがないにもかかわらず計画、実践していかなければならない困難さも明らかになった。

他にも、赴任校の校長の方針次第で、例えば学力向上を優先する校長の下では「総合」が周辺に置かれたり、何かのテーマで研究指定を受けている学校だと、その時間に「総合」が振り替えられたり等している状況も明らかになった。

最後に、他教員との調整、共有、役割分担という点で、「総合」は学年単位で活動を行っていくため、計画を早く他教員に共有し、他教員の不安感を取り除くかに配慮が必要となる点、皆が一緒にやらないといけない雰囲気や、柔軟性に支障がある点等も困難性として挙げられていた。

### 3) 同僚からの指摘

このカテゴリーは、同僚からの「総合」に対する指摘に関係した困難性を示している。2つのサブカテゴリーが導きだされた。

- (1) 同僚の指摘からの気づき
- (2) 同僚の指摘と実感の差

ここでは、例えば年間単元計画の甘さや、実践の意義や子どもの力量形成への視点不足、質の低い実践をした際の同僚からの叱責等が、教員本人にとって、打ちのめされる経験や壁となることが語られた。また、それが、

「一つ一つ言われることがもっともな話で、まだまだ考えが足りないよなんて思いましたね。(小学校校長C)」

と、気づきを与え、その後の実践の向上、成長へとつながっていることが明らかになった。また、

「『人と出会わせりゃいいってもんじゃないんだぞ』とかってよく言われたんですけど、でも、本物に会

わせるだけでも、子どもはすごいいろんなことを考えたり感じたりするんだなって。だから本物に出会わせるってことは、すごく大事なんだなって。(小学校教諭D)」

という語りにみられるように、同僚からの指摘と実感との間に差がある時もあり悩むこともあるが、自分自身の実践で、大事にしたい核が自覚化されることにもつながることも明らかになった。

### 4) 地域・保護者

このカテゴリーでは、地域・保護者に関する困難性が示されている。4つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 地域差・学校差
- (2) 教員と地域の関係性
- (3) 教員と保護者の関係性
- (4) 実践での地域資源の活用

まず、都市部や地方部等、地域によって、「地域教材」の見つけやすさ等に差があるという声や、「総合」への熱量に差があり、それが教員の実践での困難性にも構造的につながっているとの声が聞かれた。

「Y市なんかけっこう『総合』中心にやってるじゃないですか、学校づくり。だからやっぱり『総合』があれば、けっこう、正直、盛り上がるというか、いい実践もいっぱい出てくるのもあると思うんですけど、X市は、正直、そうじゃないので、やっぱり『総合』ってけっこう大変だと思います。(小学校教諭D)」

また教員と、保護者や地域との関係性の希薄化の状況や、自分の生活と勤務校のある地域を明確に線引きする教員、保護者に対して構える教員も増えてきているという。

そして赴任校のある地域への理解、関心の無さと、(後述する)教員の多忙化により、地域を知る余裕を失っていることも関係している。

上記のような教員と地域・保護者間の状況がある一方で、「総合」の実践では地域との連携や、地域資源の活用が重視されるため、地域資源の探索、確保や地域コーディネーターとの連携、そして、子どもたちが訪問可能な日程の調整等に関わる困難性も

明らかになった。

ここまで、教員が「総合」を実践する前提となる社会的背景、教員を取り巻く学校や地域環境といった〈Ⅰ. 構造上の困難性〉に関して述べてきた。

次に、「総合」に関係なく、教員個人が勤務上抱えている〈Ⅱ. 総合の指導時以外の困難性〉について述べていく。

### 3. 総合の指導時以外の困難性

#### 1) 準備時間

このカテゴリーは、「総合」の実践にあたって、その準備時間に関係する困難性である。次の4つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 準備時間の無さ
- (2) 勤務時間外の準備
- (3) 担当者の事前共有が直前
- (4) 優先順位の低さ

今回の調査で多く聞かれた困難性の一つは、教員が、時間的に、また精神的な意味でも余裕がないという点であった。また「単元設計や開発」、「地域の研究」、「単元開発」、「目の前の子どもたちに合わせて実践を修正」、「教員自身が調べてくる」こと等について、時間的な余裕も精神的な余裕もないということであった。

準備時間という点で、「総合」は、その導入期から、熱意をもって教員が取り組もうとすればするほど、勤務時間外での準備を伴う傾向があるようだ。導入期の生活について、次のような語りもある。

「毎日、朝3時に起きて作ってましたから。毎日、その当時、35歳から40歳のとき。子どもを寝かせて、3時に起きて。毎日ですよ。毎日やりました。それぐらいじゃないと成立しなかったんです。(中学校校長A)」

現在でも、地域コーディネーターの配置や、上述した活動内容の傾倒、固定化、形骸化の中で負担は軽減しているかもしれないが、質の高い実践を志向する場合には、大きく変わってはいない状況が、下記の語りから理解できる。

「通いましたもん。Z市まで。毎土日。行きに3時間かかって、帰りに3時間ですからね。大体2～3時間かかるから。(小学校教諭D)」

「学校の勤務時間内は絶対できないので。勤務外の時しかいろいろ、行けないので。(同)」

また学年単位で動く際に、主担当の教員が多忙化状況にあるため、

「当日の朝や前日に今日やる『総合』の内容が共有されていたりした。(中学校教諭B)」

等、担当者による他教員への事前共有が実践の直前となり、各教員が咀嚼したり、検討する余裕がなく、ただ与えられた活動と役回りを遂行するだけになっている状況も明らかになった。そのような、余裕が無い中で、『総合』の準備が後回しになる傾向もあるようだ。

#### 2) 意欲・熱意

このカテゴリーは、教員の意欲・熱意に関する困難性を示している。次の2つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 大変で嫌悪
- (2) 意欲・熱意のある教員の不在

教員の中で、「総合」は大変という意識や、単元計画の作成や地域素材を探す労力等から、「総合」への嫌悪感がある場合もあることが、明らかになった。

「先生方は、『総合って大変だよ』とかっていうのがあるので、そこを何とかして変えていきたいなどはずっと思っているんですけど、何か、なかなか難しいですよ。(小学校教諭D)」

関連して、上述した「準備時間の無さ」の背後には、「総合」に対して意欲・熱意のある教員の不在や不足があることも示唆されている。

地域差や付属校かそれ以外の学校か等の学校差はあるだろうが、多くの場合、頑張れる教員が各校一人いるかいないかの状況であるようだ。下記のような声も挙がっている。

「管理職が考えるか、それとも研究主任で、もうほんとに頑張ってやるかみたいな、頑張ってやれる人がいるかぐらいな感じ。(中学校校長A)」

遡ってみると、「総合」導入期には、「注目度の高さ・プレッシャー」等も関係しただろうが、勤務時間外に、それこそ寝る間を惜しんでの単元開発、準備や、教員たちも、何をすべきかを同僚たちを意見交換しながら、手間暇をかけて探究し、実践をつくっていた傾向がある。

現在では、もちろん、教員の多忙化は各種データから明らかであり、「総合」の実践の困難さの核の1つではあるだろう。

しかし、もしかすると、「準備時間の無さ」の背後には、教員自身の「総合」に対する意欲や熱意の低下があるのではないか。果たして、もし仮に、「準備する時間」の余裕が生まれたとして、教員は「総合」に意欲的・熱心に取り組めるであろうか。

### 3) 理解の度合い

このカテゴリーは、教員自身の「総合」に対する理解の度合いの困難性について示している。次の3つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 理解の不足
- (2) 視野の狭さ
- (3) 独りよがり

教員自身が、特に「総合」の導入期や、若手の時期を中心に、他科目の実践と「総合」が混同していたり、「何が正しいかってよく分からないまま進んでいたような気がする（中学校教諭B）」状況もあるようだ。

年間単元計画や、「総合」で身に着ける力への視点の不足、視野の狭さ等も「総合」の困難性につながり、子どもたちが主体的に探究していくことが「総合」の本質であるはずが、教員の意図や思いが子どもに十分に伝わらず、教員の思いだけで強引に進行してしまうこともあると語られていた。

これらは、総合についての理解の度合いが低いことに起因している。

もしかすると、「準備時間」の困難さの背後には「意欲・熱意」に関する課題、困難さがあり、「意欲・熱意」の困難さの背後には、総合に対する「理解の度合い」という困難さがある構造もあるのかもしれない。

次に、3つ目の領域である〈総合の指導時の困難性〉について述べる。

## 4. 総合の指導時の困難性

### 1) 指導の方法論

このカテゴリーは、教員が「総合」を指導する際にその方法論の面で課題、困難性を感じている内容である。下記の6つサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) ゴールの設定
- (2) ゴールへの進め方の理解
- (3) 子どもを本気にさせる仕掛け
- (4) 素材・本物との出会わせ方
- (5) 待つこと
- (6) 見本となること

例えば、児童生徒それぞれの関心、課題をある程度1つのゴールへと方向づけていくこと、ゴールイメージが漠然としている場合に、子どもたちと教員が納得した進め方が困難であること等が語られた。そしてゴールの設定と共に、そこに至るプロセスについても、様々な道筋、活動の想定もしておく必要があるようだ。

また、子どもが主体的に学習に参加するための動機付け、本気にさせる働きかけという点も課題や困難性として挙がっている。次のような語りがある。

「何かやるときに、本気に関わってなかったら、子どもは、例えば振り返りをさしても何にも、当たり前、『はい、楽しかったです』とか、それしか出ないんだけど、そこでいかに本気で関わらせるかと、事象とかと本気で関わらせるかっていうあたりをしっかりとやっていかないと駄目かなというふうに感じるので、そこは難しい。(小学校教諭D)」

また、地域素材や本物といかに出会わせるか、出会わせる必然性をいかに設計するかという点や、子どもの主体的な活動への働きかけとして、「待つこと」の難しさもあるようだ。

「今は、あえて子どもたちが『やりたい』って言うまで待ったほうがいいよねなんていうのは、やっぱりありましたね。若い頃は駄目でしたけど。もう、すぐやらないと、こっちも焦って全然駄目だったけど。(小学校校長C)」

最後に、子どもたちがある作業をするにあたって、教員自身が実際にやって見せることで、言葉の

指示だけでは理解できない具体的な活動イメージができるようになるという、教員自身が見本を見せる必要がある点も明らかになった。

## 2) テーマの設定

このカテゴリーは、「総合」で扱うテーマに関する困難性について示している。具体的には5つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 教育に限界のあるテーマ
- (2) 未来志向のテーマ
- (3) 漠然としたテーマ
- (4) 課題解決へ傾倒
- (5) 生命を扱うことの配慮

「教育に限界のあるテーマ」について、しばしば、社会問題の課題解決を教育に委ねられることがある。例えば、過疎化対策という点での地域への愛着を育む教育の実践についての語りがある。

「例えば過疎地の漁村で、愛着と誇りを学ぶような学習をものすごく一生懸命やると。『私は、この町で、この漁村で将来も働きたい。頑張って、町のため、村のために尽くしたい』と思いました。高校を卒業して残ろうと思ったけど、仕事がない。どんなに好きでも。(中学校校長A)」

このように、地域への愛着を育むことの効果には、教育の持つ限界性があり、むしろ、雇用、仕事の創出が教育よりも問題の改善・解決という意味で重要となるテーマもある。その限界性を認識しないテーマの設定は困難性を生む。

他にも、課題解決だけでないテーマの在り方や、例えば、豚を育てて出荷する実践について、

「やっぱり知識で分かってることと、こうやって自分で育てて出荷してしまったっていう実感っていうのは、やっぱり相当ギャップがあるんだけど、でもこれはまずいよねと思って。(小学校校長C)」

このように、生命を扱うテーマの際に、子どもの知識と実感との差に対する配慮や精神的なケアの対応が必要である点が困難性として語られている。

## 3) 子どもの実態

このカテゴリーは、子どもの実態に関する困難性

について示している。具体的には3つのサブカテゴリーが明らかになった。

- (1) 漠然とした課題意識
- (2) 情報収集スキルの不足
- (3) 深い思考へ手立てが必要

まず、漠然とした課題意識については、

「地域に出て何ができるのか課題を見つけてくるっていったときに、子どもたちのイメージが漠然とし過ぎて、そのイメージを具体化した課題研究みたいにするのが難しかった。(中学校教諭B)」

「子どもたちは漠然としてるわけなので、どこに行けば自分の欲しい内容とか調べたい内容が分かるのかってこと自体がまず分からない(中学校教諭B)」

等の語りの状況があり、教員からの働きかけが必要となるようである。また、深い思考へ手立てが必要な点についても、次のような語りがみられた。

「子どもに武器を持たせなければ、何か、深く考えられないんじゃないかなと。その武器を持たせるために、自分が実際やってみるとか、やっぱりどう、プロの、本物の人に会うとか、何かそういうことをしない限り、子どもたち自身が考えられないんだよというのがすごくある。(小学校教諭D)」

このような子どもの実態に合わせて、教員側から様々な働きかけをしていく困難さがあるようである。

以上、教員の抱える困難性について、3つの領域のカテゴリーとサブカテゴリーについて説明を行ってきた。

教員の抱える困難性には、構造上の困難性から目の前の子どもに対して総合を実践する際の困難性まで、複合的な困難性が関係しあっている状況が明らかになった。

次節では、これらの困難性も踏まえながら、教員養成段階において、どのような学習経験が必要であるのかを検討する。

## Ⅲ. 教員養成段階に求められる学習経験

### 1) 4名へのインタビュー結果

本研究のインタビュー対象である4名の教員の方々に、教員養成の段階において、大学でどのよう

な学習経験を積むことが望ましいのかを尋ね、語り  
を分析した結果、次の7つのカテゴリーが示され  
た。

- (1) 自分自身が探究する経験
- (2) 単元づくり
- (3) 専門教科、他分野とのつながり
- (4) 言語能力の向上
- (5) 情報収集、活用能力の向上
- (6) ICTの活用
- (7) 子どもの学び方への理解

教員の方々が、特に強調されていたのは「自分自  
身が探究する経験」を教員養成の段階（大学生  
活）において持つことの重要性である。

自分の課題をもち、課題解決を自分でできるよう  
になっておくことや、失敗してもいいから何かつ  
くってみること、そして関心に基づき、本物と出  
会うことが述べられていた。

つまり、子どもたちに探究の学習を指導するた  
めには、教員自身が、探究の経験、「特に面白い  
がら学ぶ」の経験や「課題解決といったプロセス」  
を経験していることが重要ということだ。

まして、採用されて働く学校現場には、本研  
究で明らかにしてきたような様々な困難性がある。  
「活動の実施自体が目的化」や「前例の踏襲・形  
骸化」といった実態もある。そのため、教員に  
なる前に、探究のプロセスやその醍醐味を体験  
することが、非常に重要となるようだ。

次に、重要な学習経験として、「単元づくり」  
の経験が挙げられる。これも、自分の関心のある  
テーマで単元をつくってみること、その際に地域  
探検、地域素材を活かした単元開発を試みるこ  
と、可能であれば、学校や教員に提案して評価  
を受けたり、学校と協力して実際に学校現場で  
実践してみる、といった語りが見られた。

他にも、「総合」という枠でくくらず、自分の  
専門教科と課題、「総合」のつながりを考えたり  
、他職種・他分野の視点で考える機会、言語能  
力や情報集・活用能力の向上等の学習経験が大  
切であるようだ。

そして最後の「子どもの学び方への理解」に  
ついては、

「きっとこの子は今、こんなふうに関心、考  
えてんだよね、だから今度、私たち次の時間  
こういうふう

な、次の一手こう打てるよね。（小学校校長C）」

というように、子どもの学び方の理解を踏ま  
えて、次の手立てを考えていくことから、子  
どもの学び方について理解を深めていくこと  
の必要性が述べられていた。

## 2) 本学の教職課程で検討すべき点

前節で示された教員養成段階での望ましい学  
習経験に照らして、本学の教員養成課程、教  
職科目「総合的な学習の時間の指導論」の内  
容を検討すると、現状では、8回の内容は、「  
総合」の意義や歴史、教育課程上の位置づ  
け、探究プロセスをはじめとした指導法、そ  
して様々な望ましい探究テーマの具体的事例  
を指導案と共に紹介する、といったものであ  
る。

インタビュー結果を踏まえると、探究的な  
学びの機会をいかに「総合」の時間、また  
は教職課程や大学教育の中で保障していく  
のが、最も重要であろう。

例えば、教職課程で探究的な学びを取り  
入れていくことの必要性は、複数の研究でも  
主張がなされ、一部の大学の教員養成課程  
では取り入れられている。苦野（2019）  
は、子どもたちの「探究」をサポートし、  
ガイドする、「共同探究者」「共同支援者」と  
しての教師になる必要性と、教員養成課程  
においても、プロジェクト型（探究型）へ  
と変革していくことを主張している<sup>12)</sup>。

一方で、教員養成大学ではない私立大学  
であり、「総合的な学習の時間の指導論」で  
200名近くの履修者がいる本学の事情から  
すると、コマ数を15回にした上で、探究  
する機会を授業内部に保障していくことや、  
卒業研究を始めとした、自身の問題関心  
に応じて探究し、アウトプットをしていく  
ような学習機会の充実を検討していくこと  
が現実的な1歩目であろう。

また「単元づくり」の機会についても、  
回数を増やすことで学習機会を保障した上  
で、地域探検や本物との出会いを経験し、  
地域素材を活かした単元計画を作成させる  
ことや、その単元計画を発表する際に、  
現職教員や実務家教員からのフィードバ  
ック等がもらえる機会を設けることは可能  
かもしれない。

「総合」の指導において教員には複合  
的な困難性がある中、教員養成段階にお  
いて、探究的な活動や単元づくりを中心  
とした学習機会を設けることが、「総合」  
についての「理解の度合い」や「意欲・熱

意]、「地域との関係性」へとつながり、困難性の改善の一助になるかもしれない。

#### IV. おわりに

本研究では、「総合」の指導にあたって、小学校教諭や中学校教諭がどのような点に困難性や課題を感じているのかをインタビュー調査から明らかにした。

教員の困難性は、〈Ⅰ. 構造上の困難性〉、〈Ⅱ. 総合の指導時以外の困難性〉、〈Ⅲ. 総合の指導時の困難性〉の3つの領域に大別され、10カテゴリーと47のサブカテゴリーが明らかになった。

また、それぞれの困難性は、複合的に関係しあっている。例えば、「総合」の導入時には社会的な注目度も高く、研修等も不足していたものの、各学校は自分たちなりに手探りで探究を行い、勤務時間外の準備時間等を前提としつつではあるが、特徴のある実践をつくる意欲・熱意もあった。

しかし、職場体験や防災教育をはじめとした学校への要求の増加と総合の扱いの低下等は、「学校」に「活動の実施自体の目的化」や「前例の踏襲・形骸化」、そして多忙化による「準備時間」の確保の困難性を生んだ。

また「準備時間の無さ」の声の背後には、教員の「意欲・熱意」、さらにその背後には、「理解の度合い」に関する困難さが影響を与えている可能性がある。

さらに「総合」が内包する指導の方法論の困難性、テーマの設定や子どもの実態への対応といった困難性も、教員の「意欲・熱意」をはじめとした困難性に関係し悪循環をしている側面もある。

本研究で明らかにした困難さに対して、教員養成においては、「自分自身が探究する経験」や、地域探検や地域素材を活用した「単元づくり」といった学習機会をいかに保障していくかが求められている。これらの実現が、教員の「総合」の指導上の困難性の改善につながる可能性がある。

今後、本学での教員養成課程や「総合的な学習の時間の指導論」内で、本研究で得られた知見の具体化を試みていきたい。

#### 謝辞

本研究を行うにあたり調査にご協力いただいた小学校、中学校教諭の皆様に深く感謝申し上げます。

#### 引用文献

- 1) 大学テキスト開発プロジェクト (村川雅弘ら): 総合的な学習の時間の指導法, 日本文教出版株式会社, 初版, 大阪, 14-17, 2018.
- 2) 中央教育審議会「平成30年10月1日教育課程部会資料『総合的な学習の時間の成果と課題について』」  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/\\_icsFiles/afildfile/2018/10/10/1409925\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/_icsFiles/afildfile/2018/10/10/1409925_4.pdf), 2021年9月16日確認)
- 3) 苫野一徳:「学校」をつくり直す, 河出書房新社, 初版, 東京, 102-120, 2019.
- 4) 中央教育審議会, 前掲.
- 5) 梶田英之:「総合的な学習の時間」の充実に向けた手立てに関する一考察—教員意識から見える課題をもとに, 比治山大学・比治山大学短期大学部教職課程研究, 6: 52-61, 2020.
- 6) 村井万寿夫: 総合的な学習における教師の力量形成に関する研究, 明星大学通信制大学院研究紀要, 2: 31-41, 2022.
- 7) 村井万寿夫: 総合的な学習の展開を阻害する要因についての検討 (1), 金沢星稜大学人間科学研究, 8, (2), 23-28, 2015.
- 8) 村井万寿夫: 総合的な学習の展開を阻害する要因についての検討 (2), 金沢星稜大学人間科学研究, 9, (1), 25-30, 2015.
- 9) 浦郷淳: 新指導要領における『総合的な学習の時間』の完全実施に向けた課題の明確化—佐賀県におけるアンケート結果から—, せいかつか&そうごう, 18, 104-111, 2011.
- 10) 谷尻治, 林真希: 「総合的な学習の時間」における探究的な学習の過程の適切な指導について—深い学びを実現するために, 和歌山大学教職大学院紀要: 学校教育実践研究, 4, 51-57, 2020.
- 11) 藤上真弓: 総合的な学習の時間を担う教師に求められる資質・能力の育成に関する研究: 教職志望学生・若手教師を対象とした研修プログラムの実践から, 東アジア研究, 19, 1-26, 2021.
- 12) 苫野一徳: 前掲, 226-238.

## 研究ノート

### 総合的な学習の時間の指導における小学校教諭及び中学校教諭の課題意識の変容に関する研究 インタビューガイド

実施場所：調査対象が勤務する市内の学校または勤務先

実施日時：2022年3月××日、所要時間：60分程度

インタビュー方法：下記の質問事項等を基にした半構造化インタビューを行う。ボイスレコーダーにより記録し、音声データはテープ起こしを行う。

質問事項：

1. 入職した年と在職年数について教えてください。(回答者の現在の職位も)
2. 入職された際に、既に勤務先では総合的な学習の時間の指導を求められましたか。
3. これまでに実践されてきた総合的な学習の時間の実践内容について教えてください。  
何年目の頃に、何年生に対して、どのようなテーマで、こういった実践をされましたか。
4. どうして、そのようなテーマで、そのような実践を行ってきたのですか。
5. これまで、総合的な学習の時間を構想、指導する際に、工夫してきた点がありますか。  
もしあれば、どのような工夫をされましたか。
6. これまで、総合的な学習の時間を構想、指導する際に、難しさを感じたことはありますか。  
もしあれば、どのような点ですか。
7. 在職年数に応じて、工夫している点や難しさを感じている点について変化はありますか。  
もしあれば、どのような点ですか。
8. 「探究的な学習プロセス」について、指導上の難しさを感じる点がありますか。  
もしあれば、どのような点ですか。
9. 地域との協働という点で、総合的な学習の時間の指導で難しさを感じる点がありますか。  
もしあれば、どのような点ですか。
10. 大学の教員養成課程において、総合的な学習の指導法を指導する上で学んでおいた方が良いと思うことはありますか。それはどのような点ですか。



## 健康栄養学科学生と地域小中学校との連携による実践研究などの取組

齋藤 トシ子<sup>1)</sup>・齊藤 公二<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 新潟医療福祉大学教授

<sup>2)</sup> 新潟市立光晴中学校

### 〈概要〉

筆者が永年にわたり行ってきた学生と地域小中学校との連携による実践研究などは、学生は、児童生徒の食及び食環境の実態と課題に気づくことができる、連携先担当者（栄養教諭など）は、目の前の児童生徒のエビデンスを得ることで、学校や地域の食育活動を具体的に推進することができるなど、双方にとってWin-Winの関係を構築できたのではないかと考える。本報告では、特に2018年以降に行った実践研究などの取組を紹介する。

### 〈キーワード〉

連携教育 実践研究 食育

## 1. はじめに

### 1. 本学と地域小中学校連携の背景

2007年度から2012年度は、新潟市立木崎小学校と連携させていただいた。きっかけは、新潟市立木崎小学校の校長先生が、直々に研究室にお見えになり、是非、大学と連携したいという申し出をいただいたことである。「子どもがつくる弁当の日」の支援を皮切りに、卒業研究に取組むこととなった。同時期に、新潟市立西特別支援学校とも連携をさせていただいた。連携のきっかけは、栄養教諭になった既卒生が、新卒後すぐに、特別支援学校に配属されたこと、東日本大震災時に特別支援児童への支援が後回しにされ問題となったことなどから、特別支援者に目を向けることの重要性を痛感したためである。筆者を含め特別支援の必要な児童生徒の状況は十分に理解していなかったため、参与観察による質的研究や教材研究などを行わせていただいた。その後、2018年度から2021年度は、筆者（齊藤公二：当学科の卒業生、栄養教諭）が在職していた新潟市立光晴中学校と連携し、実践研究などを実施した。

### 2. 実践研究について

日本教育心理学会の機関誌『教育心理学年報』において、市川は、日本教育心理学会誌は、実験や調査を行って得られたデータを統計的に解析するという、いわゆる学術的な方法論に基づく研究が大半を占め、日常的な教育実践を直接扱った研究や、授業や教材を開発して評価するという研究はほとんど掲

載されることがなかったこと、教育心理学が学問としての専門性や学術性を高めることは重要であるが、教育現場との結びつきという意味では、学会誌の現状に対して内外からの不満、批判が増大したこと、教育現場に直接関わる会員にとって、学会誌で得られる学術情報が、教育実践と直接関わるものであってほしいと思うのは当然であるし、自らの実践を研究論文として投稿したいという要求があること、教育実践研究は、大学や研究所における研究者にとっても、教育心理学を実践的なものにするための刺激となるはずのものであることなどから、日本教育心理学会では、教育心理学をより実践に即したものにするための議論や努力が続けられてきたことを報告している<sup>1)</sup>。さらに日本栄養学教育学会では、学会誌の原稿区分として、総説や原著に加え、教育実践研究（教育実践に基づく記述的研究論文とする。独創的教育法の実践、従来知見の実証、国外における教育方法の導入事例などが相当する。単なる事例報告ではなく、量的あるいは質的な評価・検証を行った研究論文であることが要件となる）が設けられており、本文の文字数は、総説及び原著と同数である<sup>2)</sup>。神馬は、PRECEDE-PROCEEDモデルで有名なローレンス・グリーン博士の言葉「If we want more evidence-based practice, we need more practice-based evidence」を、「エビデンスに基づいた実践」のための「実践に基づいたエビデンス」と表現<sup>3)</sup>している。これは「エビデンスに基づいた実践を望むのであれば、実践に基づいたエビ

デンスがもっと必要である」ということを意味しているのではないだろうか。このようなことから、現場の管理栄養士（栄養教諭）にとっては、実践に基づくエビデンス（いわゆる実践研究）の構築は、自身の日々の活動内容の評価、改善につながるとともに、栄養教諭の存在価値を認めてもらうためには必須である。学生にとっても、実践研究を栄養教諭と一緒に体験できることは、栄養教諭の活きた学びになることから、今後も引き続き、大学と学校の連携研究を推進していただきたい。

## II. 2018年以降の研究

2018～2021年度に新潟市立光晴中学校と連携して行った実践研究などの概要を報告する。

### 1. 2018年度

#### (1) テーマ

朝食内容が午前中の自覚症状および持続的集中力・知的作業能力におよぼす影響

#### (2) 目的

栄養バランスの異なる朝食を同一の生徒が摂取した場合、午前中の自覚症状（疲労感、集中力感、空腹感）、持続的集中力、知的作業能力は相違するのかを明らかにする。

#### (3) 方法

- ・対象  
新潟市立光晴中学校の1～3年生男女
- ・朝食内容【図1】  
たんぱく質、脂質、炭水化物エネルギー比  
バランス食：14：28：52（理想的な食）  
アンバランス食：8：8：86（高炭水化物食）



図1 バランス食（左）アンバランス食（右）

- ・自覚症状  
質問紙調査（VAS法）
- ・知的作業能力  
クレペリンテスト

- ・持続的集中力【図2】  
パソコンを用いた視覚による選択反応検査



図2 持続的集中力検査

#### (4) 結果

バランス食摂取日はアンバランス食摂取日に比べると、自覚症状（疲労・空腹・集中）は変化しなかったが、持続的集中力及び知的作業能力は、朝食摂取2時間後まで、いずれも有意（ $P < 0.01$ ）な高値を示した。

### 2. 2019年度

#### (1) テーマ

小学生への「防災食育」に関する効果の検討

#### (2) 目的

防災食育を実施し、「リュックに詰めておく非常食」および「非常食の組み合わせ（主食、主菜、副菜、乳製品、果物）」に関する知識、「自助」行動の一つである非常食の準備や調理に関する自己効力感の変化を比較し、今後の防災食育の一助にする。

（本研究は、2019年度新潟市の食に関する研究指定校（新潟市豊栄南小学校および新潟市立光晴中学校）における「防災をテーマとした研究事業」の一つとして行った。）

#### (3) 方法

- ・対象  
新潟市立豊栄南小学校の4～6年生男女
- ・食育の方法
  - ① オリジナルの防災トランプによる学習【図3、図4】
  - ② パッククッキング<sup>4)</sup>による学習【図5】  
パッククッキング：耐熱性のポリ袋に食材を入れ、袋のまま鍋で湯せんする調理方法

#### (4) 結果

学習後は学習前に比べると、全体でみると「リュックに詰めておく非常食」の知識、非常食の準備や調理に関する自己効力感は有意（ $P < 0.01$ ）

オリジナルトランプ (全53枚) 作成  
 (文章: 当科学生、絵: 新潟市立光晴中学校生徒)

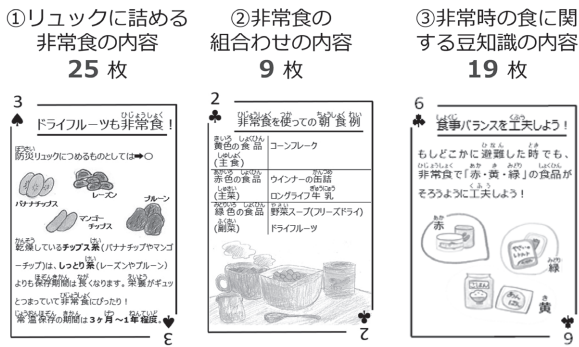


図3 オリジナルトランプ



図4 トランプ学習の様子



図5 パッククッキングの様子

に高まったが、「非常食の組み合わせ(主食、主菜、副菜、乳製品、果物)」に関する知識は変化しなかった。さらに、このような学習は、5~6年生にとっては効果的であったが、4年生にとっては、難しい学習であったことが示唆された。

### 3. 2020年度

#### (1) テーマ

中学生へのインターネット教育による調理学習の効果~一方向動画学習群と課題動画学習群の比較~

#### (2) 目的

調理方法を動画の手順に沿って学習する一方向の

動画学習者(一方向学習群)と調理方法に課題を見つけ問う学ぶ動画学習者(課題学習群)の教育効果を比較し、今後の動画教育の一助とする。(本研究は、家庭科教員とも連携し、家庭科の授業の一環として行った。)

### (3) 方法

#### ・対象

新潟市立光晴中学校の2年生

一方向学習群: 3組と4組の男女

課題学習群: 1組と2組の男女

#### ・動画作成

対象校の校長先生、家庭科教員、栄養教諭と連携し、以下4本の調理動画を作成し、YouTubeで配信した。

#### (パンサンスー)

一方向学習群用 <https://youtu.be/D1qHajVbGUs>

課題学習群用 <https://youtu.be/fTv4U7af0sc>

#### (豚のしょうが焼き)

一方向学習群用 <https://youtu.be/X8LdRABed8U>

課題学習群用 <https://youtu.be/woOUYfCuIB0>

#### (肉じゃが)

一方向学習群用 <https://youtu.be/0T3hUn2sr9E>

課題学習群用 <https://youtu.be/OUp4a8KWdkA>

#### (鮭のムニエル)

一方向学習群用 <https://youtu.be/FZYgHcVp6zQ>

課題学習群用 <https://youtu.be/hWlGqzK9Y>

#### ・調査内容

動画の視聴回数、役立った点、調理技術、調理への興味、保護者とのコミュニケーション、保護者の調理負担について、動画を見る前と後に、質問紙を用い、聴取した。

### (4) 結果

4種類全ての料理の動画の視聴回数は、平均2回であり、いずれの群にも差はみられなかった。調理技術は、いずれの群も学習後に向上したと回答した生徒が多かったが、両群を比較すると、一方向学習群は、課題学習群に比し、向上したと回答した生徒が多かった。一方、料理の楽しさを感じる生徒は、いずれの群も、終了後は減少したものの、保護者からは、生徒が手伝い、料理への関心を示すようになったという回答が得られた。調理動画は調理技術の向上には役立つが、調理の楽しさの向上にはつながらないことが示唆された。さらに、アクティブラーニングに結びつけるためには、『発問』の内容

やタイミング、『動画内容』のさらなる検討の重要性が示唆された。

#### 4. 2021年度

##### (1) テーマ

中学生の休日と平日における摂取食品群の相違

##### (2) 目的

「GIGAスクール構想：生徒一人一台タブレット」を活用し、摂取した食事を撮影する写真法をもとに、休日（給食なし日）と平日（給食あり日）の食生活について、食品多様性スコアである“食品群の合計数”及び“食品群の出現回数”の相違を比較する。

##### (3) 方法

###### ・対象

新潟市立光晴中学校の2、3年生男女

###### ・食事調査の日数

学校給食のない日（休日）と学校給食のある日（平日）、それぞれ非連続の3日間とした。

###### ・食事記録の方法

iPad（ロイロノートというアプリ）を用いて、1日に食べた全ての食事の写真を撮影するとともに、食事のメニュー名及び含まれている食品名の記録（朝食、昼食、夕食、間食別の記録）をもとに、食品群に分類した【図6】。

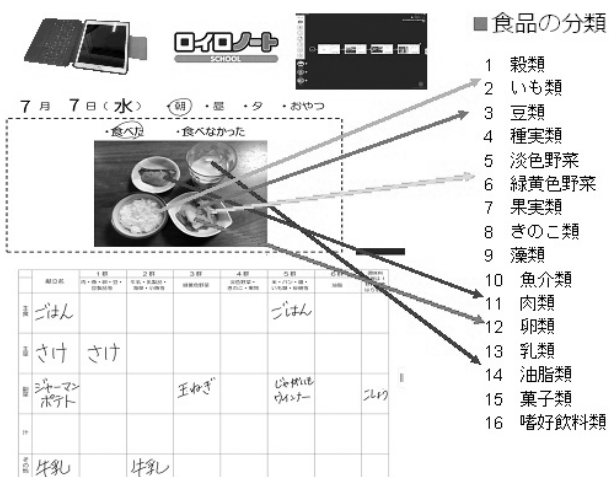


図6 食事の写真・記録・食品分類（例）

##### (4) 結果

休日（給食なし日）は平日（学校給食あり日）に比べ、1日の“食品群の合計数”は有意に少なく、“食品群の出現回数”も、果実群以外の13食品群全てが有意に少なく、特に豆類、いも類、野菜類、魚

類、卵類、乳類、きのこ類の出現回数が少なかった。特に昼食では、全対象者の1日の総食品数の中央値は、休日は5食品群、平日は10食品群と倍の相違が見られた。

### Ⅲ. おわりに

学生は栄養教諭と一緒に、研究計画の検討、研究計画書の作成、倫理審査委員会への提出、参加者への参加呼びかけ（同意の取得）、研究の実施、結果のまとめ、論文作成、結果のフィードバック（校長先生への報告、対象の児童生徒への個人結果表の返却、全体説明会の開催など）、学会発表などの一連のプロセスを体験することで、エビデンス構築の手法を学ぶとともに、専門職としての基礎力を培うことができたのではないかと考える。

2021年に実施した「中学生の休日と平日における摂取食品群の相違」は、2022年8月19～21日にパシフィコ横浜で開催されたアジア栄養士会議：The 8th Asian Congress of Dietetics でポスター発表をした。発表時には、日本の小中学校の先生のみならず、アメリカで会社経営をしている方も興味を示して下さるなど、多くの方々と意見交換をすることができた。

最後に、この4年間、このような貴重な研究ができたことに対し、対象校の校長先生、家庭科教員、担任教員の皆様、さらに健康栄養学科の渡辺優奈先生の多大なご尽力に、感謝を申し上げますとともに、新潟医療福祉大学の教職コース関連の先生方および学生の皆様のさらなる活躍を期待したい。

### 引用文献

- 1) 市川伸一：「実践研究」とはどのような研究をさすのか—論文例に対する教心研編集委員の評価の分析—, The Annual Report of Educational Psychology in Japan, 38 : 180-187, 1999.
- 2) 『日本栄養学教育学会雑誌』投稿規定 <https://www.dobun.co.jp/JANE/gakkaishi.html> (2022年7月19日最終閲覧)
- 3) 神馬征峰：「エビデンスに基づいた実践」のための「実践に基づいたエビデンス」, 日本健康教育学会誌, 20, 1-2, 2012.
- 4) 農林水産省, 時短にも非常時にも！パッククッキング <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/imadoki/imadoki01.html> (2022年7月21日最終閲覧)

# オンデマンド型講義における公正な評価を目指したオンライン定期試験の取り組み

## —教育心理学Ⅰ・Ⅱにおける工夫を題材として—

上田 純平

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

### 〈概要〉

メディア授業では授業そのものの実施方法のみならず、その評価方法にも工夫が必要とされる。オンライン上であっても正当な評価を行うためには、様々なアイデアが考えられる。本報告では、教育心理学Ⅰ・Ⅱにおける、2021年度のオンラインでの定期試験の取り組みについて報告する。

### 〈キーワード〉

教育心理学 オンライン 定期試験 公正な評価を目指した取り組み

## Ⅰ. はじめに

COVID-19の感染拡大により大学の講義は大きな変革を求められている。特に大学の授業運営に関しては3密（換気の悪い密閉空間、多くの人が密集、近距離での会話や発話）を回避することが求められるため、通常通りに定期試験を実施することが困難な状況である<sup>1)</sup>。

本報告では、2021年度オンデマンド型講義として実施された教育心理学Ⅰおよび教育心理学Ⅱについて、オンラインでの定期試験における公正な評価を目指した工夫を施した取り組みについて報告することを目的とする。

## Ⅱ. 講義の概要

### 1. 授業について

#### 1) 教育心理学Ⅰ (2021年度シラバスより一部改変)

##### (1) 授業の概要

教育心理学は、将来教職につく者にとって、教科指導、学級経営、生徒指導、適応指導等の実践活動の基盤となる学問領域である。教育心理学Ⅰでは、児童・生徒の心理的発達、学習過程、パーソナリティ等の基礎的な心理知識を学ぶ。なお、本講義はメディア授業（オンデマンド型）を用いて行う。

##### (2) 目的

教師として、幼児・児童・生徒の発達的特徴を踏まえながら効果的な指導を行なっていくための基礎的な心理知識を身につける。また、教育活動におけるさまざまな事象を理解したり、幼児・児童・生徒

との関わり的手段を考えていくための心理学的な知識、技能、態度を獲得する。

### (3) 学習目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を学び、発達段階に応じた指導教育のあり方を考えることができる。

心理学における「学習」の理論を理解し、幼児、児童及び生徒への指導教育や行動形成・行動変容の具体的方法を考案できる。

パーソナリティの諸理論を学び、児童生徒の社会的・対人的な適応を促す方策を考えることができる。

### (4) 授業計画

授業計画を表1に示した。

表1 教育心理学Ⅰのシラバス

| 講義回 | 内容              |
|-----|-----------------|
| 第1回 | 教育心理学とは         |
| 第2回 | 発達段階と心理的課題      |
| 第3回 | 学習理論            |
| 第4回 | 知能・記憶・動機づけ      |
| 第5回 | パーソナリティ理論と測定    |
| 第6回 | ストレスと不安         |
| 第7回 | 不適応（不登校、いじめ、非行） |
| 第8回 | 障がいの理解とまとめ      |

## 2) 教育心理学Ⅱ (2021年度シラバスより一部改変)

### (1) 授業の概要

教育心理学は、将来教職につく者にとって、教科指導、学級経営、生徒指導、適応指導等の実践活動の基盤となる学問領域である。教育心理学Ⅱでは、教育現場で生じる具体的な事例等を交えながら、心理的知識を応用・実践するための取り組みについて考察できるようにする。なお、本講義はメディア授業（オンデマンド型）を用いて行う。

### (2) 目的

教師として、幼児・児童・生徒の発達的特点を踏まえながら効果的な指導を行っていくための基礎的な心理知識を身につける。また、教育活動におけるさまざまな事象を理解したり、幼児・児童・生徒との関わりの手段を考えていくための心理学的な知識、技能、態度を獲得する。

### (3) 学習目標

教育現場における幼児、児童及び生徒の心身あるいは行動上の問題とその背景について考察できる。

幼児、児童及び生徒の心身の発達における外的・内的要因の相互作用を理解している。

幼児、児童及び生徒が個々の能力に応じて自発的に課題に取り組むような指導教育の工夫等を考えることができる。

### (4) 授業計画

授業計画を表2に示した。

表2 教育心理学Ⅱのシラバス

| 講義回 | 内容             |
|-----|----------------|
| 第1回 | 言語発達           |
| 第2回 | 学級集団           |
| 第3回 | 教育評価           |
| 第4回 | 欲求と葛藤、防衛機制     |
| 第5回 | 対人関係とコミュニケーション |
| 第6回 | 学校カウンセリング      |
| 第7回 | 学校を取り巻く諸問題とまとめ |

## 3. 履修者数

教育心理学Ⅰの履修者は、233名であった。また、教育心理学Ⅱの履修者は、235名であった。

## 4. オンデマンド型講義の流れ

前期科目として配置される教育心理学Ⅰおよび教育心理学Ⅱは、どちらもオンデマンド型講義として開講された。講義には、Learning Management System (以下、LMS) である「e-Campus」が用いられ、基本的に毎週1コマの講義がアップロードされた。受講生は、まずアップロードされた講義動画を視聴する。その後、LMS内に掲示された 구글フォームを媒体とした課題に取り組み、設定された期限内（講義公開から2週間）に提出することで1コマの講義の受講が完了する。各回の課題はシラバスに記載された通り、評価全体の30%に相当することとした。

## Ⅲ. 定期試験について

### 1. 定期試験での評価

#### 1) オンライン定期試験

教育心理学Ⅰおよび教育心理学Ⅱは、講義配信完了後にそれぞれ70%を定期試験によって評価することがシラバスに記載されている。そのため、70点満点となる選択肢式の問題を 구글フォームにて作成し、公開可能なURLを準備した。

定期試験は、Zoomによるオンラインミーティングを用いて実施された。受講生は定期試験開始時刻に入室し、カメラをオンにした状態で、事前に準備された 구글フォームの問題を解くことが求められた。そのため、スマートフォンやタブレット端末ではなく、マルチタスクが実行可能なPCが推奨された。

当日の通信状況による不具合などによって受験不可能になった場合は、追試として後日同形態の試験を実施することとした。

#### 2) 再試験

教育心理学Ⅰおよび教育心理学Ⅱともに、各回の課題提出点および定期試験の得点を合計しても60点に満たない場合は、再試験の対象者とする事とした。

再試験は、通常の定期試験と同じように対面式で大学内の講義室で実施された。そのため、再試験日の2週間前から健康観察アプリなどにおいて各自健康状態のチェックを行うことが求められた。再試験の詳細は定期試験前に掲示されたため、その時点では再試験の対象者が未確定である。そのため、受講者全員に徹底した健康観察が求められた。

なお、再試験実施日において体調不良等や新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に指定された場合

などは、再試験の追試験として後日再試験を実施することとした。

## 2. 定期試験の流れ

### 1) 事前の説明

定期試験の実施にあたっては、事前に受講生に対し定期試験の概要を説明したパワーポイントスライドならびにそれを解説した動画をLMS上にアップロードした。

**定期試験：7月30日（金）5限**  
 ※教育心理学Ⅰ・Ⅱは同日同時間帯に実施

- ・方法：オンライン試験・同時双方向
- ・必要なもの：カメラ付のパソコン、zoomアプリ、google フォームを開くことのできるブラウザ（Chromeなど）
- ・Zoomでカメラをオンにしたまま、googleフォームに掲載された問題を解く形式
- ・持ち込み不可
- ・カンニング等の不正行為は禁止

**注意事項**

- ・オンデマンドではなく、同時双方向なので注意
- ・なるべく自分のパソコンで受験すること
- ・あらかじめ自分の大学GmailアカウントでGoogleにログインしておくこと
- ・カメラをオンにして受験する
- ・通信環境に気をつける！通信環境に不安がある場合は、D棟2階・3階の教室で受験することを検討する
- ・なるべく周りに人がいない状況で受ける
- ・カンニング等の不正行為は禁止
- ・試験中は会話禁止（不正行為とみなします）

図1

### 2) 当日の流れ

定期試験当日、受講生は定期試験開始時刻までにZoomのオンラインミーティングルームに入室することが求められた。

定期試験の開始時刻には、試験監督者よりチャット機能を用いて問題が掲載されたグーグルフォームのURLが送信された。グーグルフォームの送信をもって20分間の定期試験の回答開始の合図とした。定期試験スケジュールの詳細は図2に示した。

**定期試験：7月30日（金）5限**  
 ※教育心理学Ⅰ・Ⅱは同日同時間帯に実施

**試験当日スケジュール（予定）**

- ・16時20分 集合
- ・16時30分 説明・連絡
- ・16時40分～16時45分 出席確認（①）
- ・16時50分～17時10分 教育心理学Ⅰ試験
- ・17時15分～17時35分 教育心理学Ⅱ試験
- ・17時40分～17時45分 出席確認（②）

※教育心理学Ⅰのみ、もしくは、教育心理学Ⅱのみ履修している方もこのスケジュールで試験を実施する予定です。

図2

なお、定期試験には試験実施者の他に1名の試験監督者がZoomに入室し、試験中の受講生の様子を監督した。

### 3. 定期試験実施のまとめと今後の課題

#### 1) 実施のまとめ

今回のオンライン定期試験では、約20名が何らかの不具合により追試験での受験となった。これは履修者の10%程度であり、試験は概ね適切に実施されたといえる。以下に発生したトラブルの概要を示す。

- ・インターネット接続状況による通信不良
- ・グーグルサービスへのログイン認証に関する予期せぬ不具合
- ・インターネットブラウザに関する不具合

また、オンライン定期試験では、明確な不正行為は確認されなかった。しかしながら、解答中に顔がフレームアウトしたり、迎りを見回したりするなどの行動は散見された。そのような行動に不正行為の意図はないと思われるが、公平な試験運営のためには今後改善が必要であると考えられる。

#### 2) 今後の課題

今回のオンライン定期試験では、大きく以下の2点の課題が残った。

- ・試験問題への解答に関する技術的な不具合
- ・不正行為の完全な防止

今回の定期試験では、受講生側のオンライン環境やPCの設定など、試験運営側では対処が難しい事象が多く挙げられた。これらを防ぐためには、事前の接続環境テストなど、試験前の事前準備が重要である可能性が考えられる。

不正行為の防止に関しても、不正行為に当たる行動の具体的なリストの提示を行い、事前の啓発が必要であると考えられる。また、今回は試験中に不正行為が疑われる受講生への注意に関しては、チャットで個別にテキストメッセージを送信するか、マイクによって全体に周知する方法しかとることができなかった。今後は、注意方法についても該当受講生以外への影響を最小限にするための検討が必要である。

### IV. おわりに

本報告では、オンデマンド型講義として開講された教育心理学Ⅰ・Ⅱにおける定期試験の実践を報告した。オンラインツールを使用した実施と、対面で



の通常型試験を組み合わせることによってコロナ禍でも定期試験を実施することが可能となった。

一方で、インターネット接続状況に起因する通信不良や、カンニングなどの不正行為の防止という点においては、改善点や解決すべき課題も山積している。今後は、アイトラッキングや指紋認識などの先進技術を用いて不正行為防止する<sup>2)</sup>ことも有益であろう。

長引くコロナ禍においては、今後もオンラインでの定期試験の在り方や試験運営のテクニカルな面について継続した検討が必要である。

### 引用文献

- 1) 犬飼佳吾・中村友哉：オンライン定期試験実施の実施方法に関する一考察，明治学院大学産業経済研究所研究所年報，37，61-69，2020.
- 2) 小方博之：オンライン試験における不正行為防止技術，日本テスト学会記念講演，<http://www.jartest.jp/pdf/14-3ogata.pdf>（2022年9月25日アクセス）2021.



## 教育実習報告

健康科学部 健康栄養学科 鈴木 渉太

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年6月7日(月)～18日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・配属学年：3年
- ・主な実習内容：授業観察、給食観察、研究授業、校長他教員講話など

### 2. 教育実習の詳細と反省

本実習では配属学級だけではなくすべての学年の授業を観察させていただいた。学級担任の先生方は質の高い学習課題を設定するために児童の言葉の中から課題に結び付く「語」を拾ってあげて「自分たちが考えた」と感じられる学習課題を設定していた。そうすることで児童の学びの意欲も高くなり、「まとめ」の質も高くなる感じた。そして、それを実現するために担任の先生は児童一人一人の進み具合を把握しており、児童のつぶやいた言葉を聞き逃すことなく拾い上げて、もう一度聞きなおしたり周りに広げてあげたり広い視野を持って対応していた。また、学年によって先生方の児童に対する接し方が異なった。児童の発達段階に沿った対話や個々の考えや個性等を考慮して授業を進めているように感じた。今日の前にいる児童に一番分かりやすい指導を日々考えていると思った。

栄養士から講話をしていただき、学校栄養士の業務全般ややりがい、連携について学ぶことができた。献立作成については新潟市の標準献立を使用しており、その中から児童の実態に適したものを選択し、より適したものになるように献立の一部を変更する必要があると分かった。また、「かむかむメニュー」など時期に応じた献立作成を行っていた。アレルギー対応では安全かつおいしい給食の提供のためにアレルギーを持つ児童の一人一人のデータを細かく管理しており、保護者と担任、養護教諭と密に連携をとって文書でも毎月同意をいただくなどしていた。また、栄養教諭として児童の喫食の様子を把握することがとても重要であるということは認識していても、他校と兼務しているためになかなか日々の様子を確認することが難しいということが分かった。そのため、児童のことを一番よく知っている担任の先生との連携はとても大事であると感じた。

校長先生からは実習の心構え、学校の運営等について講話いただいた。教頭先生からは服務勤務について、校内分掌について講話いただいた。給食主任からは食育・給食指導や食に関する年間指導計画について講話いただいた。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

研究授業では「よく噛むことの大切さ」という題材のもと、噛むことによりどんな良いことがあるかということを中心に授業を進めた。10分程度で給食を完食している児童もおり、噛む回数が少ないため、飲み込むように食べてしまっている様子が見られた。また、コロナ感染症の影響により黙食となるため早く食べ終わり友達と話したり遊んだりしたいと考えてしまっていることも原因のひとつと考えられた。事前に実態把握を行うために児童一人一人の噛む回数を数えた結果でも児童全員の噛む回数が少ないという結果が得られた。

実際行った授業では教材を通して児童が楽しんで取り組む様子や積極的に発言してくれる様子が見られ貴重な経験となった。しかし、児童が発言してくれた言葉を上手く拾ってあげることができず、児童の言葉で授業を進めることの難しさを感じた。そのため、児童の言葉を引き出す声かけや広い視野を持って一人一人の児童の様子を把握する力が必要だと感じた。

### 4. 実習を通じて学んだこと

#### 1) 栄養教諭の役割として重要だと思うこと

今回の実習では児童が給食をとても楽しみにしていることを改めて感じる事ができた。現場では児童が安心して給食を食べられるよう異物混入を防ぐため、食材をしっかりと洗うことや、使用した包丁が欠けていないか確かめるなど、一つ一つ確認作業を行っていた。また、食中毒を防ぐため、こまめに手洗いを行うなど衛生管理に気を付けることなど日々の意識が大切だと感じた。給食は、発達段階にある子どもたちの成長を支えるとても大切なものであり、栄養バランスだけでなく、味覚の発達にかかわる味付けや野菜の切り方など、一食ごとに色々なことを考えて作っている。そのため、必要な栄養価

や食べてほしい食材を意識して献立をたてて、何よりも美味しく作るということにこだわりを持って業務を行うことが重要だと感じた。

## 2) 栄養教諭に必要な能力と基本姿勢について

児童との関わりを積極的に行っていくことが必要だと感じた。学校における食育の推進は、栄養教諭が中心となって取り組まれることが必要であると同時に、児童に対する食に関する指導は各教科等の多様な領域において行われるべきものであるため、その学校の教職員が十分に連携・協力して、指導に関わらなければならないと考える。

また、全体計画を作成し実施していく上では、その学校の児童生徒の健康状態や運動活動等の実態を把握しておくことが必要となるため、栄養教諭は、養護教諭や保健体育の教諭、学級担任などの教職員との情報交換等を行い、その学校における食育推進の基本的な考え方と方向性を全体計画として示すことが重要だと感じた。

## 3) 今後の課題

実習を通して児童の言葉を拾い上げ、児童の言葉で授業を進めることの難しさを感じた。授業は児童との会話で行うということが自然にできるようになる必要があると感じた。また、今回の授業では基本的には一人で行ったが、実際の現場ではチームティーチングで行うことが多いため、担任の先生との連携をもっとできるようにコミュニケーションをしていく必要があると考える。また、栄養教諭は栄養のプロフェッショナルとして、児童のどんな疑問にも児童の発達段階に応じた指導ができるように、この一時間で何を伝えたいかを意識する必要があると感じた。また、給食管理は調理師、担任、養護教諭といった周りとの連携が欠かせない。栄養教諭としての役割を果たすためには給食室にこもるのではなく、積極的に周囲に関わっていく姿勢が大事であると思うので心掛けていきたい。

## 5. 3年生へのアドバイス

教育実習では、日誌や授業計画を作るのに忙しいとは思いますが、できるだけ多く子どもたちの様子に目を向けて、耳を傾けてほしいと思います。子どもたちは一人一人個性があってみんな考え方が違います。毎日一人一人になるべく声をかけて、お話をたくさんして、昼休みには遊んであげてください。そして、信頼関係を築くことがその後の授業につな

がると思います。私は実習で失敗をたくさんしました。しかし、そこから学んだことはたくさんありました。授業計画通りの授業にするのか。子どもたちの発言を中心に進める授業にするのか。どちらも間違いではないですし、失敗しても良いので、いい塩梅を見つけて全力で頑張ってください。

## 教育実習報告

健康科学部 健康栄養学科 高橋 羽海

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年6月7日(月)～18日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・配属学年：4年
- ・主な実習内容：研究授業、授業観察、給食指導、校長講話など

### 2. 教育実習の詳細と反省

配属学級の授業観察および研究授業観察を行った。すべての授業において導入時に児童の興味を引く内容になっていることや学習課題を児童と確認したり、児童に決めてもらったりと子どもの考えにズレを生む授業を観察することができた。導入で、児童の考えにズレを生じさせる工夫を行っており、児童の「なんで？」という発言に対し、「何がなんで？って思うの？」と教師が問うことで授業課題を確立していった。さらに「具体的に教えてくれる？」と教師が問うことにより、児童は伝えるための言葉を考えたり、自分の考えを噛み砕いて、伝えようとしていたり、そうすることで、自分の考えがさらに深まったりと工夫が見えた。児童が考えたり、教師が学習課題についての知識を教えたりして、その後にもう一度学習課題を確認し、教師がその答えは何かと児童に問うて、返ってきた答えをまとめにするという授業の流れであった。そのことから、導入でいかに児童の考えにズレを生じさせるかで、その後の授業展開や児童の深い知識、思考力に影響することを学んだ。また、グループ活動を通して、自主的に自分と他の人の意見交換を行い、グループ内で意見をまとめるのが非常に上手で、良い活動を行っていた。

実習中、給食指導を2日目から8日目までさせていただいた。この2日目から8日目の7日間で給食を食べる前、給食を食べる時、給食を食べ終わった後に関わる人について指導させていただいた。給食指導を楽しみにしてくれている児童が多数見られ、「先生、明日はどんな人なの～？」、「今まで先生が話してくれた人言えるよ！」と給食指導について話してくれる児童もいた。しかし、復習で今まで習ってきたものを紙に書いてくるよう伝え、書いてきてもらおうと、しっかり書いている人、何個かは書いて

いる子、わからないと書いてくる子と様々だった。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

給食の時間を観察し、児童の実態として、残食の多さが問題だと感じた。盛り付け時に少なめの人、普通の人と希望をとり、盛り付けをしたり、多くしたい人はおかわりをするようにしたりして、自分の食べられる量に調整することはできていた。しかし、「ごちそうさま」の後、残量を見ると、主食・主菜・副菜・汁物・牛乳とすべてにおいて残食があった。なかでも、魚と牛乳に関しては手付かずのまま残っているのが目立った。残している児童に理由を聞くと、「好きじゃないから。」と言っていた。このような実態から、給食が提供されることに対し、感謝の気持ちを再確認する必要があると感じ、担当授業のテーマを感謝の心にした。

指導教諭、栄養教諭に指導案を提出し、授業構成や教材の工夫等について修正箇所の提示やアドバイスをいただいた。その際、児童の実態から、目指す最後の子どもの姿をブラさないよう、指導案を修正した。また、決定した指導案を基に授業前リハーサルを行い、児童の反応を予想しながら、授業の細かい流れを確認していただいた。

授業を行い、その日の給食献立がキーマカレーだったこともあり残食は少なかった。大きく授業前と違うと感じたのは、牛乳である。担当学級は牛乳を飲まない児童が非常に多く、まったく手のついていない牛乳も4.5本は毎日必ずあるが、その日は、一口飲んだ牛乳が残っていたため、授業後の小さな変化を実感できた。

### 4. 実習を通じて学んだこと

#### 1) 栄養教諭の役割として重要だと思うこと

おいしく、安全な給食を提供することはもちろん、栄養価を考えながら、旬の野菜を取り入れることで、「今ってこの野菜が旬なんだ」と一つの学びにつなげることが重要だと感じた。また、その場に栄養教諭が居なくても、食育だよりでその日の給食に関わる内容を学ばせることができるため、様々な方法で児童に学ぶ機会を与えることも重要だと感じた。

授業に関しては、児童の実態把握を行うために学

級へ行き、できている点と改善すべき問題点を把握する。いくつかの改善すべき問題から、次の授業で扱う問題について決め、問題についての児童のズレをどこで、どうやって生じさせるかを考える。また、栄養教諭の専門性を授業にしっかり取り入れることや児童の質問に答えられるよう教材研究を細かく行い、どんな質問にも答えられるよう準備を行う重要性を学んだ。

## 2) 栄養教諭に必要な能力と基本姿勢について

その日の給食からどのように児童に学ばせるか、どのように興味を引き付けるかを柔軟に行う力が必要であると考えた。そのために、給食の時間はもちろん、授業時間や休み時間を使って児童の特性や学級の雰囲気や状況を把握する姿勢が重要になる。また、児童の実態を把握し、問題を抜粋し授業を行った後も、実態に変化があったかを把握し、授業の反省を活かし、さらに観察を行っていく必要がある。

栄養教諭の授業は担当学級の教諭なしでは行えないため、担当学級の教諭としっかりと連携をとり、児童の実態や特性を深く知った上で授業計画を行うことが大切であることを実習を通して学んだ。

## 3) 今後の課題

今回の実習で、初めに指導案を書いた時、導入の時の問いとして、「みんなは何を伝えたいですか?」という問いを書いた。しかし、佐藤栄養教諭より指導案を見ていただき、「児童は伝えたいと思っているかな?」と言われ、自分自らが「伝えたい」という言葉を最初に出していることが分かった。伝えたいと思わせる導入ではなく、児童より先に自分が言ってしまうため、児童が主体の授業になっていないことに気づいた。そのことから、児童が行いたいと自主的に言っていることをさせ、児童を主体的にする授業がどのようなものかを考えるようになった。しかし、まだ、何通りも児童の発言を予想する中で、それ以外のことができたらどうしようという不安があるため、そうならないような授業構成を無意識にしていないかを十分に注意し、指導案作成、授業実施をすることが今後の課題だと考える。

## 5. 3年生へのアドバイス

実習が近づくと不安が積もっていくと思います。私も授業を成功できるのか、子どもたちの前で失敗したらどうしようという気持ちでいっぱいでした。

た。ですが、実習を終えて言えることは一番大切なのは授業がしっかりできるかではなく、子どもたちと思いきり遊んで、向き合うことだと感じました。子どもたちと向き合うことで授業を始めると自分が思っていた以上に子どもたちが授業に食いついてくれました。指導案作成や日誌等、正直実習の中では一番教育実習が大変でした。しかし、一番楽しい実習でした。気持ちを前向きに頑張ってください。

## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 近 怜子

### 1. 実習の概要

- ・実習期間：2021年9月13日(月)～24日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・担当学年：5年生
- ・担当授業：国語、算数、体育、道徳

### 2. 教育実習の詳細と反省

まず、「生徒の発達や個性に対応して教員が行っていること」について述べる。

多くの学級では、約30人の児童が在籍しており、教師はその30人に対してきめ細やかな指導を心掛けていた。私が担当した学級は、反応がはっきりとしている児童が多く、教師としては授業が実施しやすかった。

特に、児童が「わかった」と「わからない」を表現することを躊躇していないと感じた。「わからない」と素直に言えることはとてもよいことであると感じた。なぜ、そのような児童に育っているのか。私は、担任教師が普段から児童一人一人に対してコミュニケーションをとることに力を注いでいるからだと考えた。

その担任教師の対応については、教職実践演習の佐藤裕紀先生の授業で見た映像とも重なる部分があったため、一部を紹介する。

- ・褒めるべき時は全員の前で褒め、間違いを指摘するときは個別（1対1）で対応する。
- ・児童のふざける行動に対しては、注意するだけではなく、時には無反応で対応する（言い返さない、議論する気はないという態度を示す）。
- ・児童が複数人でふざけている行為に対しては、特に2人目に対して指導する（1人目が無意識でも、2人目は故意である可能性が高いため）。
- ・児童には同じ土俵からではなく、1段上から接する意識をもつ（基本は常に毅然とした態度をとり、児童に要らぬ火を付けないことを心がける）。
- ・児童は子どもではなく、小さい大人なので、人対人として接するように意識する。
- ・教師が常に児童のことを考えている（児童の成長のために努力している）ことを理解させる。
- ・児童の行動だけではなく、内容を褒め、評価を忘れない。

上記のことは、すべてがサイクルのようにつながっている。また、規律も重んじられている。しかし、ただ厳しい、上から押さえつけているということではないところがすばらしいと考える。

実習では、毎日、「上手く授業を進めたい」と思っていた。教材研究や指導案作りのために努力もした。しかし、それに劣らず重要なのは、人として児童と向き合う人間力なのだと感じた。それをこれからどうやって伸ばしていくべきかとなると、まだよく分からない部分が多い。これからも考え続けていきたい。

次に「学校全体、教科全体で連携して教育に取り組むことの意義」についてである。

まず、教科担任制により、授業が充実していると感じた。国語や算数はもちろん、道徳に関しても学年の担任がローテーションで行っており、全員がすべての学級の児童と関わることができるようになっていた。そのため、小さなめごとや保護者対応についても、学年全体で取り組むことができていた。児童も、信頼できる存在としての教師が多いことで、安心して日常を過ごせているように感じた。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

私は、算数の「奇数と偶数」の授業を行った。児童にとって初めて学習する内容であったが、無意識のうちに「このくらいわかるでしょ」と思っている自分がいたという指摘を受けた。自分にとっては簡単と思える内容でも、児童からしてみたら偶数と奇数の概念は難しいということであった。児童が「わかる」という状態のとらえが甘かったと感じている。「これでわかってくれるだろう」ではなく、常に「どうしたらわかってくれるか」という一手、二手、児童の思考の先を読んで教師の手だてを工夫していく必要があった。それを考えるためには、どのようなことで児童がつまづくのかについて、想像を膨らませることが重要であると感じた。しかし、この想像力は簡単に身に付かない。児童の姿と事実を日々よく見て、そこから何がわかるのか。わかったことを教師の手だての見直しにどう生かしていくのか。見直したことがどのくらい児童一人一人の学習に生かされていたのか。などを日々地道に評価、改

善を繰り返さないとともに身に付くものではないこともよく理解できた。

#### 4. 実習を通じて学んだこと

大学卒業後、小学校教諭として働こうとしている私にとって、この実習は貴重な体験ばかりだった。中でも先に述べたように、児童同士のかかわりによって授業の充実度は変わる。しかし、児童同士がかかわりあう活動は教師の工夫によって大きく変わる。実際、自分の考えを発表するだけになってしまうことがあったり、4人グループでは一部の児童しか話していなかったりすることがあった。ただ、児童に対して「相談しましょう」と言うだけでは不十分であり、「何を話し合わせるのか」、「話し合わせるために必要な知識、観点などをどのように示すか」など工夫すべきことは沢山あることがよく分かった。教師である私がもっと成長する必要があることがよくわかった。そのためにも、日々人としての成長とかかわりを大事にして生活したいと思った。

#### 5. 3年生へのアドバイス

「中学校は3週間だったので、2週間なら余裕だろう」と仲間と励まし合ったことがあった。しかし、2週間だからこそ余裕がなく、2週間だからこそ大変な部分が多くあった。実習生の仲間と連携を取って協力して実習に挑むとよい。

また、皆さんの多くが教員採用試験後かつ卒論前の期間で、心が休まらないまま実習に臨むことになると思うが、実習のことだけに集中しても大丈夫である。世の中、だいたいどうにかなることが多い。教材研究と子どもたちに全力を注ぐ2週間にして、充実させてほしい。

他には、「これやりすぎかな」くらいの授業の準備や児童とのかかわりで、ちょうどよいと思う。こちらが全力で準備したものは、子どもたちも全力で楽しんでくれることが多い。

最後に、人にとことん頼ることをお勧めする。わからないことは誰にでもいいので聞いて、全力で他者から情報を吸収していくとよい。同じ学年の友人はもちろん、一緒の期間に実習をしている他大学の3年生や養護教諭の実習生、大学の先生、小特プログラムの先輩など、振り返ってみたら周りに味方がたくさんいた。本当に感謝している。

以上、たくさんの仲間と一緒に、頑張ってください。応援しています。

## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 高橋 秀

### 1. 実習の概要

- ・実習期間：2021年8月30日(月)～9月10日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・担当学年：4年生
- ・担当授業：体育、国語、算数、道徳

### 2. 教育実習の詳細と反省

実習は、4学年で行った。1学年10人程度の小規模学校であり、実習中にも、学年全体の仲の良さや地域の温かさを感じることでできる学校だった。早い段階で児童理解するために、子どもたちとの積極的なコミュニケーションが必要であるため、私の長所である明るさを発揮しながら、体を動かす活動を多く取り入れた。

その結果、私が担当した学年だけではなく、他学年の児童とも交流を深めることができた。そういった児童理解から、児童の日頃の心情変化や悩みなどを汲み取ることでできる教員になる必要があることを痛感した。

また、学校の規模、特色によって学校、児童、教育活動に違いがあることも実感した。どの学校も同じように教育活動を進めているように見えるが、教師の立場で取り組んでみるといろいろな違いが分かった。それは、私が学習ボランティアを経験していたことも大きかった。新潟市内でも地域や学校規模によって、類似する点もあれば、全く異なる点もある。教育実習を通して、これを実感できて良かった。教師になった時には、その学校、児童に合った「教育活動は何か?」「どう対応すればよいのか?」などについて考え、工夫していきたい。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

研究授業では、マット運動の開脚前転の授業を行った。多くの先生方にご参観いただき、非常に緊張感のある中で授業を行うことができた。放課後には、研究授業の協議会を行っていただき、多くの指導をいただいた。

私は、研究授業で場の工夫を行い、マットに段差を作り、前転に勢いをつけやすくすることで苦手な児童でも開脚前転ができるようにした。そして、児童にできるきっかけとなる動きの感じを習得させら

れるように意識した。

マットに段差を作るときには、ロイター板を用いて、その上にマットを置いて作るのが一般的な方法である。しかし、マットを置く方が準備が簡単であり、児童の運動の行い方にも影響がないと考え、敢えてマットを下に敷いて行った。しかし、実際行ってみると、児童にとってはマットの段差がひっかかるようになり、スムーズに回転しづらい状況を生み出してしまった。

工夫したことが裏目に出てしまうこと、それをカバーするのも簡単ではないことも学んだ。自分自身の教材研究の甘さを痛感した。

児童の学習や運動を妨げることはできるだけ避けなければならない。私自身がその運動種目の特性、一つ一つの技や動きのポイントをよく理解した上で、授業をより良くする工夫を粘り強く工夫していきたい。

### 4. 実習を通じて学んだこと

教育実習を通して、授業づくりや教材研究に積極的に取り組むだけではなく、児童理解が重要であることを実感した。そのために、児童との関わり方を意識して学ぶことができた。児童と距離を縮めながら、一定の距離を保ち、メリハリをもった接し方をすることが重要であることが分かった。しかし、言うのは簡単であるが、実際に行うことは簡単ではなかった。こうすればできるという方法がはっきりしていないし、児童一人一人に合わせた工夫をする必要がある。しかし、児童によって対応が違い過ぎるのもよくない。「方針は明確に、方法は多様に」ということがいかに難しいかがよく分かった。

授業づくりでの学びとしては、「既習事項からのアプローチ＝課題をつくる」を常に考えて取り組むことができた。前時の授業での学びを生かし、重要なポイントを再確認してから行うことによって、課題が明確になる。それが、深い学びにつながるため、既習事項に関する手立てや発問を常に考えることが必要だと感じた。

この発問ならうまくいこうと考えていた手立てや発問でも、実際は既習事項を生かしていなかったということがよくあった。また、いろいろなこと

を提示したり説明したりし過ぎて、時間が足りなくなることや児童が混乱してしまうこともあった。より効果的で効率的な手立てや場の工夫を精選することが必要だと実感することができた。

### 5. 3年生へのアドバイス

中学校の実習とは異なり、いくつもの授業を担当し、より多くの年齢層の児童と向き合っていかなくはならない。はじめは不安や緊張もあると思うが、まずは積極的に児童や先生方とコミュニケーションを取ることで、徐々にそういった気持ちも軽くなってくる。一人で考えすぎず、周りの先生方に勇気を出して話しかけると実習がより実のあるものになると思う。

毎日実習日誌や指導案に追われると思うが、終わったときの達成感や学びはすごく価値のあるものになる。2週間という短い期間ではあるが、全力で楽しみながら、頑張っしてほしい。寝不足が一番きついで、土日は計画的に指導案作成などを行い、寝溜めしたほうがよいと思う。疲れ切っているのは児童としっかり向き合えないし、考える力も出てこない。



## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 穴澤 沙也可

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年10月25日(月)～11月12日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内中学校
- ・担当学年：1年
- ・担当授業：武道(柔道)、道徳
- ・部活動等：陸上競技

### 2. 教育実習の詳細と反省

私は、中学1～3年生の武道の柔道の授業を担当した。柔道は大学の授業で5回のみ経験であり、専門外であったため、どのように指導すればよいか、学習指導案の内容はどうしたらよいか、課題の提示やお手本の示し方を考えるのがとても難しかった。

柔道では、体落としを実施したのだが、投げ技であるため、怖がる生徒や苦手意識が強い生徒が多かった。そこで、後ろ受け身と横受け身を確実に習得させることから始め、体落としも段階的に指導をし、少しずつステップアップさせていく授業を行った。また、授業のはじめに授業のポイントを説明することで一人ひとりがしっかりと目標を持ち、楽しみながら授業に取り組んでいる様子が見られた。その中で、できるようになることが増えていき、生徒自身が成長を実感できる授業を重ねるたびにどんどん積極的になっていく姿が見られた。

全体の授業を通して、生徒にとって適切な課題を提示すること、ポイントの説明がとても大切であり、授業内で生徒とコミュニケーションをとることの大切さを知ることができた。生徒が楽しく授業に取り組むことができるように教師の表情や振る舞いも重要である。

教師が一方的に指導をする授業では生徒自身の力は伸びにくいし、苦手意識も強くなるということが実習を通してよく分かった。教師自身もどんな授業でも楽しみながら授業を行い、その様子が生徒に伝わることで授業自体の雰囲気も良くなるなど感じたので専門外の単元や苦手な単元でも楽しむことが生徒に良い影響を与え、一番生徒の力になるなど実習を通して実感できた。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

研究授業は、武道の柔道であった。柔道の体落と

しを1年生で行った。研究授業の前にも何回か授業を行っていたので、少し慣れてから研究授業に取り組むことができた。しかし、学習指導案細案を作成しなければならず、私の実習が単元の途中からであったため、その点においても難しさがあった。

そのため、授業の準備をしっかりと行い、一週間前から教科書を熟読したり、担当の先生にどのように展開すればよいか等を質問したり、自分で過去の指導案等を調べて授業の流れや指導案について詳細に考えた。

さらに、私の研究授業が実技テストの前日の授業であったため、その内容に即した授業を展開した。研究授業までに体落としの練習を段階的に行ってきたのでテストと生徒のために体落としの練習時間を多く取れるよう努めた。テストの説明やポイントの説明、練習時間の確保、いかに生徒が動きの理解を深めてテストに望むことができるか等授業の展開の構成を考えるのが大変であった。そのため、当日までに何回もイメージトレーニングを行い、研究授業に備えた。

その結果、研究授業後の校長先生や担当の先生との反省会で良い評価をたくさん頂くことができた。改善点は、テストのことを意識しすぎてしまい、テストの評価をよくするための声かけはよくないという点が大きかった。それまでの授業の中で研究授業が一番良い授業を行うことができ、納得のいく授業を行うことができた。研究授業では準備の大切さや教材研究の重要性、そして一番は自分自身が授業を楽しみながら行うことが大切であると感じた。加えて、授業は生徒のための授業なので生徒が何を考え、どんな様子であるか、何ができて、何が理解しきれていないか等生徒とたくさんコミュニケーションをとることで気づけることも多く、コミュニケーションをとることは必要であると感じた。

### 4. 実習を通じて学んだこと

私が実習を通して学んだことは数えきれないくらいたくさんある。生徒理解について、生徒との関わり方、授業の構成や重要ポイント、学習指導案作成のポイント、指導や伝えることの難しさ、生徒に聞いてもらうための環境を作ることの難しさ、すべて

に関わる準備の大切さ、職員の方々や生徒とのコミュニケーションを取ることを大切にする等多くのことを学ぶことができた。その中で、余裕をもって準備をすることの大切さを一番実感した。学習指導案作成、教材研究等時間を見つけて取り組んだり、担当の先生に詳細に質問をする時間を自分で見つけて行動したりする等準備を余裕をもってすることで授業をすることへの心構えもできた。そこに加えて、反省、振り返りにおいて生徒の様子や授業の良かった点、改善点を具体的に考えて、担当の先生とのコミュニケーションを多くとることで、日々多くのことに気づき、成長することができた。

このように、これからの生活においても何事も余裕を持って取り組み、反省、振り返りを大切に常に学ぶ姿勢をもって頑張っていきたい。

### 5. 3年生へのアドバイス

3週間の教育実習は長いようで本当にあつという間に終わってしまう。その中で、より多く生徒や先生方とコミュニケーションをとり、日々多くの気づきに対してメモをとる癖をつけることは大切である。まずは、自分から積極的に学んでいく姿勢をもって欲しいと思う。見られているから頑張る、見られていないからやらないというわけではなく、どのような状況でもやるべきことをやり、積極的に取り組んでいけば必ず先生方はその姿に気づき、評価してくれる。これは生徒も同じで、生徒からの信頼も得ることができる。この経験は、教師だけでなく、どんな職業でも役立つ、自分の人生の財産になると思う。

実習に行く前や始まったばかりのころは不安で緊張の毎日かとは思いますが、実習をさせて頂いているということを忘れず、感謝の気持ちをもって実習に取り組んでいくことが大切であると思う。そのために、この実習を通して私が最も重要だと感じたのは、コミュニケーションをとることである。受け身の姿勢だと生徒も緊張しているため、仲を深めることができない。職員の方々も自分から関わりに行くことで、より多くのことを教えてくださる。そのため、自分から積極的にコミュニケーションをとりに行ってください。

教育実習を終えた後は達成感も大きいし、普段の生活ではできない貴重な3週間となることは間違いない。貴重な3週間である。日々学び、一日一日を大切に頑張っていきたい。

## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 紺野 琢也

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年5月31日(月)～6月18日(金)
- ・実習校：北海道札幌市内中学校
- ・担当学年：3年
- ・担当授業：体育、保健
- ・部活動等：なし

### 2. 教育実習の詳細と反省

私は母校の札幌市立中学校で3週間の教育実習を行った。私が在籍していた時とは異なり、生徒に一人一台タブレット端末が支給されており、その端末で課題を共有したりなどしていたので学びの環境がとても整っていると感じた。

大学で学んだことだけでなく現場でしか感じることでできない生徒の雰囲気や生徒との関り方、授業づくりの難しさや喜びを肌で感じることで学べる学びの場であると期待して教育実習に臨んだ。予想通り、本当に多くの学びがあった。

体育の授業を観察していく中で、教師が一人一人に目標を提示し、それを達成するために段階的な練習を工夫しているのが印象的であった。生徒が自分のフォームを撮影し、今の動きをどのように改善すればよいのかというポイントを一人一人に指導していた。

生徒も自分のフォームを見て考えたり、友達や教師からのアドバイスを参考に工夫を行ったりする姿があった。実技の授業は特に個人によって能力が異なるが、その点にしっかり対応した指導を行っていた。

この教師の姿をよいモデルとして、目指す授業、目指す生徒の姿を考え、その姿の実現のために教師のすべきことを工夫した。もちろん、簡単にうまくいくことはなく、実際に実現することの難しさがわかった。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

研究授業では、ソフトボールの授業を行った。担当のクラスは3年生だった。男子は比較的運動能力が高く、体を活発的に動かすことの得意な生徒が多かった。逆に、女子は苦手意識をもつ生徒が多く、あまり積極的に参加してくれる生徒は多くなかった。

さらに、今年から男女混合の授業になったこともあり、男女の運動能力の差が大きいなと感じた。生徒も男女を混ぜて授業を行うことに慣れていないため、どこかぎこちない感じがあった。難しいなと思ったが、まずは、研究授業の前までにキャッチボールなどを行い、守備の基礎となる技能がある程度身に付くようにした。

そして、研究授業では、先に身に付けた技能を生かし、連携した守備ができるための練習を行った。練習内容は、主に二塁に進塁するランナーをアウトにするために二塁手と遊撃手の連携が取れるものにした。

授業後の反省としては、班ごとに分かれてどのように行えば連携できるかということ話し合ってもらい発表してもらった場面の時に全員を立たせたまま行ってしまったことである。そのため、誰が発言しているのかがわかりにくくなり、発言している生徒に注目することなく聞き流す生徒が多くなってしまった。誰かが発言する時はみんなを座らせて発言している人に注目が集まり、みんなが聞く姿勢と意識をもたせることにより、生徒みんなの理解にも繋がる。基本的なことであるにもかかわらず、うっかりしていた。このような点を意識して行うことができれば、更に充実した展開が行うことができた。他の人がどんなことを考えているのかということも共有できる授業になったと思った。

### 4. 実習を通じて学んだこと

実習を通して、生徒にどのような言葉でどのような指示を出すのかということの大事さを学んだ。授業の説明場面において生徒が理解しやすくわかりやすい言葉で説明したり、指示を出したりすることができれば、生徒はしっかり動くことができ、運動量も確保できる。逆に、教師の説明が上手くできなかつた時は、生徒に伝わりきらずに説明時間が長くなり、運動量が確保できない。また、生徒一人一人の理解度にも違いがあり、理解している生徒は素早く行動してくれたが、理解していない生徒は行動が遅くなる場面などがあった。生徒全員が理解した上で授業を進めることの難しさを感じた。

実習の中で自分から積極的に生徒とコミュニケー

ションをとることで生徒の特徴を掴むことができる。これを授業に生かし、一人一人の生徒を授業の中で目立つ存在にしてあげたい。そのような工夫をすることで、普段注目を集めない生徒でもみんなの役に立てたなどと思えるような活動ができるような場面を設定することも大事だということが学べた。

今後、教師や指導者になった場合には、常に周りを見て指示を出しながら一人一人に対応できるようにしていきたいと思った。

### 5. 3年生へのアドバイス

3週間の実習を通じ感じたことは、生徒とのコミュニケーションをたくさん取ることが大事であることである。それは、実際に授業をする際にも自分が考えた指導案を淡々と行っても生徒みんなが理解してくれることは難しく、そのことを考えたとき、もっと生徒とコミュニケーションを取って、生徒一人一人の状況を理解し、個に応じた段階的な練習や技能に合わせた練習が行えることもあったのではないかと思った。自分から積極的にコミュニケーションを取れば生徒は寄ってきてくれると思うし、生徒とよい関係を築くことが授業で行えるようになると思う。

また、教師が緊張しすぎるとその緊張が生徒に伝わってしまい、生徒にも不安感を与えることに繋がるので、自分に自信をもって授業が行えるように心構えをしておくことも大事だと感じました。

教育実習は大変なことが多く、厳しいと感じるかもしれないが、3週間が終わった時にはもっと生徒と一緒にいたいと思ったり、達成感や充実感の溢れたものになり自分にとってプラスとなる経験になったりするので皆さんも全力を尽くして頑張ってください。

## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 大日向 史伎

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年5月31日(月)～6月18日(金)
- ・実習校：長野県内公立高等学校
- ・担当学年：2年
- ・担当授業：保健、サッカー、バレーボール、ソフトボール
- ・部活動等：硬式野球部

### 2. 教育実習の詳細と反省

教育実習は、教師がどのようにして授業を行っているかを理解し、それを自分がどの程度できるのか自覚するために教育実習をやっていたのだと思う。教育実習をやることで、教員になってからどうやっていけばいいのかもわかるようになり、どうやって授業を作っていけばいいのかがわかるようになる。

また、生徒との関わり方を理解するために行うという目的もあると思う。実習を始める前に、どのように生徒と接すればいいのかがあまりよくわからなかった。正直、自信もなかった。私も、実習が始まって教師として生徒と関わらなければいけないと思い、初めて生徒に挨拶するときに固すぎる挨拶をしてしまい、生徒と距離が少しできてしまった。

生徒との距離も縮めていくには、もっと自分自身のことも言っていかなければいけないと思った。教師と生徒の関係でやっていかなければいけないが、意識しすぎて生徒と関わってしまうと生徒も関わりにくそうになってしまうので、普通にしゃべるようにした方が良かった。

教育実習は、教師になるにあたってどのようにやっていけばいいのか、生徒と関わっていけばいいのかイメージするためにやっているのだとも思った。

教師は教える内容を熟知していないと生徒に上手くできる方法を伝えることができない。教材研究をしっかり行い、それぞれの競技の特性を理解していなければ生徒に応じた指導ができない。教材を理解していなければどのような指導をすればいいかわからないので、授業を作っていくのも難しくなってくる。指導をする上で、技術面で上達したことを実感させることも大事になってくるので、難しすぎて

しまうことをやるのもダメだと思った。難しすぎず簡単すぎないことをやるのが大変であった。授業の流れも考えて練習をしてゲームをしていかないといけないので、生徒を飽きさせないで授業を進めることが大変であった。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

研究授業は、普段行った授業と変わらず準備が大事だと思った。どのように授業を作っていくか考えていかなければいけない。生徒にどのようなことを考えてほしいか、伝えたい目的を考えてから授業を作るようにした。教科書通りに教えることも大事だが、生徒がその時間に勉強したことを身になる授業を行うことが大事だと思った。教科書通りにやってしまうと、生徒自身が考えて授業に臨まなくなってしまうので、生徒が考える時間が多くないといけない。教科書には載っていないこともやって細かく教えるようにした。教科書には細かく書かれているところもあれば、書かれていないところもあるので、自分で教えたいことを伝えられるように調べて授業をやらなければいけない。自分ばかりが喋ってしまうと生徒も飽きてしまうので、自分が喋るよりも生徒が活動している時間が多いうにしなければいけない。自分が話している時間が長い授業だと生徒も飽きて授業内容が入らないので終わってしまうので、生徒が考える時間が長い授業を作らなければいけない。

研究授業は1年生女子のソフトボールを行った。技能は高くないが、運動種目に関係なく積極的に取り組む生徒が多かった。キャッチボールとゴロ捕球及びフライキャッチの3点についてポイントを授業の初めに確認し、前時までの学びと身に付けた技能をゲームで活用することを重点とした授業を行った。

生徒は一生懸命ゲームをしていたので全体的にはよかった。しかし、日ごろしていないソフトボールであるので、キャッチする、投げるの技能はそう簡単に身に付かない。したがってゲームになると思うようにできない場面は少なくなかった。私の方で簡易なルールも工夫したが、さらなるルールの工夫も必要だった気もした。しかし、生徒はゲームを楽し

んでおり、その点は本当によかった。互いのミスも許容し合い、励まし合ってゲームを楽しんでいた。もっと教師として工夫して、この生徒たちがソフトボールを楽しめるように工夫したいと思った。

#### 4. 実習を通じて学んだこと

どのように自分の考えを伝えていくかを学んだ。授業は自分で作って行うのでどのようにやっていけばいいのか理解しているが、生徒はそれを知らない。自分で自分が指示を出して授業を進めていくがその時にどうやって生徒が理解しやすいように伝えるかが一番大変だった。

言葉だけで伝えようとするのには限界も感じる内容のものもあって難しかった。自分の教える競技の知識があれば、これでダメなら次はこれでやってみようとなるが、知識が少ないと伝えるときに大変だった。言葉だけだと難しいから動きも加えながら部分的に教えていくことで理解させることができた。一気にやってしまうと生徒も考えが追い付かなくなってしまうので、一つ一つ丁寧に教えることが大事だと思った。動きが難しいものであったら、動画や図を用いながら説明をしていくことで生徒がイメージをしながら説明を聞くことができるので良かった。

自分がわかっていることを相手に伝えるときに、自分の思っている言葉で伝えたとしても伝わることよりも伝わらないことの方が多いと思うので、相手に伝わる方法の工夫を増やしていかないといけないと思った。

#### 5. 3年生へのアドバイス

事前準備をしっかりとできていることが大事だと3週間の教育実習を通して感じた。余裕をもって指導案の準備が行えていればよい授業をやることができるし、スムーズに授業を進めていくことができた。逆に、準備がギリギリになって作った指導案の授業は全然上手くいかなかった。ギリギリで作ってしまっているのに、形にはなっているが、細かい点まで詰められていないので授業をやってみると上手くいかないことがほとんどであった。準備をしっかりとできていないと、説明にも困るし、間を詰めることもできなくなって進めたいようにできなくなってしまった。

事前準備がしっかりとできていれば授業もスムーズに進めることができた。指導案も考えて作ってあれば、頭にしっかり入っているので計画通りに授業を

進めることができる。内容も理解できているので、生徒に指導もしっかりできるし、説明も伝わりやすいようにできると思う。しっかりと準備していれば、余裕を持って授業を進めることもできるし、自信をもって授業を行える。それは実際に取り組んでみて実感できた。

準備がしっかりとできていないと自信を持ってないので、どうやればいいのか不安になりながらやるのでいい授業はできなかった。授業をやってみて、事前準備がいかんできているかですべてが決まることを実感したので、来年教育実習に行くときは準備をしっかり行ってから授業をやるとよい。

## 教育実習報告

健康科学部 健康スポーツ学科 唐橋 万結

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年5月31日(月)～6月18日(金)
- ・実習校：新潟県内公立高等学校
- ・担当学年：1年
- ・担当授業：保健体育
- ・部活動等：なし

### 2. 教育実習の詳細と反省

私は、教育実習の中で、体育科の教員だからこそ、見ることができる生徒の姿があることを知ることができた。体育では動きながら活動することが多くなるため、生徒同士の関係性が見えやすい。ここでわかったことは生徒指導など体育以外での指導に大変役に立つ。

また、体育は行動を起こさないと始められないため、生徒の自主性も求められる。そのため、どの生徒同士が仲が良いのか、関係に変化があったのかなど人間関係の変化にも気付くことができる教科であると感じた。また、表情や動きからも生徒の状況を推察することができる。担任以外の先生が生徒の変化に気づくこともあり、その点から、体育授業を通して生徒の問題を察知する役割が体育科教師にはあると感じた。

生徒にとって、体育教師は体育のプロという存在であり、実際に生徒からはそのような目で見られていることを感じた。そのため、運動が苦手な生徒にも、技能の向上を実感させて達成感をもたせること、得意な生徒に対してはより動きの精度を高めさせることなど、一人一人の生徒に合った指導を行う必要があることがよくわかった。単にその運動種目を行わせて評価するのでは、体育のプロではない。自分自身の技能の向上と共に、知識や実践の中での指導法などを勉強したり経験したりして積み重ねることが、専門性を高めるために必要な努力であると感じた。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

#### 1) 保健「水質汚濁・土壌汚染と健康」

授業はPowerPointを使用して行った。保健の授業を行うには、教科書の内容の何倍もの準備が必要なことを学んだ。保健では、他の教科で学んだこと

を復習させ、関連性があることに気付かせることも有効である。また、授業が面白くなる効果もある。私は保健の授業研究に多くの時間を割いた。特に、本で内容を深掘りできるような事実を勉強した。最近のニュースや事例などで身近なものとして生徒に学んでもらえるような話題も探した。風刺画やクイズなどで生徒の興味をそそりながら授業を進められるように心がけた。

教材や材料探しは十分に行えたが、その情報を整理して、スライドをうまく活用することは簡単ではない。それが課題であると感じた。画像やアニメーションの工夫の引き出しを増やしたい。さらに、生徒の心の動きを生かしてもっと理解を深めるような生徒との対話ができるようになりたいと思った。

#### 2) 体育「陸上競技(ハードル走)」

研究授業はハードル走を行った。大学の模擬授業でもハードルの授業を行ったが、実際に指導すると、指導の考え方が違うことに気づいた。

模擬授業の時には、「ハードルを速く走るために、抜き足をどのように動かしたらよいか」と動きにねらいを設定しながらも、足の形に執着してしまっていた。しかし、実際に実習での授業を検討していくうちに、それでは良くないことがわかった。ハードル走の最大の目的は「速く走ること」であり、きれいに走ることではない。その証拠に、足の形を意識させると動きがぎこちなくなり、うまく動けなくなる生徒もいた。

指導教諭と検討を繰り返すなかで、形を教えながらも「なぜそうするのか」、「どのように体を動かすのか」を教えることが良いという事がわかった。抜き足を例にすると、地面と平行、つま先は外というポイントがあり、それはハードルに当たってタイムロスをしないうえ、速く走るために低く跳び越すためであることを伝える。そして、抜き足を胸に速く引き付けるようにすることを教えた。見本を比較させ、考えさせながら学習すると生徒の動きの変化も大きかった。研究授業では、1台目までの走りに着目させた。「なぜ1台目までにスピードを上げるのか」を理解してもらえるように、生徒の良い動きと私の悪い動きを比較して考えることができるように

した。また、ラインカーで踏切の目安のラインを遠目にひいて、勢いよく走るとその位置から踏み切ることができることがわかるようにもした。このようにして、研究授業までに授業の目標設定の考え方を修正することができ、授業における教師の手だても整理することができた。

#### 4. 実習を通じて学んだこと

教職に対する考え方が良い意味で大きく変化した。控室が他の実習生とは異なり、体育教官室であったこともあり先生方を1日中観察でき、いつでも質問をしたり、話をしたりすることができた。そのおかげで、先生方の生活や、生徒の情報共有の様子など授業だけではわからない教師の姿を知ることができた。そのなかで、学校の教育における体育教師の役割を学んだ。活動の中で生徒の様子を観察して、問題を早期に発見すること、部活動を通して学級担任と連携した指導を行うこと、などが特に心に残った。

また、学級担任としての役割も学んだ。生徒と接する時間は少ないがその中で、学級の状態を把握して問題を察知することが必要である。生徒だけではなく保護者対応もする。それはとても大変で、苦勞が多いということを先生たちの様子から学んだ。全体への指導だけでなく、個人への対応も時間をかけなければならない。部活動も持つ場合、部活の指導の時間も削らなければならない可能性もある。自分がやりたいことだけでは教師は務まらないことがよくわかった。

実習中、高校で生活して、苦勞だけでなく高校教師のやりがいも知ることができた。1時間の中でも生徒の成長が見られ、授業の成果を実感させてくれた。また、生徒の明るさや元気なあいさつから自分自身も若返ったように感じられた。様々な個性をもつ生徒がいて、発言をさせたり考え方を書かせたりすると、自分自身にも新しい発見が得られる。3年生の生徒一人一人をよく見ていくと高校での成長を感じられることもわかった。このように、とても多くの教師の楽しさややりがいを感じられた実習になった。

#### 5. 3年生へのアドバイス

実習中は見学、授業、研究、指導案作成などやることが多く、本当に忙しいが、学べることもたくさんある。実際に授業をしてみても学ぶことが多く、毎日楽しいことが多い。しかし、学んだことを生かす

ためには教材研究が欠かせない。誰もが大学で学ぶこと以上に自分で勉強すると思う。授業の内容だけでなく安全管理を行うことや、計画を立てること、人にわかりやすく説明することなどが身に付いたと感じる。

私は結局、一番大切なことは生徒のやる気を引き出すことだと感じた。全体にだけでなく、一人一人に肯定的な声掛けとアドバイスができると、生徒がさらに頑張ってくれるようになって本当に嬉しかった。学校によって違いはあると思うが、3週間はとても充実していた。大変ですが頑張ってください。



## 養護実習報告

看護学部 看護学科 池上 悠

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年5月24日(月)～6月11日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・担当学年：5年生
- ・担当授業：特別活動(保健)
- ・主な実習内容：運動会、保健室来室者対応、救急処置、健康診断、学校環境衛生検査、授業参観、フッ化物洗口

### 2. 教育実習の詳細と反省

#### 1) 保健室来室者対応

保健室来室者対応では応急手当の実施や、問診の補助等を行いました。問診の過程において、児童に状況等を話してもらうことが健康教育につながるということを実感することができました。問診・応急手当をしながら児童に対して保健指導をすることはとても効果的な保健指導であるということを知ることができました。

#### 2) 健康診断

健康診断では、聴力検査の実施、内科検診・心臓検診・耳鼻科検診の補助をさせていただきました。健康診断をスムーズに行うために、必要物品の準備や学校医等が使用しやすい配置にする等の調整等が必要であるということを知ることができました。また、この調整をするには十分な打ち合わせが必要であるということも学ぶことができました。

#### 3) 児童との関わり

保健室での児童との関わりでは、児童の話をしっかり聞く姿勢、児童にとって最善の方法を取ること、関わりの中での些細な変化に気が付くこと等が重要であるということを知ることができました。特に、些細な変化に気が付くことは、今後の教育活動に大きく影響することがあるため、些細な変化を見逃さず、すぐに対応することが重要であると感じました。また、日頃から挨拶等で声をかけ、コミュニケーションを取るとは信頼関係を構築していく重要なツールになるということをもっと感じることができました。

#### 4) 教職員との連携・情報共有

児童との関わりの中で気になること、変化がみられたことを学級担任やその他関係職員に情報共有をしておくことで、その児童についてより注意深く観察することができ、早期に対応することができると、重要であると学ぶことができました。

#### 5) 保護者との連携・情報共有

養護教諭・学級担任等が見つけた些細な変化や児童について心配していること等を、保護者に情報共有することは、保護者との信頼関係を構築していく上で重要であり、また、保護者も教員に相談しやすい関係を作ることができるということを知ることができました。また、必要な児童に対して定期的に養護教諭を含めた面談を行うことは、児童にとって効果的な支援等を行うことができるということを知ることができました。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

担当したクラスでは、先生が話をしているもタブレットから目を離せないという児童が多数いたため、保健教育では「メディアとの付き合い方」について授業を行いました。授業を行うにあたって工夫したことは、①自身の生活と結びつけられるようにすること、②各家庭の事情(習い事等)も考慮した上でメディアとの付き合い方について考えられるようにすること、の2つです。授業を実施してみて、授業を行う前の事前準備として、児童の実態(何時に寝ているか、一日どのくらいゲームをするか等)について把握しておくことが大切であると感じました。また、導入部分で児童の心をつかむにはどうしたらよいか、をよく考えることが重要であると学ぶことができました。クラスの実態が児童に分かるようにグラフにして提示したりして、児童が自分事として捉えられるようにすることが重要であると学ぶことができました。

### 4. 実習を通して学んだこと

日頃から健康観察や関わりを通して児童の様子を把握し、信頼関係を構築しておくことが大切であるということを知ることができました。また、信頼関

係を構築するツールとして、コミュニケーションを取ることがとても重要であり、児童の言葉に耳を傾けることが大切であると学びました。

保健教育では、児童の発達段階や個別性に応じた指導が必要であり、集団指導と個別指導を使い分けて指導を行うことは、とても効果的な保健教育を実施することができるかと学ぶことができました。

養護教諭は学校に1人しかいないため、学級担任や管理職等、他の教職員との連携が欠かせないと学びました。他の教職員と連携するためには、日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を構築しておくことが重要であると学びました。また、時には教職員の相談に乗る等、児童の相談のみならず、教職員にとっての心の支えになることもあるということも学ぶことができました。

児童について、「あれ？」と違和感を感じることはありませんでしたが、意外とこの違和感は当たっているということを実感する場面が何度かありました。違和感を感じた時に学級担任に話してみたり、保護者に家での様子を聞いたりして、情報収集をすることは実はとても大切であるということも学ぶことができました。

### 5. 3年生へのアドバイス

教育実習初日はとても緊張すると思います。私も初日は緊張して上手く児童と話することができませんでしたが、先生方や児童は優しく、積極的に話しかけてくれます。怖がらずに笑顔で話したり、挨拶をすると話してくれたりするので、ぜひ自分から積極的に児童に声をかけるといいと思います。実習中分からないや不安なことがあったら積極的に質問することが大切だと私は思います。

## 養護実習報告

看護学部 看護学科 鈴木 里彩

### 1. 実習概要

- ・実習期間：2021年5月24日(月)～6月11日(金)
- ・実習校：新潟県新潟市内小学校
- ・担当学年：4年生
- ・担当授業：特別活動(保健)
- ・主な実習内容：授業参観、健康診断の見学・補助、救急処置等

### 2. 教育実習の詳細と反省

#### 1) 健康診断

聴力検査の見学と歯科検診の補助をさせていただいた。健康診断をスムーズで正確に実施するためには、児童の発達段階に合わせた声かけが重要であることを学んだ。また、学級担任と連携し、事前に児童へ健康診断の大切さと実施方法を理解してもらうことで、より円滑に実施できるだけでなく、児童が自分たちの健康に対する意識を高める機会につながることを学んだ。

#### 2) 救急処置

救急処置の実際を見学・実施させていただいた。低学年の児童けがをした際、症状やけがの経緯等を書いた紙を児童に持たせ学級担任に渡してもらっており、学級担任に確実かつ正確に連携するための工夫を見ることができた。また、身体的な不調で保健室に来室してきた場合でも、心理的な部分に関係していないかを念頭において対応することの大切さも学んだ。

#### 3) 学校行事前の保健指導

女子児童への修学旅行前の保健指導を見学させていただいた。性に関することは児童同士の関係にも影響する可能性もあるため、プライバシーに十分配慮しつつ、「違って当たり前」という一貫した態度で、時には強制的な指導も重要であることを学んだ。

### 3. 研究授業の概要と工夫・反省

#### 1) 概要

「コロナ予防のために洗い残しのない手洗いをするにはどうすれば良いのだろうか」というテーマで保健指導を行った。まず、自分の普段の手洗いを振

り返らせ、「手にバイ菌が付着したまま生活するとどうなるか」、「手のどの部分にバイ菌が残りやすいのか」を動画で確認した。次に洗い残しのない手洗いをするにはどこに気を付けて洗ったら良いのかを考えさせ、最後に洗い残しのない手洗いを練習した。児童の実践力を高めるように配慮した。

#### 2) 工夫

導入部分では、給食前に手洗いをしていた児童の数と、その児童の中の洗い残しのある手洗いのを劇で示すことで、問題意識を持ちやすくする工夫をした。また、課題について児童に出してもらった言葉で設定することで、より関心を高めてえるようにした。さらに、ワークシートは、児童が記入しやすいように、罫線を引くだけでなく、四角で囲む等、発達段階を考慮して作成した。

#### 3) 反省

反省点は大きく2つある。1つ目は、課題を抽象的な表現で示してしまったことだ。児童の「すみずみまで」等の発言を聞き逃してしまい、課題を「きちんと」という抽象的な言葉で示してしまった。その結果、「きちんとした手洗いができるようにしたい」等の抽象的な振り返りをしていた児童が多くみられた。今後は、児童たちの言葉を聞き逃さず、何を指すのかが明確であり、また、児童たちが振り返りやすい課題設定に導けるようにしたい。

2つ目は、児童の考える機会を多く作れなかったことだ。児童たちの発言に対し「正解」と返したことで、自分とその児童との間で終わらせてしまった場面があった。正解であっても、他の児童に意見を聞いたり、学級全体に「どう思う？」と問いかけることで、全体性を持たせる等の改善が必要だった。1人の児童が発した言葉からも他の児童が考える機会につなげ、学級の全体が常に授業に参加している感覚をもたせるようにしたい。

#### 4. 実習を通して学んだこと

養護教諭が保健室にいない状態をできるだけつくりたくないようにする大切さを学んできました。学校では突発的なことも多く、例えば嘔吐処理で養護教諭

が呼ばれる等、実際には難しい場面もあることを実習で体験した。養護教諭は一人職務であることが多いため、養護教諭が保健室を空けないことがいかに大切であるかを学校全体で理解してもらうことが重要であると改めて感じた。また、健康観察や健康診断でも、それらの学校保健活動の重要性を感じてもらえているか否かによって学校保健活動に対するとらえ方にギャップが生まれることもあるかもしれないと思った。養護教諭が意識的に他の教職員へ保健活動の大切さを場面をとらえて日頃から周知ことや、日頃からの情報共有や関係づくりをすることの大切さを実際の学校での場面から改めて学んだ。

### 5. 3年生へのアドバイス

3週間の実習は長いと感じるかもしれませんが、子どもたちとの関係性ができてくると、楽しくなってきます。最終週の3週目には「あと1週間（実習に）行きたい!」と思えてくるでしょう。そして、実習中は、先生方や子どもたちに自分からいろんな質問をしながら実習をすると良いと思います。

## 教員採用試験受験報告

健康科学部 健康栄養学科 山田 日菜子

### I. 教員を目指した理由・きっかけ

私が教員を目指したきっかけは私の両親が教員であるということが大きいです。身近に教員である両親がいることで子どもに対する教育の楽しさや、やりがいについて知り教員に対する興味が湧きました。同時に私は食べるのが大好きで食への興味もありました。私は興味を持ったこの2つができる栄養教諭になりたいと思いました。

### II. 大学時代に力を注いだこと

大学時代には多くの人と関わることに力を注ぎました。大学時代という時間に余裕がある中で勉強の次に経験が大切だと思ったからです。多くの人と関わることで様々な年代の人との接し方であったり、新しい考え方を知ることができました。

### III. 学習の進め方（時期、教材、方法、場所）

私は就職活動と並行して教員採用試験の勉強を4月から始めました。4月からは1次試験の勉強を、2次試験の面接練習は1次試験が終わり次第始めました。1次試験の勉強は市販されている参考書を使って重要な部分をおさえました。2次試験の面接を大学で他の先輩と一緒に練習しました。先輩の受け答えを参考にしながら練習することができたのでとても勉強になりました。

### IV. 気分転換

私は飲食店のアルバイトが気分転換になりました。私は教員採用試験に向けて勉強をしたり、面接練習をしたりしていると体を動かしたくなりました。そういう時に飲食店のアルバイトで体を動かし、多くの人と会話をすることでとてもリフレッシュすることができました。

### V. 採用試験合格に向けて、勉強以外に行ってきたこと

私は教員採用試験と並行して就職活動もしていました。就職活動をしていてよかったことは面接に慣れたことです。面接では知識も大切だと思いますが、想定外の質問に柔軟に答えられる練習も必要だと思いました。面接は知識だけでは乗り越えられな

いこともあるので場数を踏むという点では他の面接を受けてみるのもよい経験だと思います。

### VI. 試験までに「やっておいてよかった」、「やっておけばよかったこと」

各自治体の過去問をもっと確認しておけばよかったと思います。形式や点数の配分等は要項を見て確認することができる部分もありますが、過去問を見ることでより本番の試験をイメージしやすくなると思います。

### VII. 試験当日の雰囲気と自らの心理状況、焦ったこと

1次試験の当日は筆記試験なのであまり緊張はしませんでした。これまで勉強してきた知識を信じて試験に臨みました。

2次試験の面接の開始時に1度マスクを外して顔を見せるタイミングがあったのですが1回目の面接で私は緊張してマスクを外さずに椅子に座ってしまいました。マスクを外すことを促された時は少し焦りました。しかし、面接が始まれば自分の考えを伝えることが楽しくなり両方の面接を無事終えることができました。

### VIII. 後輩へのアドバイス

自分が何で栄養教諭になりたいのか、栄養教諭になったらどんなことをしたいのか「自分の軸」を持つことが大切だと思います。自分の軸を大切に持っていれば多少不安はあると思いますが、教員採用試験に堂々と向かえることができると思います。

## 教員採用試験受験報告

健康科学部 健康スポーツ学科 野崎 駿

### I. 教員を目指した理由・きっかけ

私が教員を目指したきっかけは中学校の3年間を受け持っていたいただいた担任の先生との出会いです。その先生は生徒一人一人に親身になって接していて、学級全員が慕っている先生でした。教員という仕事を楽しそうにしていることや、教育や研究に熱心な姿に憧れ教員を目指し始めました。

### II. 大学時代に力を注いだこと

私が大学時代に力を注いだことは部活動です。部活動では練習や大会に出場する選手として、また部活動をより円滑にするための運営としての両方の役割を受け持ち力を注いできました。その部活動の中で、発案や人間関係、指導、リーダーシップなど教員採用試験に繋がる様々な経験をさせていただきました。

### III. 学習の進め方（時期、教材、方法、場所）

教員採用試験の勉強を本格的に始めたのは、大学3年次の12月頃で、初めは勉強に慣れるために、始める時間を決め、5分でも10分でも机に向かって勉強することや、YouTubeの動画を見ながら勉強することから始め、慣れてきたら部活や授業などの隙間時間を見つけて勉強をしていました。小学校教諭の試験は範囲が広く、効率よく勉強をする必要があるため、数分の隙間時間でも参考書を見るようにしていました。

勉強をしていた場所は、自宅では集中力が続かないため、図書館やカフェを活用して、周りの目を監視にして勉強をしていました。

### IV. 気分転換

気分転換は私が陸上競技部なので、部活で走ることが一番の気分転換でした。教員採用試験のギリギリまで練習を行っていましたし、大会にも出場していました。また、部員のみならずと話をすることがとても良い気分転換になりました。しかし、部活後の勉強を考えずに辛い練習をしたり、友達と遊びに行ったりして、勉強の言い訳に部活を使い、部活の言い訳に勉強を使ったりもしていました。すべて終わってから気づきましたが、教員採用試験を一番に

考えすぎないことが勉強のモチベーションを保つ秘訣だと思います。

### V. 採用試験合格に向けて、勉強以外に行ってきたこと

私の場合は、この項目に関しても部活動が当てはまります。全国で戦える選手を目指して日々の練習を行ってきましたし、悩んでいる部員の話の聞いたり、一緒に解決方法を見つけたりすることもありました。この経験は教員採用試験で、自分の持っている最大の強みになりました。

### VI. 試験までに「やっておいてよかった」、「やっておけばよかったこと」

試験までにやっておいてよかったことは、学習指導員です。大学3年次に二つの小学校で学習指導員をしました。一つの学校は通常学級で落ち着きのない児童の勉強をサポートする支援、もう一つが特別支援学級の支援でした。学習指導員の経験は児童生徒の実態に触れることができ、面接の時にとても役に立ちました。

また、県内の様々な研究会に参加したこともよかったと思っています。実際に現場で働く先生方の声や、教育講演など、自分の教師像を確立することや様々な場面での対処や教育時事などを学ぶきっかけとなりました。この二つのやっておいたことは、教員採用試験の勉強に生かすことができ、何より面接で話に厚みが出ます。

やっておけばよかったことは、ピアノです。幸いなことに私が受験した自治体ではピアノの実技試験がなかったため、練習はしていませんでした。ピアノの練習は気分転換の一つになることや、教員採用試験だけでなくその先にもつながると思います。

### VII. 試験当日の雰囲気と自らの心理状況、焦ったこと

試験当日の雰囲気は高校入試や大学入試と似ていると思います。緊張はしますが、一緒に受けている友達がいたので焦りはありませんでした。

焦ったことは、試験当日は緊張により、普段では考えられないミスをします。その時は深呼吸をして心を落ち着かせていました。また、教員採用試験の

二次試験の日はとても暑く、汗が止まらなくて焦りました。暑さ対策は必須でした。

#### **VIII. 後輩へのアドバイス**

新潟医療福祉大学の教職支援体制はとても素晴らしいです。教職支援センターの方々や先生方は教職のスペシャリストなので、勉強や試験対策はもちろんのこと、細かいことまでサポートしていただけます。そのおかげで私は、大きな悩みを抱えることなく教員採用試験当日を迎えることができました。ぜひこれから教員採用試験を受験しようと思っている方は積極的に活用して教員採用試験合格をつかみ取れるように頑張ってください。応援しています。

## 教員採用試験受験報告

健康科学部 健康スポーツ学科 櫻田 陽

### I. 教員を目指した理由・きっかけ

私が教員を目指したきっかけは、高校の部活動で教えることに魅力を感じたことと、大学三年次にボランティアで教育現場を経験することができたからです。高校生の時は、成長させることに魅力を感じていましたが、ボランティア活動の中で共に成長できることに対して魅力を感じ、本格的に教員を目指しました。

### II. 大学時代に力を注いだこと

私が大学時代に力を注いだことは部活動です。結果を残すことはもちろんのこと、教員になった際に部活動指導で、技術や知識、メンタルの部分を伝えられるよう、意識しながら活動してきました。

### III. 学習の進め方（時期、教材、方法、場所）

学習を始めた時期は三年生になってからでした。教材は各県の過去問をひたすら解き、受験する自治体の傾向をつかむように意識して勉強しました。場所はどこでもできるので、たまに気分転換も兼ねて外でやることもありました。

### IV. 気分転換

部活動をやっていたので、部活動が気分転換だったと思います。体を動かして、勉強以外のことで頭を使う時間を作ることが良いと思います。

### V. 採用試験合格に向けて、勉強以外に行ってきたこと

合格に向けてボランティア活動を行いました。一番は教育現場を体験できることが大きかったです。面接の時にも体験した話ができることは大切なことなので、これからの自分のため、教員採用試験のためにボランティア活動を積極的に行いました。

### VI. 試験までに「やっておいてよかった」、「やっておけばよかったこと」

試験に向けての準備はしっかりとできていたので、やっておけばよかったと思うことはありませんでした。やっておいてよかったことは、ボランティア活動や学内講座、面接練習、模試などやれることを面

倒がらずにやっていたことだと思います。嫌だなと思うこともやれば経験につながるので避けてやっていたよかったと思いました。

### VII. 試験当日の雰囲気と自らの心理状況、焦ったこと

当日はもちろん緊張感のある雰囲気がありました。しかし、私は正直なところ「現役で合格するわけがないから来年も頑張ろう」という気持ちでその場にいたので、試験の流れやペース配分など来年に向けての経験として受けていました。そのため、焦ることはそんなにありませんでしたが、二次試験のバレーボールの実技でサーブを変な方向に打ってしまったときは焦りや不安を感じました。

### VIII. 後輩へのアドバイス

一番は変な自信を持たないことが大切だと思います。だからと言って、諦めるのではなく、次につなげようと経験を積むことが良いと思います。過信せずに謙虚な気持ちでいれば何かしらの形で報われる時が来ると思うので、適度に頑張っておきたいです。



## 教員採用試験受験報告

看護学部 看護学科 佐藤 菜

### I. 教員を目指した理由・きっかけ

小学4年生の時に出会った養護教諭に憧れたことがきっかけです。その先生は児童みんなに優しく、あたたかい言葉をかけてくださいました。高校生の時には、体調不良時に保健室で養護教諭が対応してくれ、安心感を覚えました。このことから私も子どもたちが安心して学校生活を送れるように支援したいと思い、養護教諭を目指しました。

### II. 大学時代に力を注いだこと

看護の勉強と教職の勉強の両立に力を注ぎました。看護の授業や課題が多い中で、教職の勉強を同じくらい進めていくのは私には難しかったので、そのような時には看護と教職に共通する内容をしっかり覚えるようにしました。解剖学や生理学、小児の病態や発達などは養護教諭にとっても大切な知識なので忘れないように復習しました。領域別実習の時には、実習でしか学べないことや学校現場でも活かせること（コミュニケーションや観察、アセスメントなど）もあるので、メンバーと助け合いながら頑張りました。

### III. 学習の進め方（時期、教材、方法、場所）

1、2年生の時は模試を受けたり講座を受講したりして、本格的に勉強を始めたのは3年生の3月からです。教材は受験自治体の過去問、養護教諭に関する参考書、講座で使用した問題集などです。一次試験に向けては、まず過去問を解いて自信がないところや理解が不十分なところをノートにまとめてきました。新潟県は教職・一般教養よりも専門教養の配点が高いので専門教養の学習を重点的にやっていました。学習場所は主にアパートの部屋で、たまに大学で行いました。

二次試験に向けては、学内講座の受講や教職の先生方との面接練習で、自分の考えを自分の言葉で伝える練習をしました。面接練習をしていく中で新潟県についてもっと知識を深める必要があると気づき、新潟県のホームページを見たり新潟県教育振興基本計画を読んだりしました。

### IV. 気分転換

友達と話すこと、公園に行くこと、卒研を進めることです。友達と話すことですっきりした気持ちになり、勉強を再開する時に頑張ろうと思うことができました。公園が好きだったのもあり、また見える景色が変わるので気分転換になりました。卒研は、教職や養護教諭に関することではない内容だったので、卒研を進めること自体が気分転換になりましたし、卒研のメンバーや先生との対話が楽しかったです。

### V. 採用試験合格に向けて、勉強以外に行ってきたこと

ボランティアに行くようにしました。領域別実習やコロナの影響で頻繁に行くことはできませんでしたが、教員採用試験だけでなく学校現場でも役立つことを学べたと思います。観察参加実習、養護実習だけで学校や子どもたちのことを知るの難しいので、ボランティアに行って様々な体験をすることが大切だと感じました。特別支援学級の子どもの実態や先生の声掛けの仕方など、教科書だけでは学べないことを学ぶことができました。

### VI. 試験までに「やっておいてよかった」、「やっておけばよかったこと」

やっておいてよかったことは早い時期からの二次試験対策です。論作文の指導を3年生の時からやっていたことで、伝え方や話し方などを面接時に役立てることができたと思います。やっておけばよかったことは過去問をたくさん解くことです。何周も解いたり全国の過去問を解いたりしなかったのが、試験時の自信や安心のためにもやっておけばよかったと感じています。

### VII. 試験当日の雰囲気と自らの心理状況、焦ったこと

一次試験は、たくさん勉強したことがわかる参考書を開いている人を見たり逆に何もしない人を見たりして焦った記憶があります。しかし、焦ると試験中に影響が出ると思い、「大丈夫、大丈夫」と自分を落ち着かせるようにしました。

二次試験は、行ったことのない土地だったので会

場に着くまでは緊張していましたが、着いてからはだんだんと緊張が和らいでいきました。待機室では特別支援学校教諭を受験する方と一緒にしました。二次試験対策の内容をまとめたノートを自分の順番が来るまで目を通して復習しました。二次試験対策の際に面接官の方と対話をするようにとアドバイスをいただいたので、それを意識して臨んだことで自分の言葉で自分らしく受け答えできたと思っています。

#### **VIII. 後輩へのアドバイス**

教職支援センターをたくさん利用してほしいと思います。1年生の時から教員採用試験まで、たくさんお世話になりました。模試や講座、教員採用試験に関する情報などを発信してくださったり、手厚くサポートしてくださったりします。他の大学で教職を目指す友人に話を聞いた際、新潟医療福祉大学の教職支援センターのサポートの手厚さを感じました。また、看護学科以外の学生も利用するので、他の学生が頑張っている姿を見て良い刺激をもらえると思います。

実習中、教職に関する勉強がなかなかできずに落ち込んでいた時期がありました。そのような時、何かと理由を付けて教職支援センターに行きセンター内の教室の風景を見ることで「将来、学校で働くために今やるべきことを頑張ろう」と思うことができました。採用試験は一人の力ではなかなか難しいので、大学や外部の先生方のありがたいサポートを受け、周囲の人と支え合いながら頑張ってください。応援しています。

## 新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会 開催報告

吉田 重和・若月 弘久

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

### I はじめに

本稿では、2021年度に開催された「新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会（以下、協議会）」について報告する。

### II 協議会の開催概要

#### 1. 目的

- 1) 今日求められている教員養成課題について、私学の直面している現状を踏まえ協議する。
- 2) 教員採用の現状・見通し等について情報共有し、各大学の教員養成プログラムおよび教員採用試験対策のあり方・課題等を協議する。
- 3) 小・中学校や地域との連携・協働に関する現状や課題等を協議する。

#### 2. 日時

2021（令和3）年11月19日（金）

午後1時～午後3時30分

第1部 午後1時～午後2時30分

（新潟市教育委員会と参加大学）

第2部 午後2時40分～午後3時30分

（参加大学のみ）

#### 3. 方法

Zoomミーティングによるオンライン会議

実施本部：新潟医療福祉大学

講義棟1階 教職支援センター

#### 4. 協議事項

- 第1部 コロナ禍における教員養成・教員採用
- 第2部 コロナ禍における教職課程の困りごと
- その他

#### 5. 出席者

- 1) 新潟市教育委員会  
学校人事課長  
学校支援課長  
学校人事課管理主事

- 2) 敬和学園大学  
教務課長  
教務課長代理  
教務課教務係員
- 3) 新潟青陵大学  
教職養成カリキュラム委員会委員長  
学務課長
- 4) 新潟薬科大学  
教職課程運営委員長  
事務部教務課係長
- 5) 新潟経営大学  
教職部運営委員  
学務課長
- 6) 新潟工科大学  
学務課長  
学部課主事
- 7) 新潟医療福祉大学（主管大学）  
教職課程長／教職支援センター運営委員長  
吉田 重和  
教職支援センター運営委員  
森泉 哲也  
同  
若月 弘久  
同  
丸山 幸江  
学科教職課程主任  
杉崎 弘周  
学務部教務課長  
吉田 俊雄
- 8) 協議会事務局  
新潟医療福祉大学学務部教務課／教職支援センター  
菅原 直実

### III 協議会の内容

新潟市教育委員会と教職課程を有する新潟県内の私立6大学（以下、参加大学）による本協議会は、2019年11月18日（月）に、新潟医療福祉大学を会場として第1回が開催されている。隔年での継続開催に同意が得られていたことを受け、2021年度、オンライン会議形式にて第2回目が開催された。

新潟市教育委員会と参加大学の間で行われた第1部では、教員採用の現状と課題について協議がなされた。冒頭で新潟市教育委員会より、令和4年度（2021年度）に行われた新潟市教員採用選考検査の

出願者数・合格者数が共有された。その後、優秀な教員を確保するという観点から、また相互の連携を一層深めるという観点から、県内私立大学及び本協議会に期待するとの見解が示された。

続いて新潟市教育委員会からは、各大学に対し、育成指標に定めた「新潟市が求める着任時の姿」に即した人材の養成や、教育実習時の大学での事前指導等において、育成指標の活用を期待するとの意見が示された。また、新潟市内の各学校における児童生徒へのサポートや運動会等の行事のサポート等、学生のボランティア活動に感謝している旨が示された。

さらに参加大学からの質問を受けるかたちで、ICT教育の充実に向け、学生に期待する姿勢が示された。具体的には、ICT機器を活用した授業での実践例に触れて知識を深め、子供たちにICT機器を使ってどんな授業をしたいかを考えることや、授業のノウハウを持つ先輩の教員から、授業の本質を学ぶ謙虚な姿勢を身に付けてほしいとの意見が提示された。また養成段階での指導の方向性としては、スキルよりも資質や人間性が重要だと考えている点や、学生時代にボランティアやアルバイト、また様々な地域・国の人々と関わりを通して豊かな経験を積むことを期待しているとの見解が共有された。

教員になりたいと思うきっかけは、現場の素晴らしさを体験することであり、机上の勉強だけではそのような思いは生まれにくい。そのため参加大学においては、ボランティア活動等できるだけ早い時期に学校現場を体験し、子供たちと出会う中で体験、接したことによる感動、成長に立ち会える瞬間を、できるだけたくさん提供することが重要である。支持的風土を築くことのできる温かい雰囲気を作り出せる人間性を日々の様々な経験を通して養うこと、また子どもの心にしっかり寄り添うことができる学生、打たれ強さ・しなやかさを兼ね備えた学生を育成することが期待されている。

続く第2部では、長引くコロナ禍における教職課程の困りごとが共有された。具体的には、教育実習の実施時期、学生のコロナワクチン接種状況、教育実習等に際してのPCR検査の費用負担、ICT事項科目の開設に関する予定について、各大学の現状および予定が説明され、意見交換がなされた。

共有及び意見交換の結果、教育実習の実施時期等を含め参加大学間で連携可能な事項について、引き続き協調して対応していくことが示された。また、本協議会の今後についても、オンライン開催を前提

として継続することで賛同が得られ、2022年度は新潟県教育委員会との間で開催することが確認された。

協議会開催後、参加大学間での継続的・安定的な情報交換の場を創設することを目的として、「新潟県私立大学教職課程ネットワーク（新私教ネット）」が構築された。持続可能性を考慮し、当面の間はメーリングリストによる情報の共有と意見交換を主たる目的とするが、このような取り組みを継続することにより、参加大学及び新潟県の教員養成に肯定的な影響が生まれることが期待される。

## 教職課程アンケート集計結果

教職支援センター運営委員会 養成部会

森泉 哲也<sup>1)</sup>・久保 晃<sup>2)</sup>・佐藤 裕紀<sup>2)</sup>・杵淵 洋美<sup>2)</sup>・丸山 幸恵<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科

<sup>2)</sup>新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

<sup>3)</sup>新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科

教職支援センター運営委員会は、当該年度の卒業年次生に対し、毎年度末に「現行の教職指導体制に関するアンケート」を実施している。本アンケートは、本学の教員養成理念や教職課程の授業、教員養成に関する取組について、大項目8及び小項目23の観点から、4件法及び自由記述に基づき回答を求めた（資料：教職課程アンケート参照）。2021年度卒業生に関するアンケート結果は、4件法の調査を、それぞれ下記のように点数化し、各項目の平均点をグラフで示す。

|               |
|---------------|
| 非常に当てはまる：4点   |
| 当てはまる：3点      |
| あまり当てはまらない：2点 |
| 全く当てはまらない：1点  |

### 1. アンケート結果

#### 1) 所属学科（対象人数、回答人数、回答率）

|          |               |
|----------|---------------|
| 健康栄養学科   | 10人、4人、40.0%  |
| 健康スポーツ学科 | 84人、16人、19.0% |
| 看護学科     | 3人、2人、75.0%   |
| 合計       | 97人、22人、22.7% |

全体的に、回答率が例年と比較してかなり低い。感染症対策のため、対面授業が実施できなかったことが関係しているが、アンケートをとるタイミング等、来年度に向けた対策の検討が必要である。

#### 2) 大項目1「QOLサポーターとしての教師（自己評価）」（図1）

卒業年次生が、本学教員養成理念の中核である「QOLサポーターとしての教師」としての素養をどの程度身に付けているかについて、7つの小項目に示した観点から自己評価を求めた。全項目が昨年度よりも0.09から0.7高かった。特に「3）専門領域に

精通した高度の知識・技能」は0.7、「7）教職に対する使命感と最後まで責任を持って職務を遂行できる問題解決力」は0.34前年度より高くなっている。「4）社会の中で自分の可能性を実現する力」は例年ほかの項目よりも低い傾向にあるが、今年度は0.24高くなり特に低い項目とはならなかった。今年度も対面授業が実施できない状況が続いたが、オンライン授業への慣れや、限られた中ではあったが対面授業や実習等から、学びが得られたのではないかと。今後もさらに自信につながる体験場面の確保や工夫が必要である。

#### 3) 大項目2「教職課程の目標とカリキュラムの整合性」（図2）

この項目は、「QOLサポーターとしての教師」と掲げる教員養成の目標と教職課程カリキュラムの整合性について、授業科目の構成や開講順序等の観点から評価を求めた。全項目で昨年度よりおよそ0.1から0.3高かった。全項目3.0以上であり、特に「3）に授業や実習の事前・事後指導によって、教員として働くための力量が十分高まった」が3.36、「授業科目の構成、開講順序はQOLサポーターとしての教員を育てる目的に合っている」が3.26と高値を示した。ある程度の成果があったと言える。

#### 4) 大項目3「教職支援センターの利用」（図3）

「1）教職支援センターを利用したことがあるか」の値が前年度同様に低く0.17、さらに、「3）教職支援センターの学習環境は十分か」が0.31低かった。教員採用試験を目指さない学生で、来室の必要性が低い学生が多いことが影響していると考えられる。昨年度と比べコロナ禍が続き、入構制限や人数制限を行わざるを得ない等の状況が回答にも影響していたのではないかとと思われる。同時双方向によるオンライン、短時間での活用方法等、状況に合わせた工

## 自己評価

夫を継続していく必要がある。

(次の大項目4から6は教員採用試験受験者のみが調査対象 健康栄養学科：2人、健康スポーツ学科8人、看護学科2人)

### 5) 大項目4「教職課程での学びの総合的評価」(図4)

この項目は、平均点3.41であり、95.5%の学生が肯定的な回答だった。

### 6) 大項目5「教員採用試験の合格を目標とした教職課程の授業」(図5)

この項目は教職課程の正課科目が一次試験・二次試験対策に役立ったかという観点から、教職課程の正課科目に関する評価を求めた。前年度結果とくらべて、一次試験対策については0.05、二次試験対策については0.06と若干ではあるが高くなっていたがほぼ同様の結果だった。

### 7) 大項目6「教員採用試験の合格を目標とした授業外の指導」(図6)

この項目は本学において日常的に展開されている正課外の教職指導が、一次試験・二次試験対策に役立ったかという観点から評価を求めた。授業外の指導を利用しなかった学生が一次対策で2名(9%)、二次対策で1名(0.5%)いた。利用した学生からの回答は、昨年度と比べて一次試験対策が0.21、二次試験対策が0.45高くなっていた。自由記述では、「指導者の熱意が伝わり、とてもためになった」とする回答も見られた。

一次試験対策についてはオンライン授業が中心であったが進度や学習状況に合わせて内容の量や質とも工夫して対応してきた。

二次試験対策は、今年度もコロナ禍であったが、広い会場の使用や時間の工夫を行う等、環境整備にも留意しながら、対応してきた。受験に対応するための日程調整等難しい部分もあるが、今後も工夫や改善を講じながら実施していくことが求められる。

### 8) 大項目7「試験対策としての外部業者の講座・模擬試験」(図7)

利用した学生のうち、全ての項目で昨年度よりも0.5から1.5高かった。コロナ禍でもあり、二次試験対策は利用しなかった学生が多くを占めていたことから、より積極的な活用を目指し、業者の選定や講座の回数・内容等を検討・吟味していく必要がある。模試についても同様の傾向が見られていた。講座や模試を活用し、学習の進捗状況や目標設定に生かしていけるよう促していく。

## 2. アンケートまとめ

昨年度よりも回答率が低い調査結果となった。この点から、回答者が教職支援センターにもとより好意的な学生であったことが予測される。そのため、結果の数値にも反映され、高値であったと考えられる。次年度は、アンケート調査実施のタイミングや周知の機会を逃さず、実施していきたい。

今後も、調査結果や学生からの声を生かして、更なる授業改善や学内講座の工夫につなげていきたい。

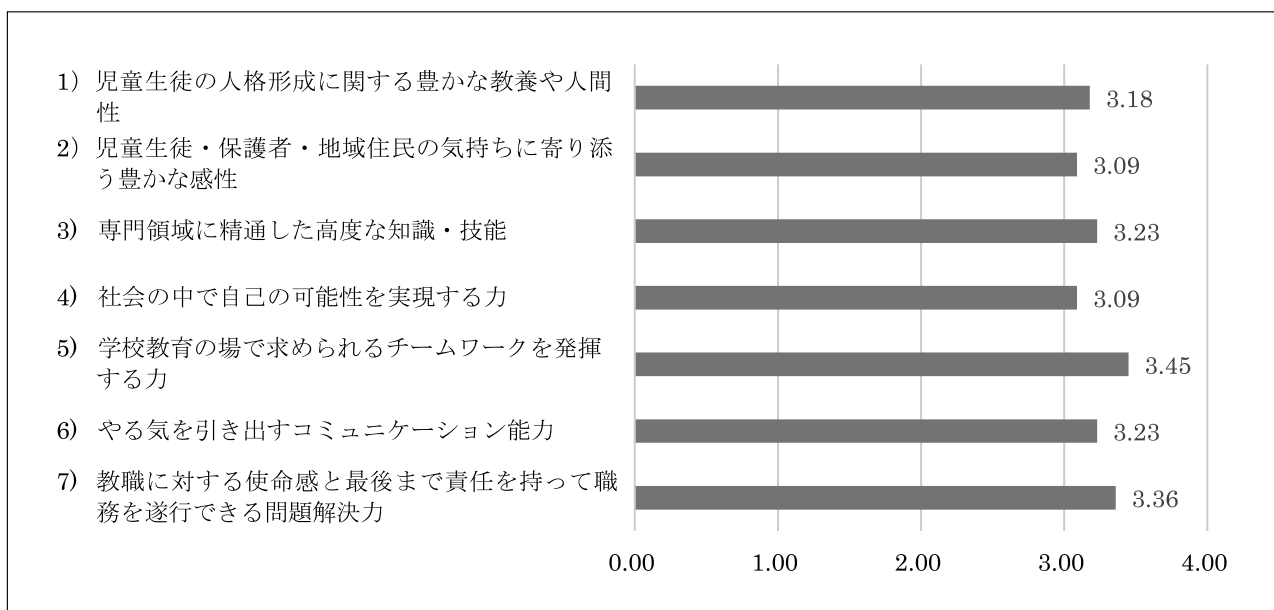


図1：QOLサポーターとしての教師

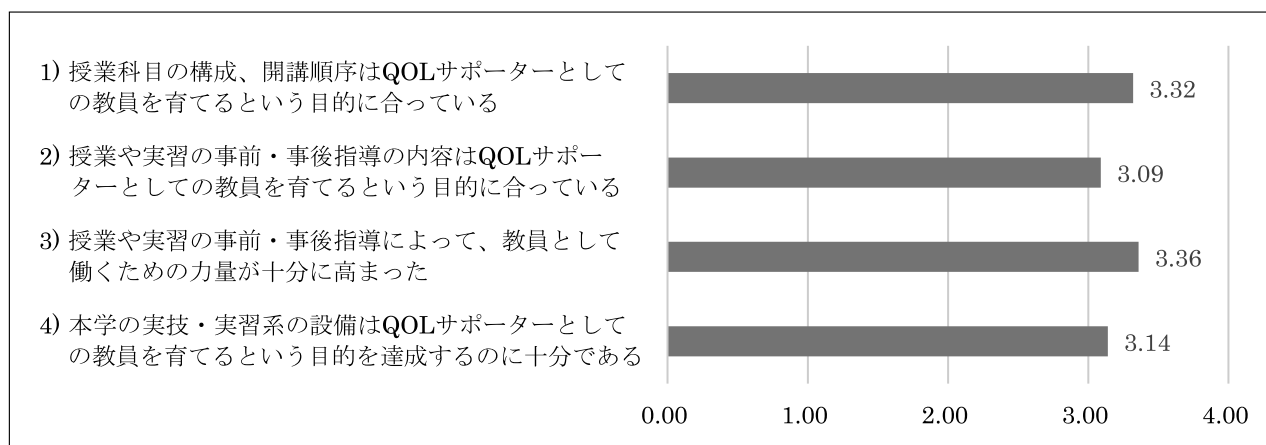


図2：教職課程の目標とカリキュラムの整合性

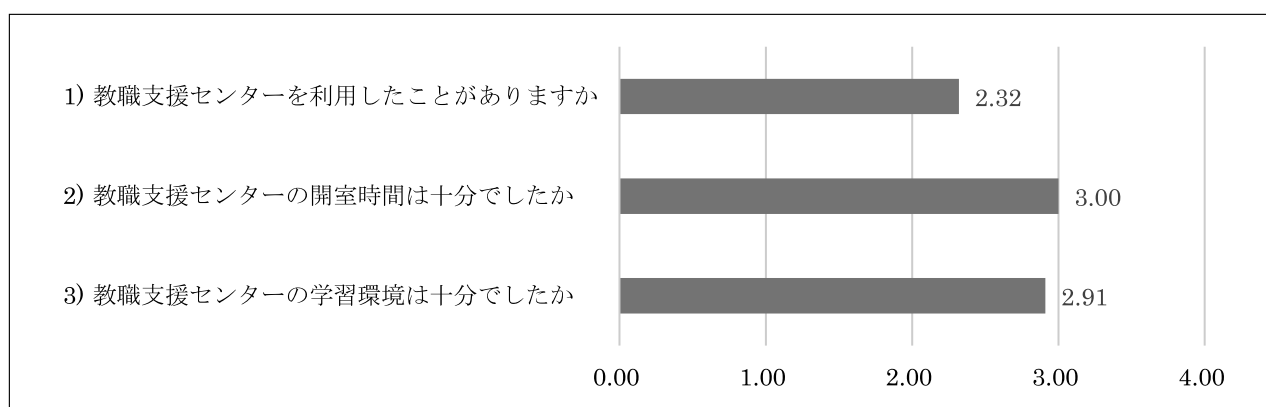


図3：教職支援センターの利用

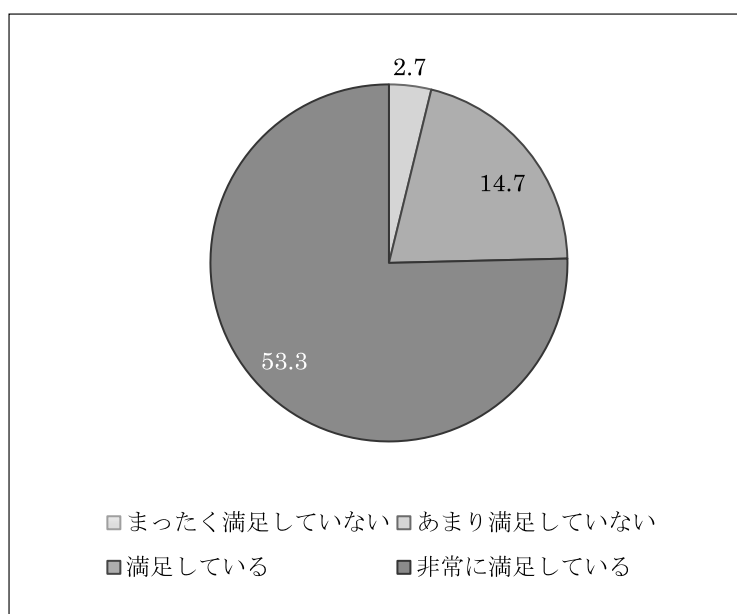


図4：教職課程での学びの総合評価

## 自己評価

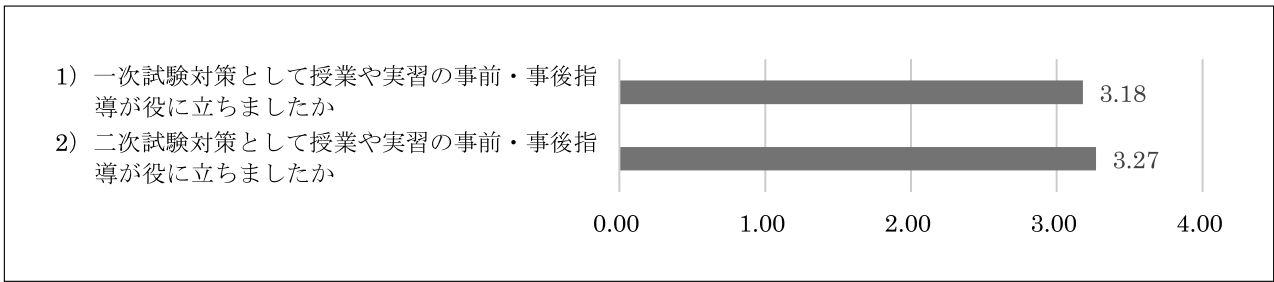


図5：教員採用試験の合格を目標とした教職課程の授業

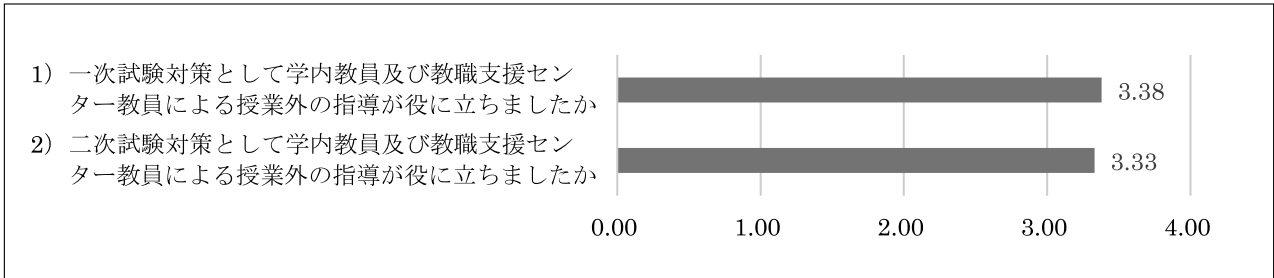


図6：教員採用試験の合格を目標とした授業外の指導（学内講座・勉強会）

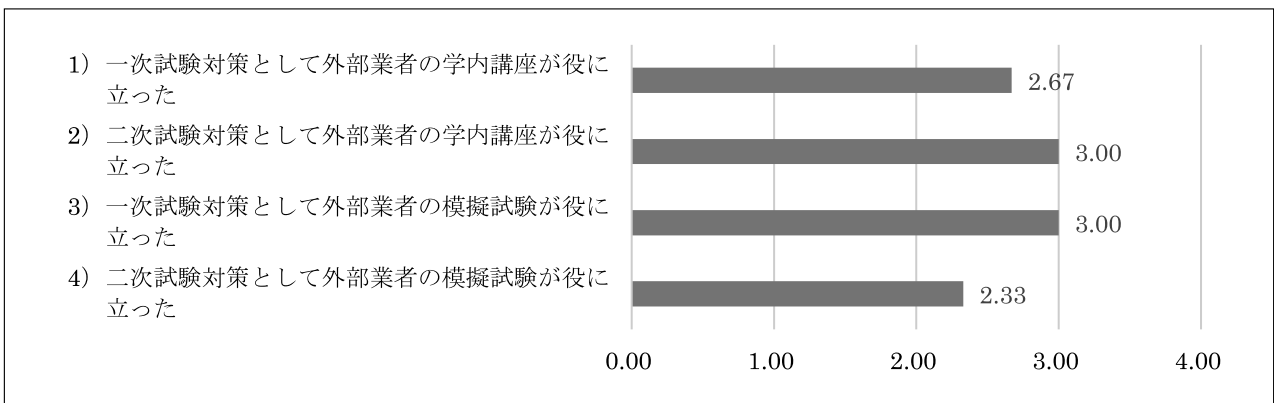


図7：試験対策としての外部業者の講座・模擬試験



## 自己点検の達成状況と残された課題

吉田 重和

新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

### I はじめに

本誌各号で報告してきた通り、新潟医療福祉大学教職課程では、教職指導体制を確立し教員養成教育の充実を図るために、2013年度より自己点検・自己評価活動に取り組んできた。新潟医療福祉大学教職課程における自己点検・自己評価活動は、教職課程を有する健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科と、教職支援センター運営委員会 企画・研究部会（以下、企画・研究部会）が協働し、原則として以下の手順をもって活動が進められている。すなわち、1）各学科は、当該年度内に取り組んだ内容を文章化して企画・研究部会に提出する、2）企画・研究部会は、提出された内容の妥当性等を審議し、必要に応じて各学科に修正等を依頼する、3）修正等を経て確定された内容について、教職支援センター運営委員会において審議し承認する、という手順である。

なお企画・研究部会の提案に基づき、2019年度より、上記手順に前提が追加された。すなわち2019年度以降、各学科は重要性や緊急性、実行可能性等を勘案して、各年度において【重点課題】を一つ以上設定し、【重点課題】の改善を目指して当該年度の活動を進めることとなった。これにより、各学科の状況に応じて具体化・焦点化された課題が特定され、自己点検・自己評価活動がより実質的に行われることが期待された。

本項では、各学科が2021年度に設定した【重点課題】とその進捗状況を確認することを通じて、本学教職課程の現況を確認していく。

### II 2021年度の【重点課題】

#### 1. 健康栄養学科の状況

健康栄養学科は、「教員養成に関して独自に取り組んでいることについて説明せよ」を2021年度の【重点課題】として設定していた。新潟医療福祉大学における自己点検・自己評価活動用資料「教職課程自己改善作業進捗状況報告シート（以下、シート）」には、【3年次】【4年次】における具体的な改善の道筋が以下のように示されている。

栄養教諭としての資質・能力の育成を目的として、3年「学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ」4年「教育実習（栄養教諭）」をカリキュラムに位置付け、学科独自の取組として以下を行う。

#### 【3年次】

「学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ」のまとめとして、市内の大学法人附属小学校が主催する研修会に参加し、体験的に次の内容を学ぶ。

- ①実際の指導のための指導案から指導の構想について学ぶ
- ②指導案に基づいた授業から栄養教諭としての指導の実際を学ぶ
- ③授業後の協議会から食に関する指導の在り方を学ぶ

#### 【4年次】

「教育実習（栄養教諭）」の事前指導として次の活動を行い教育実習に臨むとともに、事後指導を行う。

- ①学生による実習校への事前一日訪問を依頼し、学校給食を一緒に摂る等の経験を通して、食に関する課題の芽を感じ取り、事前訪問レポートを作成する。
- ②事前訪問レポートに基づいて課題解決のための指導案を作成し、模擬授業を行う。
- ③模擬授業後に模擬協議会を行い、授業を分析するポイントを学ぶとともに、指導案を修正する。
- ④事後指導として行う実習後の報告会に向けて、報告書とプレゼン資料を作成する。

上記の道筋を踏まえ実施された2021年度の取組及びその成果は以下の通りである。

#### 【3年次】

附属小学校の研修会がウェブ開催であり臨場感に欠けたことは否めないが、オンデマンド授業を繰り返し見ることができたことで、実際の児童の姿を根拠としたレポートの記述が多く見られた。

#### 【4年次】

コロナ禍における対応が常態であるため、事前

## 自己評価

の一日訪問の実施は叶わなかったものの、教員が示す詳細な児童の実態から食に関する課題を把握し、課題解決のための指導案の作成、模擬授業、模擬協議会、指導案の修正作業を通して一日訪問の代替とすることができた。

今後もコロナ対策を講じつつ、独自の取組を効果的に実施できるよう工夫していく。

上述の通り2021年度においては、栄養教諭としての資質・能力の育成を図るために組織されたカリキュラムについて、その成果を振り返る活動が行われた。

結果として、コロナ禍による負の影響を否定することはできないものの、「オンデマンド授業を繰り返し見ることができたことで、実際の児童の姿を根拠としたレポートの記述が多く見られた」り、「教員が示す詳細な児童の実態から食に関する課題を把握し、課題解決のための指導案の作成、模擬授業、模擬協議会、指導案の修正作業を通して一日訪問の代替とすることができた」りしたことで、一定の効果が得られたと判断されている。

### 2. 健康スポーツ学科の状況

健康スポーツ学科が2021年度に設定した【重点課題】は以下の通りである。

教職実践演習ポートフォリオのより効果的な活用方法を検討し、試行する（2021年度）。具体的には以下を実施する。

- ・紙の利点を活かし、実習関連資料等のファイリングを行い、ポートフォリオ本来の活用を図る
- ・数名の教員で、教員志望の強い学生を1、2名選出し、記載した内容に関する深掘りや各自の重点目標の設定等を試行し効果検証を行う。その際、「QOLサポーターとしての教師」の資質育成に資するような指導内容を意識する。

以上の効果検証を行い、ポートフォリオの有効活用に関する中長期的計画を立案し、実施する（2022年度以降）。

2021年度末の進捗状況について、予定通りの取り組みを行った結果として、健康スポーツ学科のシートに以下のように記されている。

…担当教員における選出学生の指導に関しては、一定の効果が得られ、ポートフォリオ本来の活用を図ることができた。

また、就職相談としてポートフォリオを活用することもでき、キャリア指導としての活用方法も見出すことができた。

これらは電子化されたポートフォリオをメールでやり取りする方法では実現できず、対面かつ紙の利点を活かしたものであるため、ポートフォリオは電子化せずに実施したい意向である。

上記で触れられているように、健康スポーツ学科では、教職志望の強い学生を特定し、紙媒体の特性を活かした試験的な運用をした結果、ポートフォリオの特性を活かしながら、学生のキャリアに繋がるような指導や助言が行われた様子が窺える。

### 3. 看護学科の状況

看護学科は、2021年度に2つの【重点課題】を設定している。具体的には、カリキュラムの改善・充実に関する事項と、設備・備品の充実に関する事項が、以下のようにシートに掲載されている。

(カリキュラムの改善・充実)

- ・2年生の科目「養護概論」で、救急救命学科の教員との連携体制整備に引き続き努め、「養護教諭のための心肺蘇生法」（1コマ）を確保する。未だコロナ禍にあり科目教科外（教員採用試験対策講座）においても十分な時間確保ができない状況ではあるが、救急処置スキルの取得に関して学びの場の設定の工夫を図り知識と技術の定着を目指す。
- ・「教職実践演習」の中に「養護教諭が行うがん教育」を設定し、学生の看護の視点を基盤とした専門性への意識向上を図る。
- ・学生の進路希望状況や進捗・困り感を把握しながらその実態に応じた情報提供や授業の工夫を図る。

(設備・備品の改善・充実)

- ・現代的な健康課題を認識し、学校保健推進の中核として健康教育を推進できる人材を育成するため、必要な図書、教材の充実を図る。(継続)
- ・前年度までにリストアップされた教材の有効活用と、保健室備品（2021年に文科省より指定さ

れた物品)の有無を確認し必要なものの補充を図る。

- ・図書や教材を確認し、改訂版や最新版への移行が必要なものをリストアップする。

看護学科が2021年度に取り組んだ成果として、2022年3月時の状況として整理されていた内容はそれぞれ以下の通りである。

(カリキュラムの改善・充実)

- ・看護の専門科目で学んだことを土台として、学校における救急対応を行う際に、適切な対応ができるよう「養護概論」(2年生履修)にて救急救命学科教員による「養護教諭のための心肺蘇生法」を実施した。その他には、教員採用試験対策講座や学内講座として、オンラインと対面併用で救急処置について時間を確保した。しかし、コロナ禍であるため、対面で構内での自主的な練習等の時間確保が難しかった。できるだけ、具体的で実践的なDVD資料等を活用する等の工夫を図った。
- ・保健教育において、今年度も「がん教育」に焦点を当て、4年生の「教職実践演習」で授業づくり・模擬授業を実施した。学科内で継続しているテーマであったため、先輩の指導案を参考にしながらさらに深めようとする姿勢が伺えた。看護の専門的知識を生かして、いかに「分かりやすく伝えるか」という点を重視しながら進められていた。今後も継続した取組を行っていきたい。

(設備・備品の改善・充実)

- ・学科で保有している各種書籍、備品の点検を全て行った。書籍については、改訂版や新版があるものについては、順次入れ替えを行った。また、実際に学校で使用している救急処置カードを備品として購入し、学校現場を想定した保健室での救急処置について実習を行った。また、看護学科で保有している教材の活用も図った。

上述したようにソフト面とハード面の充実に取り組んだ看護学科では、取組の成果を活かし、整えられたDVD資料や備品等を活用した実習も展開された。看護学科の取組は、自己点検・自己評価活動をきっかけとして、教員養成教育の充実が図られた好事例と捉えることができる。

### Ⅲ おわりに

本稿では、2021年度に各学科で設定された【重点課題】とその取組状況を確認することにより、各学科における教職課程の現況を整理してきた。本稿を通じて、コロナ禍の影響やそれに伴う課題が散見されるものの、改善に向けた各学科の取組が着実に前進していることが明らかになった。

2022(令和4)年7月に「教育職員免許法施行規則」が改正されたことにより、教職課程を有する各大学は、今後自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することが求められている。独自の自己点検・自己評価活動を長年にわたり実施してきた新潟医療福祉大学においては、これまでに獲得された成果や構築された実施体制を活かし、円滑にその作業を遂行することが可能であると考えられる。今後も、自己点検・自己評価活動の実施に伴う教職員の負担感に配慮しながら、学内外からの確かつ十分な情報を収集し、教職課程及び教員養成教育の充実に資するような自己点検・自己評価活動を継続することが期待される。

## 教職支援センター運営委員会の総括

吉田 重和<sup>1)</sup>・杵淵 洋美<sup>1)</sup>・渡辺 優奈<sup>2)</sup>・高田 大輔<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>新潟医療福祉大学 健康科学部 健康スポーツ学科

<sup>2)</sup>新潟医療福祉大学 健康科学部 健康栄養学科

### I はじめに

教職支援センター運営委員会は、各種業務を円滑に進めるために、養成部会、採用・研修部会、企画・研究部会の三つの専門部会を設けている。教職支援センター設立以降、教職支援センター及び全学教職課程が扱う事項については、再課程認定申請等一部の特例事項を除き、各部会が主管するかたちで実行されている。

2021年度においても、教職課程に関わる様々な活動に関して、コロナ禍により大幅な制限がかかることが懸念された。そのため教職支援センター運営委員会では、2020年度と同様に、「教職支援センター運営体制の堅持」「教職課程における教育活動の堅持」「本学教職課程のプレゼンスの堅持」を年次目標として掲げ、教員養成教育や教職課程運営を滞りなく進めることを最優先事項として各種業務を遂行した。

本稿では、2021年度の主な取り組みとその成果について、次節にて確認していく。

### II 2021年度の主な取り組み及び成果

2021年度の主な取り組みとその成果を、以下に三点示す。

#### 1. 教職支援センターの指導・運営体制の堅持（対応目標「教職支援センター運営体制の堅持」「教職課程における教育活動の堅持」）

実務家教員としての確かな力量を有する杉中宏氏、宮川由美子氏に加え、2020年度より本学の状況を知悉する森光雄氏（元健康スポーツ学科特任教授）を教職支援センター非常勤講師として迎えることができ、教職支援センターの講師陣がより一層充実することとなった。後述する既卒生を対象とした新たな取り組みを含め、質の高い教職指導が展開されたことや、学生・既卒生による教員採用試験結果や教職課程アンケート結果が良好であることから、現行の指導体制に対し肯定的な評価を下すことができる。今後も同種の指導体制を継続できるよう、関

係各所に対し時宜を得た説明を行う必要があると考えられる。

#### 2. 教職志望者の支援体制の堅持（対応目標「教職課程における教育活動の堅持」「本学教職課程のプレゼンスの堅持」）

2021年度の教員就職状況の全容については、本号の資料「教員免許状取得状況および教員就職状況」を参照されたい。本稿では正規採用実績のみ確認する。

2021年度に卒業した学生のうち、正規の教員就職者は9名（栄養教諭1名、小学校教諭5名、中学校・高等学校保健体育科教諭2名、養護教諭1名）であった。また既卒生については、13名（栄養教諭1名、小学校教諭6名、中学校・高等学校保健体育科教諭5名、養護教諭1名）より正規の教員就職者となった旨が報告された。

9名の学生が卒後すぐに正規教員として教壇に立つという状況は、本学教職課程史上最高の成果である。また直近10年間の学生の受験状況結果の推移からは、教員として教職に就く学生が着実に増加している状況を見て取ることができる。

今年度から始まった注目すべき取り組みとして、新たに講師を務めることとなった森氏により、既卒生を対象としたオンライン形式での定期的な教職指導を挙げることができる。時間帯や頻度、参加人数等課題はあるが、地理的制約等により実現が難しかった既卒生への実効的な指導の在り方として、今後を着実に進めていきたい。教職支援センターでは、教職志望の学生や既卒生が目標である教職に就けるよう、引き続きシームレスな指導を心がけていく。

#### 3. 新潟市教育委員会・新潟県内私立大学 教員養成連絡協議会の開催（「本学教職課程のプレゼンスの堅持」）

若月弘久委員（健康スポーツ学科）の働きかけにより、2021年11月19日、「新潟市教育委員会・新潟

県内私立大学 教員養成連絡協議会（以下、協議会）」がオンライン形式で開催され、養成・採用を中心に活発な意見交換がなされた。本協議会は、新潟市教育委員会と新潟県内私立大学（敬和学園大学・新潟青陵大学・新潟薬科大学・新潟経営大学・新潟工科大学・新潟医療福祉大学）との相互の連携・協力関係を構築すべく、本学が幹事役を務めることで隔年開催されているものである。

今年度の協議会開催を契機とし、本学が呼びかけるかたちで「新潟県私立大学教職課程ネットワーク」が立ち上げられたことは、大きな成果である。これにより、教職課程運営にまつわる様々なトピックについて、各大学の教職課程担当教職員が気軽に意見交換を行えるようになると思われる。新潟県教育委員会や新潟市教育委員会、教職課程を有する県内私立大学との連携体制構築に積極的に関わることで、本学教職課程のプレゼンスが今後より一層向上していくと期待される。

他方で本学教職支援センターの人員等も限られていることから、今後とも協議会等で幹事役を担い続けるためには、教職支援センターが抱えている業務の在り方を精選・検討する必要があると考えられる。

### Ⅲ おわりに

コロナ禍による混乱の影響を最小限に抑えるべく、2021年度も、前年度に引き続きこれまで積み重ねてきたものを「堅持」することが教職支援センター運営委員会の目標であった。そのような中でも、本稿にて確認したように、教職支援センター及び全学教職課程ではいくつかの大きな成果をあげることができた。改めて整理すれば、「教員就職を果たした学生・既卒生の増加」「既卒生に対する実効的・継続的な指導の開始」「新潟県内私立大学間のネットワークの構築」を今年度の主たる成果と捉えることができる。

長引くコロナ禍により、教職にまつわる活動に大きな制約が課せられていることは否定できない。またそれらの制約が今後教職課程及び教職志望の学生にどのような影響を及ぼすことになるかは、引き続き注視し、必要な対応をしていく必要があるだろう。このような現状認識に立ちながら、2021年度以上の成果を継続して出すためには、教員と職員が連携・協働し、教職支援センターの機能と価値をより一層高めていくことが必要だと思われる。

## 新潟医療福祉大学教員養成理念

### 新潟医療福祉大学 教員養成の理念と学生が目指すべき教師像

本学では、開学以来、「優れたQOLサポーターの育成」を教育理念として掲げてきました。これは、本学の教員養成教育の前提でもあり、これから教職を目指す学生の皆さんが教職に就くにあたって、現代の学校教育が抱える困難な諸問題に取り組んでいくための土台ともなりうるものです。

現代の学校教育には、児童生徒の主体性や学習意欲の欠如、体力・運動能力の低下傾向、食生活や食習慣の乱れからくる健康への影響、さらには、いじめや不登校など、さまざまな問題が山積していると言われています。また、指導力の不足や、児童生徒のみならず教職員や保護者、地域住民とのコミュニケーションがうまくとれないといった教師自身の問題も指摘されています。

以上に述べたことを踏まえて、本学の教員養成教育においては「優れたQOLサポーターとしての教師」を理念とし、求められる資質・能力を5項目あげています。

(本学では5項目の頭文字をとって「STEPS」と定義している。)

- I 児童生徒の人格形成に関する豊かな教養や人間性
- II 児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性
- III 専門領域に精通した高度な知識・技能
- IV 社会の中で自己の可能性を実現する力
- V 学校教育の場で求められるチームワークを発揮する力
- VI やる気を引き出すコミュニケーション能力
- VII 教職に対する使命感と最後まで責任を持って職務を遂行できる問題解決力

#### Science & Art (科学知識と技術を活用する力)

教職に関する教養を有し、専門分野に関する高度で科学的な専門知識と技術を教育指導の場面で活用できる。

#### Teamwork & Leadership (チームワークとリーダーシップ)

児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性を有するとともに、校内 連携において求められるチームワークを発揮することができる。

#### Empowerment (対象者を支援する力)

児童生徒の人間形成に関する豊かな教養や人間性及びコミュニケーション能力を有し、児童生徒の学びについて適切に導くことができる。

#### Problem-solving (問題を解決する力)

教職に対する使命感と最後まで職務を遂行しようとする責任感を有し、児童生徒に関わる諸問題を解決しようとする。

#### Self-realization (自己実現意欲)

教職と専門分野に関する課題に広く関心をもち、自己の可能性を実現するために、主体的、意欲的に研修できる。

本学において教職を目指す学生の皆さんには、ここに示された「教育の専門職」として求められる五つの知識・技能・能力を身につけ、将来、現代の学校教育が抱える困難な諸問題の解決に向けて取り組んでいくことが期待されています。

「優れたQOLサポーターとしての教師」とは、自らの専門領域における高度な知識・技能と深い教育的教養を備え、児童生徒の「現在のQOL」に目を向けて適切に対応できるだけでなく、彼らの「将来のQOL」の向上をも見据えながら、周囲の人びとと連携して職務を遂行していくことのできる存在です。こう

した存在になるためには、学生の皆さんが、豊かな人間性を育み、自らのQOLを意識的かつ継続的に高めていくことが大切でしょう。

本学の教職課程を履修するすべての学生の皆さんが「優れたQOLサポーターとしての教師」となることを目指して大きく成長していくことを強く願っています。

2019年4月1日  
新潟医療福祉大学

## 学科別 教員養成の理念と求められる資質・能力

### 健康栄養学科

#### 栄養教諭養成の理念

『栄養に関する高度の専門性』と『教育に関する資質』を併せ持ち、児童生徒、保護者および地域社会の健康づくりに貢献できる栄養教諭

#### 求められる資質・能力

- I 児童生徒、保護者、地域社会の実態や課題を把握し、学校給食の提供、食に関する指導および栄養管理を一体的に行う力
- II 自らの手で科学的エビデンスを構築し、エビデンスに基づいた活動を展開する力
- III 保護者、教員、地域社会と連携できる力
- IV 栄養教諭としての誇りと自覚、倫理観
- V 児童生徒、保護者および他職種から信頼される人間性や社会性

#### Science & Art（科学知識と技術を活用する力）

児童生徒、保護者、地域社会の実態や課題を把握し、学校給食の管理と食に関する指導を一体的に行うことができる。

#### Teamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップ）

保護者、教職員、地域社会と連携・協働し、良好なコミュニケーションを図りながら食育推進の中心的な役割を果たすことができる。

#### Empowerment（対象者を支援する力）

児童生徒、保護者および他職種から信頼される人間性や社会性を有し、食に関する指導を通して、児童生徒の食生活の課題を改善に導くことができる。

#### Problem-solving（問題を解決する力）

自らの手で栄養科学的エビデンスを構築し、教職員と連携・協働する中で、エビデンスに基づいた活動を展開し、課題を解決しようとする。

#### Self-realization（自己実現意欲）

栄養教諭としての誇りと自覚、倫理観を有し、児童生徒の食及び栄養上の課題に関心を持ち、その解決のために自主的・継続的に研修できる。



健康スポーツ学科

中学校・高等学校教諭（保健体育科）養成の理念

健康・スポーツに関する専門的知識・技能（健康増進、傷害対応などの知識・技能を含む）を有し、児童生徒の人格形成と生涯にわたるQOLの向上に資することができる、豊かな教養と責任感を兼ね備えた保健体育教師

求められる資質・能力

- I 健康・スポーツに関する専門的知識・技能
- II 専門的知識・技能を効果的に身に付けさせる指導力
- III 保健体育教師としての誇りと使命感
- IV フォア・ザ・チーム（連携・協働）の精神

**S**cience & Art（科学知識と技術を活用する力）

健康・スポーツに関する専門知識・技能を身に付け、学校教育の場で、児童生徒の実態に合わせて活用できる。

**T**eamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップ）

児童生徒・保護者・地域住民の実態に合った教育活動を展開するために、フォア・ザ・チーム（連携・協働）の精神をもち、フォロワーシップとリーダーシップを発揮できる。

**E**mpowerment（対象者を支援する力）

児童生徒・保護者・専門機関に信頼される人間性とコミュニケーション能力を生かし、児童生徒の豊かな学びのために適切な指導・支援ができる。

**P**roblem-solving（問題を解決する力）

保健体育教師としての誇りと使命感をもち、児童生徒一人一人の課題解決を支えることができる。

**S**elf-realization（自己実現意欲）

保健体育に関する課題に広く関心をもち、その解決のために主体的・継続的に研修できる。

看護学科

## 養護教諭養成の理念

本学教員養成の理念と指針を基盤とし、教育職であり看護職であるという特性を生かした「看護の専門性」を身につけた養護教諭

## 求められる資質・能力

- I 子どもたちの疾病管理、救急処置など、健康と命にかかわる看護能力
- II ヘルスプロモーションの理念に基づき、子どもたちのセルフケア能力を育成するための健康支援活動を実践できる能力
- III 養護教諭として、中核的な役割を担うことができる総合的な人間力
- IV 養護教諭に必要な倫理的態度
- V 根拠に基づいた研究的態度

### Science & Art（科学知識と技術を活用する力）

児童生徒を理解するための教養を有し、養護に関する必要な専門知識と技術が活用できる。

### Teamwork & Leadership（チームワークとリーダーシップ）

保護者、教職員、地域社会、専門機関と良好なコミュニケーションを取りながら、養護教諭として、健康支援活動において中核的な役割を担うことができる。

### Empowerment（対象者を支援する力）

多様な価値観を尊重し、養護教諭としての倫理観に基づいた責任ある行動ができ、児童生徒のセルフケア能力を育成するための健康支援活動を実践できる。

### Problem-solving（問題を解決する力）

学校保健に関する法令、専門知識と方法論を用いて対象者の問題を解決しようとする。

### Self-realization（自己実現意欲）

知的的好奇心を持ち、学校保健の動向や社会の変化について、生涯を通じて主体的・意欲的に研修できる。

## 教員免許状取得状況および教員就職状況

| 大学名       |   | 新潟医療福祉大学 |      |                       |      | 設置者名                  | 学校法人 新潟総合学園 |      |        |     |
|-----------|---|----------|------|-----------------------|------|-----------------------|-------------|------|--------|-----|
| 学部・学科の名称等 |   |          |      | 認定を受けている免許状の種類・認定年度   |      | 免許状取得状況・就職状況 (2021年度) |             |      |        |     |
| 学部        | 学科  | 入学定員     | 設置年度 | 免許状の種類                | 認定年度 | 卒業<br>者数              | 免許状<br>取得者数 |      | 教員就職者数 |     |
|           |   |          |      |                       |      |                       | 実人数         | 取得者数 | 正規     | 非正規 |
| 健康科学部     | 健康栄養学科  | 40       | 2007 | 栄養教諭一種免許状             | 2019 | 41                    | 2           | 2    | 1      | 1   |
|           | 健康スポーツ<br>学科  | 250      | 2007 | 中学校教諭一種免許状<br>(保健体育)  | 2019 | 202                   | 82          | 68   | 7      | 13  |
|           |   |          |      | 高等学校教諭一種免許状<br>(保健体育) | 2019 |                       |             |      |        |     |
| 看護学部      | 看護学科  | 107      | 2018 | 養護教諭一種免許状             | 2019 | 105                   | 3           | 3    | 1      | 2   |
| 入学定員合計    |   | 397      | 合計   |                       |      | 348                   | 87          | 155  | 9      | 16  |
| 備考        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学部・学科等の名称」欄は、2021年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・健康科学部健康栄養学科は、栄養士法第5条の3第4号の規定により、管理栄養士養成施設として2001年4月に指定済みである。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実人数」欄は各学科等の実人数、「取得者数」欄は免許種別ごとの人数である。</li> <li>・健康スポーツ学科では、玉川大学 教育学部教育学科 通信教育課程との連携プログラムにより、小学校教諭二種免許状の取得者6名を含む。当該免許種別における教職就職者数は、正規5名である。</li> </ul> |          |      |                       |      |                       |             |      |        |     |

| 大学名                  |  | 新潟医療福祉大学 |      |                       |      | 設置者名                  | 学校法人 新潟総合学園 |      |        |     |
|----------------------|--|----------|------|-----------------------|------|-----------------------|-------------|------|--------|-----|
| 専攻・分野の名称等            |  |          |      | 認定を受けている免許状の種類・認定年度   |      | 免許状取得状況・就職状況 (2021年度) |             |      |        |     |
| 課程                   | 専攻・分野  | 入学定員     | 設置年度 | 免許状の種類                | 認定年度 | 修了<br>者数              | 免許状<br>取得者数 |      | 教員就職者数 |     |
|                      |  |          |      |                       |      |                       | 実人数         | 取得者数 | 正規     | 非正規 |
| 医療福祉学<br>研究科<br>修士課程 | 健康科学専攻<br>健康スポーツ学<br>分野  | 10       | 2007 | 中学校教諭専修免許状<br>(保健体育)  | 2019 | 7                     | 2           | 2    | 0      | 0   |
|                      |  |          | 2007 | 高等学校教諭専修免許状<br>(保健体育) | 2019 |                       |             | 2    | 0      | 0   |
| 入学定員合計               |  | 10       | 合計   |                       |      | 7                     | 2           | 4    | 0      | 0   |
| 備考                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「専攻・分野等の名称」欄は、2021年4月1日現在の名称・定員である。</li> <li>・「入学定員」欄は、専攻合計の人数である。</li> <li>・「免許状取得者数」欄の「実人数」欄は各学科等の実人数、「取得者数」欄は免許種別ごとの人数である。</li> </ul> |          |      |                       |      |                       |             |      |        |     |

### 教職課程在籍者数

|          | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 合計  |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 健康栄養学科   | 8   | 7   | 6   | 30  | 51  |
| 健康スポーツ学科 | 215 | 186 | 161 | 86  | 648 |
| 看護学科     | 11  | 9   | 5   | 4   | 29  |
| 計        | 234 | 202 | 172 | 120 | 728 |

注1) 上記は配当学年における履修登録者数に基づく。

注2) 再履修登録者は除く。

### 教職課程実習修了者数

| 学科       | 観察参加実習 | 介護等体験実習 | 教育実習 |
|----------|--------|---------|------|
| 健康栄養学科   | —      | —       | 10   |
| 健康スポーツ学科 | 120    | 100     | 84   |
| 看護学科     | 9      | —       | 3    |

注1) 看護学科における観察参加実習については、授業科目「学校保健」において実施。

注2) 教育実習における数値は校種による区分によらない実数を表記。

## 教職課程活動記録

|                                |                                      | センター中心  |                         | 学科中心                 |                         | センター&学科              |                         |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|-------------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|-------------------------|
| 月                              | 教職支援センター                             | 健康栄養学科  |                         | 健康スポーツ学科             |                         | 看護学科                 |                         |
| 4                              | 東京アカデミー<br>第3回全国模試（自宅受験）             |   | 教職オリエンテーション<br>（オンデマンド） |                      | 教職オリエンテーション<br>（オンデマンド） |                      | 教職オリエンテーション<br>（オンデマンド） |
| 4/26 新潟県・新潟市教員採用選考検査説明会（オンライン） |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 5                              |                                      | 学内<br>講座<br>専門<br>教養                                    |                         | 学内<br>講座<br>専門<br>教養 |                         | 学内<br>講座<br>専門<br>教養 |                         |
| 6                              |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 7                              |                                      | 6/21～9/10 人物評価試験対策指導<br>* 8/6 個人面接・模擬授業・場面指導スペシャル公開指導講座 |                         |                      |                         |                      |                         |
| 8                              |                                      | 8/3～9/3 教員採用試験対策オリエンテーション（オンデマンド）                       |                         |                      |                         |                      |                         |
| 9                              |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 10                             |                                      | 11/16～12/27 現職教員の声を聴く会（オンデマンド）                          |                         |                      |                         |                      |                         |
| 11                             | 11/19 新潟市教育委員会・新潟県内私立大学<br>教員養成連絡協議会 |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 11/15 教員免許一括申請説明会（オンライン）       |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 12                             |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 12/18 教員採用試験合格者の声を聴く会（オンライン）   |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 1                              | 東京アカデミー<br>第1回全国模試                   |   |                         |                      | 小学校教員養成<br>特別プログラム選考    |                      |                         |
| 2                              | 東京アカデミー<br>第2回全国模試（自宅受験）             |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 2/21 出願書類作成指導会（オンライン）          |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 2/28 埼玉県教員採用選考検査説明会（オンライン）     |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 3                              | 総合プランナーアシスト<br>オンライン講座<br><一般教養>     |   |                         |                      |                         |                      | 養護実習履修選考試験              |
| 3/15 ボランティア体験を語る会（オンライン）       |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |
| 3/25 千葉県教員採用選考検査説明会（オンライン）     |                                      |   |                         |                      |                         |                      |                         |

## 教職科目担当者一覧

専任教員 67名、非常勤教員 20名

（※教育職員免許法第66条の6に定める科目担当者を除く以下科目区分における科目担当者数とする）

### 栄養に係る教育及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第10条関係）

| 免許法施行規則に定める科目区分                    | 授業科目          | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|------------------------------------|---------------|----------|----------|
| 栄養に係る教育に関する科目                      | 学校栄養指導論Ⅰ      | 森泉 哲也    | 健康栄養学科   |
|                                    | 学校栄養指導論Ⅱ      | 森泉 哲也    | 健康栄養学科   |
| 教育の基礎的理解に関する科目                     | 教育原理          | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教職概論          | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                    |               | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育社会制度論Ⅰ      | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育社会制度論Ⅱ      | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育心理学Ⅰ        | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育心理学Ⅱ        | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 特別支援教育論       | 中川 一之    | 非常勤      |
| 教育課程論                              | 杵渕 洋美         | 健康スポーツ学科 |          |
| 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳教育指導論Ⅰ      | 丸山 裕輔    | 非常勤      |
|                                    | 特別活動指導論Ⅰ      | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 総合的な学習の時間の指導論 | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                                    |               | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                    |               | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育方法・技術       | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 生徒指導論         | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
| 教育相談                               | 石本 豪          | 言語聴覚学科   |          |
| 教育実践に関する科目                         | 教育実習（栄養教諭）    | 森泉 哲也    | 健康栄養学科   |
|                                    | 教職実践演習（栄養教諭）  | 斎藤 トシ子   | 健康栄養学科   |
|                                    |               | 森泉 哲也    | 健康栄養学科   |

### 教科及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第4条関係）

| 免許法施行規則に定める科目区分  | 授業科目 | 科目担当者 | 科目担当者所属  |
|------------------|------|-------|----------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 陸上競技 | 小林 志郎 | 健康スポーツ学科 |
|                  |      | 柴田 篤志 | 健康スポーツ学科 |
|                  | 水泳   | 下山 好充 | 健康スポーツ学科 |
|                  |      | 馬場 康博 | 健康スポーツ学科 |
|                  |      | 奈良 梨央 | 健康スポーツ学科 |

| 免許法施行規則に定める科目区分  | 授業科目                | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|------------------|---------------------|----------|----------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 器械運動                | 針谷 美智子   | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 五十嵐 久人   | 非常勤      |
|                  |                     | 渡辺 良夫    | 非常勤      |
|                  | ダンス                 | 若井 由梨    | 健康スポーツ学科 |
|                  | 体操（エアロビクスエクササイズを含む） | 伊藤 千賀    | 非常勤      |
|                  | 体づくり運動              | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                  | 柔道                  | 中村 忠明    | 非常勤      |
|                  |                     | 星野 力     | 非常勤      |
|                  | 剣道                  | 望月 雅之    | 非常勤      |
|                  | サッカー                | 秋山 隆之    | 健康スポーツ学科 |
|                  | バスケットボール            | 若月 弘久    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 伊藤 篤司    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 小林 真里奈   | 健康スポーツ学科 |
|                  | ラグビー                | 谷崎 重幸    | 非常勤      |
|                  | バレーボール              | 久保 晃     | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 濱野 礼奈    | 健康スポーツ学科 |
|                  | テニス                 | 西海 幸頼    | 非常勤      |
|                  | バドミントン              | 牛山 幸彦    | 非常勤      |
|                  | 野球ソフトボール            | 佐藤 和也    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 鷗瀬 亮一    | 健康スポーツ学科 |
|                  | 野外活動Ⅰ（夏期）           | 吉松 梓     | 健康スポーツ学科 |
|                  | 野外活動Ⅱ（冬期）           | 佐藤 敏郎    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 佐藤 和也    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 佐近 慎平    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 吉松 梓     | 健康スポーツ学科 |
|                  | 水辺実習                | 西原 康行    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 下山 好充    | 健康スポーツ学科 |
|                  |                     | 奈良 梨央    | 健康スポーツ学科 |
|                  | 体育原理・スポーツ哲学         | 下窪 拓也    | 健康スポーツ学科 |
|                  | スポーツ社会学             | 下窪 拓也    | 健康スポーツ学科 |
|                  | 体育・スポーツ史            | 泉田 俊幸    | 非常勤      |
| スポーツ運動学          | 森下 義隆               | 健康スポーツ学科 |          |
| スポーツ心理学          | 山崎 史恵               | 健康スポーツ学科 |          |
|                  | 中島 郁子               | 健康スポーツ学科 |          |
| スポーツ経営学          | 西原 康行               | 健康スポーツ学科 |          |

## 資料

| 免許法施行規則に定める科目区分                     | 授業科目          | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|-------------------------------------|---------------|----------|----------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目                    | 生理学           | 越中 敬一    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 山代 幸哉    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 藤本 知臣    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 運動生理学         | 越中 敬一    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 山代 幸哉    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 藤本 知臣    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 衛生学・公衆衛生学     | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 学校保健          | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 健康管理学         | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 救急法実習Ⅰ        | 大滝 弘     | 非常勤      |
|                                     | 救急法実習Ⅱ        | 大滝 弘     | 非常勤      |
|                                     | 体育科教育法Ⅰ       | 高田 大輔    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 針谷 美智子   | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 保健科教育法        | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
| 体育科教育法Ⅱ                             | 針谷 美智子        | 健康スポーツ学科 |          |
| 体育科教育法Ⅲ                             | 高田 大輔         | 健康スポーツ学科 |          |
| 教育の基礎的理解に関する科目                      | 教育原理          | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教職概論          | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育社会制度論Ⅰ      | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育社会制度論Ⅱ      | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育心理学Ⅰ        | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育心理学Ⅱ        | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 特別支援教育論       | 中川 一之    | 非常勤      |
| 教育課程論                               | 杵渕 洋美         | 健康スポーツ学科 |          |
| 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳教育指導論Ⅰ      | 丸山 裕輔    | 非常勤      |
|                                     | 道徳教育指導論Ⅱ      | 丸山 裕輔    | 非常勤      |
|                                     | 総合的な学習の時間の指導論 | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                     |               | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 特別活動指導論Ⅰ      | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 特別活動指導論Ⅱ      | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育方法・技術       | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 生徒指導・進路指導論    | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                                     | 教育相談          | 山崎 史恵    | 健康スポーツ学科 |
| 中島 郁子                               |               | 健康スポーツ学科 |          |



| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目        | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|-----------------|-------------|----------|----------|
| 教育実践に関する科目      | 教育実習指導論     | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 教育実習        | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 教職実践演習（中・高） | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 高田 大輔    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
| 針谷 美智子          | 健康スポーツ学科    |          |          |
| 大学が独自に定める科目     | 介護等体験実習講義   | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 教職実践対応論     | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杉崎 弘周    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 脇野 哲郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 若月 弘久    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 久保 晃     | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 杵渕 洋美    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 高田 大輔    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 上田 純平    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 針谷 美智子      | 健康スポーツ学科 |          |
|                 | 体力トレーニング論   | 池田 祐介    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 森下 義隆    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 越智 元太    | 健康スポーツ学科 |
|                 | コーチング論      | 池田 祐介    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 森下 義隆    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 発育発達と老化     | 越中 敬一    | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 佐近 慎平    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 健康栄養学       | 佐藤 晶子    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 体力測定評価Ⅰ     | 佐藤 敏郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 体力測定評価Ⅱ     | 下門 洋文    | 健康スポーツ学科 |
|                 | コンディショニング論  | 熊崎 昌     | 健康スポーツ学科 |
|                 |             | 津賀 裕喜    | 非常勤      |

## 資料

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目         | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|-----------------|--------------|----------|----------|
| 大学が独自に定める科目     | スポーツ医学総論     | 大森 豪     | 健康スポーツ学科 |
|                 |              | 埴 晴雄     | 健康スポーツ学科 |
|                 | 障害者スポーツ論     | 佐近 慎平    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 余暇論          | 佐近 慎平    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 陸上競技指導実習     | 小林 志郎    | 健康スポーツ学科 |
|                 |              | 柴田 篤志    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 水泳指導実習       | 下山 好充    | 健康スポーツ学科 |
|                 |              | 馬場 康博    | 健康スポーツ学科 |
|                 |              | 奈良 梨央    | 健康スポーツ学科 |
|                 | ダンス指導実習      | 若井 由梨    | 健康スポーツ学科 |
|                 | サッカー指導実習     | 秋山 隆之    | 健康スポーツ学科 |
|                 | バスケットボール指導実習 | 若月 弘久    | 健康スポーツ学科 |
|                 | バレーボール指導実習   | 久保 晃     | 健康スポーツ学科 |
|                 | ベースボール指導実習   | 佐藤 和也    | 健康スポーツ学科 |
|                 |              | 鶴瀬 亮一    | 健康スポーツ学科 |
| レクリエーション指導論     | 佐近 慎平        | 健康スポーツ学科 |          |
| スポーツと法          | 武田 丈太郎       | 非常勤      |          |
| ジェンダースポーツ論      | 下窪 拓也        | 健康スポーツ学科 |          |

## 養護及び教職に関する科目（教育職員免許法施行規則第9条関係）

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目         | 科目担当者  | 科目担当者所属 |
|-----------------|--------------|--------|---------|
| 養護に関する科目        | 公衆衛生学（疫学を含む） | 遠藤 和男  | 健康栄養学科  |
|                 | 保健統計学        | 遠藤 和男  | 健康栄養学科  |
|                 | 学校保健活動論      | 丸山 幸恵  | 看護学科    |
|                 | 学校保健         | 丸山 幸恵  | 看護学科    |
|                 | 養護概論         | 丸山 幸恵  | 看護学科    |
|                 | 公衆衛生看護学概論    | 小山 歌子  | 看護学科    |
|                 |              | 杉本 洋   | 看護学科    |
|                 |              | 丸山 幸恵  | 看護学科    |
|                 | 公衆衛生看護活動論Ⅱ   | 小山 歌子  | 看護学科    |
|                 |              | 杉本 洋   | 看護学科    |
|                 | 公衆衛生看護活動演習Ⅱ  | 杉本 洋   | 看護学科    |
|                 |              | 和田 直子  | 看護学科    |
|                 | 食品学          | 山崎 貴子  | 健康栄養学科  |
|                 | 臨床栄養学        | 長谷川 美代 | 非常勤     |
| 人体の構造と機能Ⅰ       | 澤田 純明        | 理学療法学科 |         |
|                 | 佐伯 史子        | 理学療法学科 |         |

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目             | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|-----------------|------------------|----------|----------|
| 養護に関する科目        | 人体の構造と機能Ⅱ        | 蘆田 一郎    | 健康栄養学科   |
|                 |                  | 八坂 敏一    | 健康栄養学科   |
|                 |                  | 川上 心也    | 健康栄養学科   |
|                 | 感染防御と管理（微生物学を含む） | 武石 雅幸    | 非常勤      |
|                 |                  | 葛城 啓彰    | 非常勤      |
|                 | 臨床薬理学            | 尾崎 昌宣    | 非常勤      |
|                 |                  | 高中 紘一郎   | 非常勤      |
|                 | こころの構造と機能        | 外間 直樹    | 看護学科     |
|                 |                  | 吉浜 文洋    | 看護学科     |
|                 | 精神発達保健論          | 外間 直樹    | 看護学科     |
|                 |                  | 吉浜 文洋    | 看護学科     |
|                 | 小児発達保健論          | 松井 由美子   | 看護学科     |
|                 | 小児看護学概論          | 松井 由美子   | 看護学科     |
|                 | 小児看護学実習          | 松井 由美子   | 看護学科     |
|                 |                  | 佐藤 真由美   | 看護学科     |
|                 | 災害看護論            | 宇田 優子    | 看護学科     |
|                 |                  | 石塚 敏子    | 看護学科     |
|                 |                  | 稲垣 千文    | 看護学科     |
|                 | 基礎看護学実習Ⅰ         | 石綿 啓子    | 看護学科     |
|                 |                  | 石塚 敏子    | 看護学科     |
|                 |                  | 今井 雄二    | 看護学科     |
|                 | 基礎看護学Ⅱ           | 石綿 啓子    | 看護学科     |
|                 |                  | 石塚 敏子    | 看護学科     |
|                 |                  | 今井 雄二    | 看護学科     |
|                 | 基礎看護学演習Ⅱ         | 石綿 啓子    | 看護学科     |
|                 |                  | 石塚 敏子    | 看護学科     |
|                 |                  | 今井 雄二    | 看護学科     |
| 基礎看護学実習Ⅱ        | 石綿 啓子            | 看護学科     |          |
|                 | 石塚 敏子            | 看護学科     |          |
|                 | 今井 雄二            | 看護学科     |          |
| 成人急性期看護学        | 貝瀬 友子            | 看護学科     |          |
| 成人急性期看護学演習      | 渡邊 千春            | 看護学科     |          |
| 教育の基礎的理解に関する科目  | 教育原理             | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 教職概論             | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
|                 |                  | 佐藤 裕紀    | 健康スポーツ学科 |
|                 | 教育社会制度論Ⅰ         | 吉田 重和    | 健康スポーツ学科 |
| 教育社会制度論Ⅱ        | 吉田 重和            | 健康スポーツ学科 |          |

## 資料

| 免許法施行規則に定める科目区分                    | 授業科目          | 科目担当者  | 科目担当者所属  |
|------------------------------------|---------------|--------|----------|
| 教育の基礎的理解に関する科目                     | 教育心理学Ⅰ        | 上田 純平  | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育心理学Ⅱ        | 上田 純平  | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 特別支援教育論       | 中川 一之  | 非常勤      |
|                                    | 教育課程論         | 杵渕 洋美  | 健康スポーツ学科 |
| 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目 | 道徳教育指導論Ⅰ      | 丸山 裕輔  | 非常勤      |
|                                    | 特別活動指導論Ⅰ      | 佐藤 裕紀  | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 総合的な学習の時間の指導論 | 脇野 哲郎  | 健康スポーツ学科 |
|                                    |               | 佐藤 裕紀  | 健康スポーツ学科 |
|                                    |               | 杵渕 洋美  | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 教育方法・技術       | 杵渕 洋美  | 健康スポーツ学科 |
|                                    | 生徒指導論         | 上田 純平  | 健康スポーツ学科 |
| 教育相談                               | 石本 豪          | 言語聴覚学科 |          |
| 教育実践に関する科目                         | 養護実習指導論       | 丸山 幸恵  | 看護学科     |
|                                    | 養護実習          | 丸山 幸恵  | 看護学科     |
|                                    | 教職実践演習（養護教諭）  | 丸山 幸恵  | 看護学科     |

## 教育職員免許法第66条の6に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目区分         | 授業科目    | 科目担当者    | 科目担当者所属  |
|-------------------------|---------|----------|----------|
| 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 | 法学Ⅰ     | 柴澤 恵子    | 非常勤      |
|                         | 法学Ⅱ     | 柴澤 恵子    | 非常勤      |
|                         | スポーツ・健康 | 佐藤 敏郎・他  | 健康スポーツ学科 |
|                         | スポーツ・実践 | 佐藤 敏郎・他  | 健康スポーツ学科 |
|                         | 英語Ⅰ     | 五十嵐 紀子・他 | 社会福祉学科・他 |
|                         | 英語Ⅱ     | 五十嵐 紀子・他 | 社会福祉学科・他 |
|                         | 情報処理Ⅰ   | 寺島 和浩・他  | 医療情報管理学科 |
|                         | 情報処理Ⅱ   | 寺島 和浩・他  | 医療情報管理学科 |

大学院

教育職員免許法に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目       | 科目担当者     | 科目担当者所属   |
|-----------------|------------|-----------|-----------|
| 大学が独自に定める科目     | 健康科学特論     | 佐藤 大輔     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 西原 康行     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 下山 好充     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 山崎 史恵     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 佐藤 敏郎     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 吉田 重和     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 杉崎 弘周     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 大森 豪      | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 埴 晴雄      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | 健康スポーツ学特論  | 佐藤 大輔     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 西原 康行     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 下山 好充     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 山崎 史恵     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 佐藤 敏郎     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 越中 敬一     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 山代 幸哉     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 吉田 重和     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 杉崎 弘周     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 池田 祐介     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 大森 豪      | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 下門 洋文     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 埴 晴雄      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | 健康運動処方特論   | 佐藤 大輔     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 佐藤 敏郎     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 下門 洋文     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | トレーニング科学特論 | 池田 祐介     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 熊崎 昌      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ医学特論   | 大森 豪      | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 埴 晴雄      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | コーチ学特論     | 下山 好充     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 市川 浩      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ心理学特論  | 山崎 史恵     | 健康スポーツ学分野 |
| 吉松 梓            |            | 健康スポーツ学分野 |           |
| スポーツ生理学特論       | 越中 敬一      | 健康スポーツ学分野 |           |
|                 | 山代 幸哉      | 健康スポーツ学分野 |           |
|                 | 佐藤 晶子      | 健康スポーツ学分野 |           |

資料

| 免許法施行規則に定める科目区分 | 授業科目       | 科目担当者     | 科目担当者所属   |
|-----------------|------------|-----------|-----------|
| 大学が独自に定める科目     | スポーツ経営学特論  | 西原 康行     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ教育学特論  | 西原 康行     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 吉田 重和     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 佐藤 裕紀     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | 保健体育科教育学特論 | 杉崎 弘周     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | 健康科学演習     | 佐藤 大輔     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 佐藤 敏郎     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 下門 洋文     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ医学演習   | 大森 豪      | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 埴 晴雄      | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ科学演習   | 下山 好充     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 山崎 史恵     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 越中 敬一     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 山代 幸哉     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 池田 祐介     | 健康スポーツ学分野 |
|                 | スポーツ教育学演習  | 西原 康行     | 健康スポーツ学分野 |
|                 |            | 吉田 重和     | 健康スポーツ学分野 |
| 杉崎 弘周           |            | 健康スポーツ学分野 |           |

## 教職支援センター利用状況

### 1. 教職支援センター開設と運営の概要

開設：2016年度4月

運営：2021年度6年目

場所：講義棟1階 D103

### 2. 2021年度 教職支援センターの運用

#### 1) 教職支援センター開室時間

| 通 期                                       |            |                   |
|---|------------|-------------------|
| 曜日  | 時間         | 在室者               |
| 月   | 9:00~17:00 | 教員(2~4限:森)<br>職員  |
| 火   |            | 教員<br>職員          |
| 水   |            | 教員(2~4限:宮川)<br>職員 |
| 木   |            | 教員(2~4限:杉中)<br>職員 |
| 金   |            | 教員<br>職員          |
| 土日祝日・<br>大学休業日                            | 閉 室        |                   |
| ※ 教職員不在時の利用は不可                            |            |                   |
| ※ 新型コロナウイルス感染症により教職支援センターが一時閉室または限定利用となった |            |                   |

#### 2) 教職担当教員一覧

| 学科       | 教員名    | 専門領域       | 主な相談・指導内容(担当) |                               |
|----------|--------|------------|---------------|-------------------------------|
| 健康スポーツ学科 | 吉田 重和  | 教育学        | 学修相談          | 教職教養(教育法規)                    |
|          | 杉崎 弘周  | 学校保健・保健科教育 |               | ※教員採用試験対策指導補助<br>教職支援センター在室なし |
|          | 脇野 哲郎  | 体育科教育学     | 人物評価<br>試験対策  | 面接・場面指導・模擬授業・論作文              |
|          | 若月 弘久  | 体育科教育学     |               |                               |
|          | 久保 晃   | 体育科教育学     | 学修相談          | 専門教養(中高保体教諭)                  |
|          | 佐藤 裕紀  | 教育学        |               | 教職教養(教育時事)                    |
|          | 杵渕 洋美  | 教育学        |               | 教職教養(教育原理)                    |
|          | 高田 大輔  | 体育科教育学     |               | 専門教養(中高保体教諭、小学校教諭)            |
|          | 針谷 美智子 | 体育科教育学     |               |                               |
|          |        | 上田 純平      | 教育学           |                               |
| 健康栄養学科   | 森泉 哲也  | 健康教育(食育)   | 人物評価<br>試験対策  | 面接・場面指導・模擬授業・論作文              |
|          | 渡辺 優奈  | 栄養生理学      |               | 専門教養(栄養教諭)                    |
| 看護学科     | 丸山 幸恵  | 学校保健       | 学修相談          | 専門教養(養護教諭)                    |
|          | 和田 直子  | 地域看護学      |               |                               |
| 非常勤      | 杉中 宏   | 教職         | 人物評価<br>試験対策  | 面接・場面指導・模擬授業・論作文              |
|          | 宮川 由美子 | 教職         |               |                               |
|          | 森 光雄   | 教職         |               |                               |

## 3. 利用状況

|     | 自習 | 書籍・資料閲覧 | 授業に関する相談 | 実習に関する相談 | 模擬授業スペース利用・練習 | 教員採用試験に関する相談・報告 | 進路や就職に関する相談・報告 | 小学校教員養成特別プログラム | 学内講座参加 | 印刷  | 指導予約 | その他 | 計     | 前年度比   |
|-----|----|---------|----------|----------|---------------|-----------------|----------------|----------------|--------|-----|------|-----|-------|--------|
| 4月  | 0  | 0       | 0        | 0        | 0             | 28              | 0              | 0              | 235    | 1   | 0    | 0   | 264   | 220.0% |
| 5月  | 0  | 0       | 0        | 0        | 0             | 21              | 0              | 1              | 277    | 1   | 0    | 6   | 306   | 197.4% |
| 6月  | 0  | 1       | 0        | 0        | 0             | 34              | 0              | 4              | 214    | 9   | 1    | 0   | 263   | 64.1%  |
| 7月  | 0  | 2       | 0        | 0        | 0             | 48              | 3              | 13             | 106    | 9   | 0    | 0   | 181   | 71.0%  |
| 8月  | 0  | 1       | 0        | 0        | 0             | 74              | 0              | 1              | 0      | 17  | 0    | 0   | 93    | 83.0%  |
| 9月  | 0  | 6       | 0        | 0        | 0             | 2               | 0              | 5              | 0      | 4   | 1    | 4   | 22    | 88.0%  |
| 10月 | 0  | 27      | 0        | 1        | 3             | 19              | 1              | 12             | 302    | 40  | 2    | 2   | 409   | 174.8% |
| 11月 | 2  | 7       | 1        | 0        | 0             | 5               | 3              | 1              | 295    | 11  | 7    | 90  | 422   | 170.2% |
| 12月 | 0  | 12      | 0        | 0        | 0             | 5               | 1              | 10             | 162    | 11  | 1    | 86  | 288   | 108.3% |
| 1月  | 0  | 0       | 2        | 0        | 0             | 3               | 0              | 2              | 104    | 0   | 1    | 13  | 125   | 103.3% |
| 2月  | 0  | 0       | 1        | 0        | 0             | 13              | 1              | 4              | 136    | 0   | 0    | 1   | 156   | 133.3% |
| 3月  | 0  | 0       | 0        | 0        | 0             | 36              | 0              | 0              | 241    | 0   | 0    | 9   | 286   | 215.0% |
| 計   | 2  | 56      | 4        | 1        | 3             | 288             | 9              | 53             | 2,072  | 103 | 13   | 211 | 2,815 | 128.2% |

## [考察・分析]

**運営**：教職支援センター開設6年目。長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、各種活動に様々な制限がかかり、大学構内および教職支援センターへの入構が原則禁止になり、一定期間制限された。これに伴い実務家教員の在室対応も一時中止となった中、今年度から既卒生を対象とした教職指導がオンライン形式にて開始された。新たな取り組みを含め質の高い教職指導が展開され、教員採用試験結果や教職課程アンケートの結果は良好であった。学生が教職支援センターへ直接足を運ぶことのできない状況の中、TeamsやZoomアプリケーションを利用した学内講座や個別指導を行ったほか、感染症対策を講じた上で限定的に対面指導を実施した。また、2021年度発行のニューズレターNo.8・9号をデータ配布した。その他、教職支援センター年報第5号（2020年度版）のリポジトリ登録を行った。教職関連ボランティアは1月中旬までは活動できたが、その後新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となった。また、外部業者による教員採用試験対策模試を3回実施し、うち2回は新型コロナウイルス感染症の感染が再度拡大したことにより自宅受験に余儀なく切り替えられたが、うち1回は対面で実施できた。

**学生利用**：教職支援センター主催各種学内講座は感染症対策を講じ、オンラインでの実施となった。在学生の受験者に加え卒業生の教員採用試験受験者も25名おり、卒業生の利用も多く見受けられた。全体として昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、学生の利用は前年度より多かった。

**今後の課題**：新型コロナウイルス感染症による制限がある中、前年度の2倍強の利用者数であった。教科書等の補充や教具の購入など教職支援センター内の環境整備を更に進めていき、それらの書架や教具が有効活用できるよう使用方法等について検討していく。学修面においてはオンラインと対面を併用し、状況に応じた実施方法の変更を行いながら各種対策を行った結果、オンラインでの実施についてはある程度対応が確立しつつあるが、学生のモチベーションを維持し効果的な教育をしていくための課題については、今後の検討が必要である。また、学生に不利益が生じないよう柔軟な指導体制を引き続き整えていくことが必要である。教職課程をもつ3学科（健康栄養学科・健康スポーツ学科・看護学科）の連携は更に強化されつつあるなか、教職支援センターが3学科の中心となり、整備および運営の継続が課題となる。



## 教職課程アンケート

ポータルサイトを利用し教職課程履修4年生に対し以下の内容でWEBアンケートを実施。

### 現行の教職指導体制に関するアンケート

教職支援センター運営委員会

以下の内容は新潟医療福祉大学の教職課程でよりよい教員を育成するために、4年間教職課程を履修したみなさんにアンケートを行うものです。個人の回答を特定するものではありません。思ったこと、感じていることを率直に入力してください。

なお、教員採用試験を受験した、または今後受験する予定の4年生は1～8全ての質者にお答えください。  
教員採用試験を受験せず、今後も受験する予定のない4年生は1～4の質問にお答えください。

#### 【共通回答項目】

- 教員採用試験受験科目を教えてください

|                          |       |         |
|--------------------------|-------|---------|
| 中学校教諭(保健体育)／高等学校教諭(保健体育) | 小学校教諭 |         |
| 栄養教諭                     | 養護教諭  | 受験していない |

- 受験経験について教えてください

|                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1次試験、2次試験とも受験経験あり | 1次試験のみ受験経験あり  |
| 未受験だが今後受験予定あり     | 未受験で今後も受験予定無し |

1. 新潟医療福祉大学の教職課程は「QOL サポーターとしての教師」として具体的には以下のような教師を育成することを目標として掲げています。以下の内容について、自分自身の現在の姿を評価してください。

|    |  |
|----|--|
| 1) | 児童生徒の人格形成に関する豊かな教養や人間性<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない            |
| 2) | 児童生徒・保護者・地域住民の気持ちに寄り添う豊かな感性<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない       |
| 3) | 専門領域に精通した高度な知識・技能<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない                 |
| 4) | 社会の中で自己の可能性を実現する力<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない                 |
| 5) | 学校教育の場で求められるチームワークを発揮する力<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない          |
| 6) | やる気を引き出すコミュニケーション能力<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない               |
| 7) | 教職に対する使命感と最後まで責任を持って職務を遂行できる問題解決力<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない |

2. QOL サポーターとしての教師を育成するという教職課程の目標と、教職課程のカリキュラムの構成(授業科目の構成、開講順序)、個々の授業の内容は整合性がとれているかを評価してください。

資料

|    |   |
|----|---|
| 1) | 授業科目の構成、開講順序はQOLサポーターとしての教員を育てるという目的に合っている<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない       |
| 2) | 授業や実習の事前・事後指導の内容はQOLサポーターとしての教員を育てるという目的に合っている<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない   |
| 3) | 授業や実習の事前・事後指導によって、教員として働くための力量が十分に高まった<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない           |
| 4) | 本学の実技・実習系の設備はQOLサポーターとしての教員を育てるという目的を達成するのに十分である<br>非常に当てはまる・当てはまる・あまり当てはまらない・全く当てはまらない |
| 5) | 自由記述（2について何かありましたらお書きください。）   |

3. 教職支援センターの利用についてお答えください。

|    |  |
|----|--|
| 1) | 教職支援センターを利用したことはありますか<br>頻繁に利用した・時々利用した・あまり利用しなかった・利用しなかった   |
| 2) | 教職支援センターの開室時間は十分でしたか<br>かなり十分であった・十分であった・あまり十分ではなかった・十分でなかった |
| 3) | 教職支援センターの学習環境は十分でしたか<br>かなり十分であった・十分であった・あまり十分ではなかった・十分でなかった |
| 4) | 自由記述（3について何かありましたらお書きください。）                                  |

4. 新潟医療福祉大学の教職課程での学びについて評価してください。

|    |  |
|----|--|
| 1) | 新潟医療福祉大学の教職課程の学びについて、総合的に評価してください<br>非常に満足している・満足している・あまり満足していない・全く満足していない |
| 2) | 自由記述（4について何かありましたらお書きください。）  |

※教員採用試験を受けていない方は以上で回答は終わりです。ありがとうございました。

**【教員採用試験を受けた方、今後受ける予定の方は以下もお答えください。】**

5. 教員採用試験の合格を目標としての教職課程の授業を評価してください。

|    |  |
|----|--|
| 1) | 一次試験対策として授業や実習の事前・事後学習が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった |
| 2) | 二次試験対策として授業や実習の事前・事後学習が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった |
| 3) | 自由記述（5について何かありましたらお書きください。）  |

6. 教員採用試験の合格を目標として、教職課程の学内教員および教職支援センター教員による講座など授業外の指導を評価してください。

|    |   |
|----|---|
| 1) | 一次試験対策として学内教員および教職支援センター教員による授業外の指導が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 2) | 二次試験対策として学内教員および教職支援センター教員による授業外の指導が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 3) | 自由記述（6について何かありましたらお書きください。）   |

7. 教員採用試験の一次試験および二次試験に学生が合格するという観点から、学内で行われていた外部業者の学内講座（東京アカデミー/協同出版）、模擬試験（東京アカデミー/協同出版/時事通信社）を評価してください。

|    |  |
|----|--|
| 1) | 外部業者の学内講座の利用の有無について教えてください<br>利用したことがある・利用したことがない                          |
| 2) | 一次試験対策として外部業者の学内講座が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 3) | 二次試験対策として外部業者の学内講座が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 4) | 外部業者の全国公開模試の受験の有無について教えてください<br>受検したことがある・受験したことがない                        |
| 5) | 一次試験対策として外部業者の模擬試験が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 6) | 二次試験対策として外部業者の模擬試験が役に立ちましたか<br>非常に役に立った・役にたった・あまり役にたたなかった・役にたたなかった・利用しなかった |
| 7) | 自由記述（7について何かありましたらお書きください。）  |

8. 新潟医療福祉大学の教職課程および教職支援センターの支援体制、教員採用試験対策指導等について評価してください。

|    |   |
|----|---|
| 1) | 新潟医療福祉大学の教職課程および教職支援センターの支援体制を総合的に評価してください<br>非常に満足している・満足している・あまり満足していない・まったく満足していない |
| 2) | 自由記述（8について何かありましたらお書きください。）   |

**ご協力いただき、大変ありがとうございました。**

# 教職支援センター刊行物

『教職支援センターニューズレター第8号』2021年5月刊行（新潟医療福祉大学教職支援センター運営委員会編集）

新潟医療福祉大学 教職支援センター



## CONTENTS

1. 巻頭言：教職ボランティアに参加しよう
2. 取組紹介①「教員採用試験出願書類作成指導会」
3. 教職課程 担当教職員
4. 退職教職員
5. 取組紹介②「学校における学習ボランティア体験を語る会Vol.2」
6. お知らせ/今後の予定
7. あとがき

No. 8

2021.5



## 教職ボランティアに参加しよう

教職支援センター運営委員 佐藤 裕紀（健康スポーツ学科）



私は、教職に関心のある学生の皆さんには、学校で先生方のサポートを行いながら児童生徒たちと接することができる「教職ボランティア」に、早い段階から参加することをお勧めします。

学校で活動し学習するものとして教育実習もあります。しかし、4年生となつてからは、正直、遅すぎてもったいないと思います。以下では、教職ボランティアに早期に参加することをお勧めする理由を述べます。

### ① 自分の適性を知ることができる

学校に行けば、そこには一人一人異なる児童生徒がいます。彼らの喜怒哀楽に触れることとなります。また先生の指導している光景や、日々の中でのやりがいや、悩みにも触れるかもしれません。先生も人間です。授業や本では、「教員」や「児童」「生徒」として一括りにして学びますが、そこにはリアル（本物・現実）があります。

そのリアルの中で、あなた自身が感じることがあるはずです。授業やメディアで「聞いていたことと違った」、「わかつたつもりになってたけど違った」などの揺らぎも体験するかもしれません。

教員にはそれほど興味はなかつたけれど、学校で児童生徒たちと接する中で「自分って結構むいてるかも?」と思えたなら、早い段階から教員になるために必要な学習に身を入れることができます。逆に、「ちょっと自分には合わないかも」思えば、残りの大学生活を他の進路に向けて充実したものにすればいいのです。

### ② 振り返ることで授業や本での学びが深まる

自分の体験を通じた学びを振り返ることで、より主体的に知識を獲得しようとする。「どうしてこの生徒はこういう発言をしたのだろうか」「なぜ先生はこのように指導をしたのか」といった、学校で出会う様々な何故?や時には自分の無力感や無知を痛感する中で、「もっとこういうこ

とを知りたい」といった学ぶ意欲や問題意識が高まるためです。

そうすると、大学の授業や本での学びも一層意味のあるものを感じられるでしょう。そもそも大学の授業は、様々な分野について専門的な知識を既に持っている教員が、体系的且つ最新の知見を効率的に皆さんが学習できるように設計されているはずで

ただ受け身で聞いているだけでは退屈かもしれませんが、自分の中で活かしたい活動の場や動機があれば、大学の授業や教員、そして本は皆さんの学びを深める機会になります。ぜひ、主体的に授業などを活用してみてください。

### ③ 何より面白いし、視野が広がる

最後に、ボランティアという誰かのために崇高な動機を持って献身しているイメージを持つかもしれませんが、実際に教職ボランティアに参加している学生の皆さんは、自分が楽しいから参加を続けているのです。

もし皆さんが、児童・生徒だったら、どんな先生に教えてもらいたいですか?皆さんはどんな先生と一緒に同僚として働きたいですか?

その先生には、教員採用試験に合格するための座学の勉強だけでなれるでしょうか?

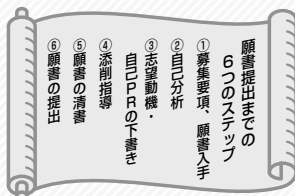
教職ボランティアをはじめ、様々な機会が本学にはあります。ぜひ、積極的に活用してみてください。



## 取組紹介①「教員採用試験出願書類作成指導会」

2月24日（水）に教員採用試験出願書類作成指導会を実施し、31名の学生が参加しました。講師は森光雄先生にご担当いただきました。指導会では、「願書提出までの6つのステップ」

「自己申告書・自己PRカードの記入のポイント・注意点」「新潟県（新潟市）、秋田県の出願書類を例にした書き方のコツ」等についてご指導いただきました。今回は、新型コロナウイルスの影響もありZoomを使ったオンライン形式での実施でしたが、学生は有意義に学ぶことができました。また、森先生の指導は卒業生の具体例を用いていたため、より実践的な内容となっていました。参加した学生からも非常に好評でした。いよいよ出願書類提出の時期となりました。この学びを活かして自分をアピールしていきましょう。



## 教職課程 担当教職員

- 吉田 重和  
（健康スポーツ学科 教授/教職課程長/教職支援センター長）
- 森泉 哲也（健康栄養学科 教授）  
渡辺 優奈（健康栄養学科 助教）  
脇野 哲郎（健康スポーツ学科 教授）  
杉崎 弘周（健康スポーツ学科 教授）  
若月 弘久（健康スポーツ学科 准教授）  
久保 晃（健康スポーツ学科 准教授）  
佐藤 裕紀（健康スポーツ学科 講師）  
杵淵 洋美（健康スポーツ学科 講師）  
高田 大輔（健康スポーツ学科 助教）  
針谷 美智子（健康スポーツ学科 助教）  
上田 純平（健康スポーツ学科 助教）  
丸山 幸恵（看護学科 講師）  
和田 直子（看護学科 講師）  
杉中 宏（教職支援センター 非常勤講師）  
宮川 由美子（教職支援センター 非常勤講師）  
森 光雄（教職支援センター 非常勤講師）
- 菅原 直実（学務部教務課/教職支援センター）  
田中 里枝（学務部教務課/教職支援センター）

## 退職教職員

- 森 光雄（健康スポーツ学科 教授）  
波多 幸江（看護学科 教授）  
坪川 麻樹子（看護学科 講師）  
野澤 紘子（学務部教務課/教職支援センター）  
叶内 月菜（学務部教務課）



※2021年3月付

※2021年4月現在

## 取組紹介②「学校における学習ボランティア体験を語る会Vol.2」

3月15日(月)3限に、「学校における学習ボランティア体験を語る会Vol.2」を実施しました。今回、参加者は32名(健康栄養学科3名、健康スポーツ学科21名、看護学科8名)と昨年度よりも大幅に参加人数が増え、「ボランティアの内容」「ボランティア体験前後の自身の変化や気づき」「成果や課題」等についてたくさん語り合いました。

ボランティアへ参加している学生は、それぞれ面白さややりがいを感じているようで自分自身の体験を積極的に語ってくれました。困っていることとしては、「児童生徒との関係性の作り方、接し方(とくに注意する場面)」「学校の先生方との連携、自分自身の立ち位置」などがあげられました。

これらについては、脇野先生より助言をいただき、参加した学生からは「今後も継続的に参加していきたい」と積極的な意見が出ていました。また、これまでボランティアに参加していない学生も「参加してみたい」という意思が生まれたようでした。

「教職ボランティアを語る会」に参加した学生のコメントを一部掲載します。



健康スポーツ学科3年生  
S.Tさん

学習指導で抱えていた悩みは、自分だけではなく他の人も共通して持っていたのだと感ずることができました。また、そういった悩みの解決策は、現場で働いている先生方に実際に聞くというのが最も良く、積極的に先生方とコミュニケーションをとることが必要だと感じました。



看護学科2年生  
M.Eさん

今回学習ボランティア体験の話や聞き、大変なことや困っていることを共感することができ、自分が悩んでいたことは他の人も悩んでいたんだと感じました。また、いろいろな人から、子どもに注意するときの対応についての話を聞いて、参考になった点がいくつもあったので、教育実習に活かしていきたいと思いました。とても有意義な時間でした。



健康栄養学科1年生  
M.Tさん

私はまだ学習ボランティアをしたことがなく、どんな活動をするのか知らなかったのですが、今回の会を通して児童生徒の学習の手伝いや掲示物を作成する手伝いなど、具体的な活動を知ることができて良かったです。また、学習ボランティアをする上で、児童生徒への指導の仕方や距離感などの対応が難しいとおっしゃっていた方が多くいたので、私が今後学習ボランティアに参加する際には、その点に注意して対応したいと思いました。



健康スポーツ学科1年生  
M.Yさん

私は学習ボランティアに参加したことがなく、どういった内容なのかも分からず、参加してみたい反面不安が大きかったです。しかし、今回の語る会に参加して、先輩方が参加している学習ボランティアの内容を聞くことができ、だんだんと内容が掴めて、不安が小さくなりました。これから自分自身も学習ボランティアに参加したら、先輩方の体験も参考にしていきたいと考えました。

### お知らせ/今後の予定

#### ▶教職担当教員による教員採用試験対策 学内講座

5月～7月にかけて、各種講座を開講中です。4年生を中心に積極的にご参加ください。3年生以下も歓迎します。

| 曜日                 | 時限 | 講座                    | 担当教員 | 備考                |
|--------------------|----|-----------------------|------|-------------------|
| 月                  | 4限 | 直前総合演習Ⅳ<br>(保健体育教諭向け) | 森先生  |                   |
| 火                  | 1限 | 直前総合演習Ⅰ               | 脇野先生 | この時限に参加できない場合は要相談 |
| 水                  | 1限 | 論文演習Ⅱ                 | 若月先生 |                   |
| 水                  | 3限 | 面接演習Ⅱ                 | 宮川先生 |                   |
| 木                  | 3限 | 教育課題演習Ⅱ               | 杉中先生 |                   |
| 金                  | 5限 | 直前総合演習Ⅱ<br>(栄養教諭向け)   | 森泉先生 |                   |
| 7月5日・7月12日<br>3・4限 |    | 直前総合演習Ⅲ<br>(養護教諭向け)   | 杉中先生 | 計4回実施予定           |

#### ▶学習支援センターの利用について

図書館1Fラーニングcommons内 学習支援センターでは一般教養の勉強について相談できます。数学・化学・物理や日本語表現、お礼状の書き方の指導も行っています。お気軽にご相談ください。

#### ▶外部業者学内模擬試験

2021年前期の模擬試験は終了しました  
2022年度向け模擬試験は後期予定(詳細はメールで案内します)

#### ▶教員採用試験関連イベント

決定次第ご連絡いたします。

#### ▶教職ボランティアについて

学校でのボランティアに興味のある方は、  
ご相談ください! [窓口: 脇野先生]



### あとうき

教職支援センターニュースレターNo.8では、教職ボランティアについて特集を組みました。新型コロナウイルスが依然として収束しない中でも、学校現場の先生方が学生を積極的に受け入れてくださっており、本当に感謝しております。また、参加している学生もこのような状況の中でも積極的に参加しており、少し明るいニュースをお届けできたのではないのでしょうか。現在、各種実習等でも制限があり、体験型の学びが行える機会が非常に少なくなっています。我々もこのような中でも学生の学びにつなげられる機会を増やしたり、学び方についての指導を工夫したりしていきたいものです。

(健康スポーツ学科 高田)

新潟医療福祉大学 教職支援センター ニュースレター  
2021年5月28日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会  
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

E-mail: kyoshoku@nuhw.ac.jp

WEB: https://www.nuhw.ac.jp/teaching\_career\_support/

Twitter: @NUHW\_kyoshoku



WEB

Twitter

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索

新潟医療福祉大学 教職支援センター



CONTENTS

1. 巻頭言：多職種連携でコロナ禍の子どもたちを支えよう
2. 取組紹介：3学科連携演習
3. 卒業生の活躍
4. 2021年実施 教員採用試験結果/合格者へのスペシャルインタビュー
5. お知らせ/今後の予定
6. あとがき

No. 9  
2021.12



## 多職種連携でコロナ禍の子どもたちを支えよう

教職支援センター運営委員 上田 純平（健康スポーツ学科）



昨年以降続くCOVID-19感染拡大は、子どもたちの生活にも大きな影響を及ぼしています。学校においても臨時休校をはじめとし、修学旅行や学校行事の中止・縮小、部活動の大会の中止など子どもを取り巻く環境に変化が生じました。また、消毒などの感染防止対策、三密の回避など今なお学校に求められるものは多くあります。学校生活や家庭生活が一変したことに伴う子どもたちへの影響として、不登校や虐待の増加、ゲーム依存など多くのメンタルヘルスの問題が懸念されています。緊急事態時の子どもたちへのメンタルヘルス支援にはどのような視点が必要でしょうか。重要な点を以下に示します。

- ①TVやインターネットなどのメディアでCOVID-19関連の話題に触れる時間を大人が管理・制限する
- ②家庭では学習時間とリラックスする時間を時間割のように決め、ルーティン化する
- ③「感染」や「隔離」がテーマとなった遊びがみられても無理に止めず見守る

『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下におけるメンタルヘルス対策指針第1版』（日本精神神経学会他、2020）

①・②については、規則正しい生活の支援となります。親子のコミュニケーションの時間を増やしたり、家の中でもできる軽い運動や気分転換を通じてストレスやフラストレーションを適度に解消したりすることで、ゲームやインターネットとの距離を適度にとることも大切であるとされています。③については、子どもは遊びを通して自身の体験を表現したり、再現したりすることによって、不安や恐怖などを解消することがあります。地震などの自然災害の場合には「地震ごっこ」などの遊びがみられることもあるようです。見守る姿勢が大事ですが、過度に激しくなりすぎたり、危険があったりする場合にはそっと止めましょう。

学校では子どもたちにどのような支援ができるでしょうか。緊急事態後の教育活動について、文部科学省は以下のように示しています。

学級担任や養護教諭等を中心としたきめ細かな健康観察やストレスチェック等により、児童生徒等の状況を的確に把握し、健康相談等の実施やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による心理面・福祉面からの支援（社会福祉サービスの提供等）など、校長のリーダーシップのもと、教員だけでなく、様々な専門スタッフと連携協力し、組織的な支援体制を整える。

ここからは、学校に関わる多くのスタッフが協働して子どもたちを支える「チーム学校」としての支援が求められていることがわかります。困難な状況にさらされた時にメンタルヘルスを保ち、回復する力を心理学ではレジリエンス（精神的回復性）と呼んでいます。学校は子どもたちがレジリエンスを身につける場として、重要な役割を果たすとの指摘もあります。この機会に子どもたちに対して皆さんができる支援を考えてみてはどうでしょうか。

### 取組紹介

11月2日（火）3・4限に教職実践演習で3学科の連携演習を行いました。健康スポーツ学科、健康栄養学科、看護学科の4年生が学校現場で起こりそうな課題に取り組みました。

まず、ジェスチャーを使った自己紹介、単語並べ替えゲームをしてグループの親睦を深めました。次に、代表学生が学級担任・体育科教員、栄養教諭、養護教諭の役割をそれぞれ説明しました。教育実習での体験に基づいた説明は分かりやすく、さすが4年生でした。その後「小学校6年保健の授業づくり」「食物アレルギーの対応」の事例について、3職種がどのような連携で対応できるかを検討するグループワークを行い、各グループで発表しました。寸劇をするグループがあるなど、個性豊かな発表となりました。

この3学科の連携演習は、医療系総合大学である新潟医療福祉大学ならではの取り組みです。多職種が連携する場面は実際に教職に就いてから多々ありますが、それを学生時代に経験したことで、さらに皆さんの学びが深まりました。



### 卒業生の活躍

現職教員として活躍する卒業生からのメッセージです。教員を目指す皆さん、是非参考としてください。

益戸 郁実さん  
（2020年度卒業生、小学校教員養成特別プログラム3期生）  
所属：福島県内小学校

#### ①教師のやりがい

問題を解いたり思いっきり遊んだり、子どもたちと一緒に過ごす毎日が、本当に楽しいです。もちろん、楽しい日々だけではありません。多くの教科を担当する小学校では、毎日の授業を乗り越えるだけで精一杯です。しかし、自分のやりたい授業が形となり、子どもたちの新しい学びや「できた！わかった！」に繋がったとき、大きな達成感ややりがいを感じます。

#### ②大学時代に学んだこと・役立っていること

部活動、ゼミ活動、学生ボランティア、アルバイト等、人と関わる多くの経験は、教員にとって大切な「話を聞く力」に繋がっていると思います。当時は辛かったことも、今では自分だけではなく子どもたちの肥やしとなり、一人ひとりに寄り添う生徒指導の実現に役立っていると実感します。

#### ③大学時代にしてよかったこと

学級経営や授業づくりについてもっと学んでおけばよかったと後悔しました。先生方に話を聞きに行ったり、本を読んだり、少しでも情報収集しておくだけで、4月から自信を持って教壇に立つことができると思います。また、やってみたいと思うことは今、チャレンジすることをおすすめします。



## 2021年実施 教員採用試験結果

### 現役合格者9名輩出！卒業生10名合格！

今年度実施された教員採用試験において、健康栄養学科1名（栄養教諭）、健康スポーツ学科7名（中学校・高等学校保健体育教諭2名、小学校教諭5名）、看護学科1名（養護教諭）計9名の合格者を輩出いたしました。また、3学科の卒業生10名からも合格の報告が届いております。教職支援センターでは、卒業生の教採対策指導も行っています！今回合格した4名の方のスペシャルインタビューをどうぞ！

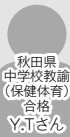
### 合格者へのスペシャルインタビュー



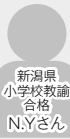
- ①教員を目指した理由 ②教員採用試験に向けた取り組み  
③後輩へのアドバイス



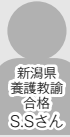
- ①昔から子どもと関わる仕事がしたいと思っていました。教育実習に行き元気いっぱいの小学生と触れ合い、この子たちの元気の源に給食があると思いました。その時私も栄養教諭になり、元気の源になるような給食を作りたいと思いました。  
②自治体によって出題傾向や形式が異なるので、情報収集を行いながら一次試験の勉強を始めました。一次試験の勉強は特に過去問を中心にしました。二次試験は、大学の先生方に沢山指導していただき、回数をこなすことが大切だと思いました。  
③教員採用試験は他の一般企業の就職活動時期に比べて遅いと思います。周りが就職先を決めて、焦ったり迷ったりすると思います。自分がどうして教員を目指しているのか、やりたいことは何なのかを何度も振り返りながらモチベーションを保つことが大切だと思います。



- ①これまでの大学生活や部活動などで学んだことや、スポーツ・運動の良さ、大切さを多くの生徒に知ってもらいたいと思ったことがきっかけです。また、やりがいのある仕事にとても魅力を感じ、その仕事を自分の故郷でしたいと思ったからです。  
②私は4年の春まで部活動を続けていたので、少しの時間で毎日対策に取り組みました。また、過去問を解いて傾向を知った上で出題率が高い分野や自分が苦手な部分を徹底的に勉強していました。  
③教員採用試験の対策は、勉強すればするほど多くのことに対応、応用ができます。例えば、筆記試験の対策でも面接に活かすことができ、その後の教育現場でも大いに役立ちます。今の努力は決して無駄ではないということを心に留めて頑張ってください。



- ①小学校時代の担任の先生に憧れたことがきっかけです。私は元々消極的な性格でしたが、当時の先生のおかげで、何事にも積極的に取り組めるようになりました。その時から私も「この先生のようにになりたい！」と思うようになりました。  
②合格のためにはまず一次試験を突破しないと行けないので、学内講座への参加や、問題集を繰り返し解く、ということを行いました。私は2年次より学内講座に参加するようになり、そこから勉強する習慣を身に付けていきました。  
③合格のためには、自分から積極的に行動することが大切だと思います。学内講座に参加したり、分からないことは先生方に質問したりするなど、自分から積極的に学ぶ意識をもって、合格できるように頑張ってください！



- ①小学生の時に世話になった養護教諭に憧れを持ち、養護教諭という職業に魅力を感じたことがきっかけです。そこから、高校生の時に養護教諭が保健室で対応してくれ、安心感を覚えたことから養護教諭を目指しました。  
②一次試験は過去問を解いて、自信がないところや理解が不十分なところをノートにまとめたり学外講座を受講したりしました。二次試験は学内講座の受講や教職の先生方との面接練習で自分の考えを自分の言葉で伝える練習をしました。  
③教職支援センターをたくさん利用してほしいと思います。とても手厚くサポートしてくれたり多くの情報を発信してくれたりします。他学科の学生さんからも良い刺激をもらえるはずですよ。くじけそうな時にも、センターに行くことで元気になることができました。応援しています。



### お知らせ/今後の予定

#### ▶教職担当教員による教員採用試験対策 後期学内講座

- 10月～2月にかけて、各種講座をオンラインで開講中です。  
後期講座は2022年度前期講座へつながっていきます。  
3年生を中心に積極的にご参加ください。1～2年生も歓迎します。  
月3限：保体総合演習Ⅰ（HS学科対象）  
月4限：模擬授業＆一次試験筆記試験対策  
月7限：保体総合演習Ⅱ（HS卒業生対象）  
水1限：論文文演習Ⅰ  
水3限：面接演習Ⅰ  
木3限：教育課題演習Ⅰ  
金5限：栄養総合演習Ⅰ（HN学科対象）  
随時：養護総合演習Ⅰ（NR学科対象）\*学科指定日  
\*申込制で随時受付中です。積極的にご利用ください。

#### ▶東京アカデミー講師による教員採用試験対策講座

\*申込は終了しました

- 方法：オンライン  
日程：11月22日（月）～2月22日（火）\*全10回

#### ▶学内模擬試験

- 会場：D204  
日程：1月5日（水）東京アカデミー 第1回模試  
2月24日（木）東京アカデミー 第2回模試  
4月1日（金）東京アカデミー 第3回模試



### あとうがき

教職支援センターニュースレター第9号では、子どもたちへのメンタルヘルス支援や、3学科連携演習についてご紹介しました。いずれも本学の特色でもある「多職種連携」がキーワードとなります。教職を目指す学生の皆さんには、ぜひ医療系総合大学である本学で学んだ「多職種連携」を生かし、教職の現場で活躍してほしいと思います。

2017年12月に創刊したニュースレターも、次回は記念すべき第10号となります。今後さらに、教職の魅力や本学教職支援センターの様々な取り組みをお伝えしていきますので、ご期待ください！

（事務局 菅原）



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター

2021年12月24日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会  
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

E-mail: kyoshoku@nuhw.ac.jp

Web: https://www.nuhw.ac.jp/teaching\_career\_support/

Twitter: @NUHW\_kyoshoku



Web

Twitter

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索

## 『新潟医療福祉大学教職支援センター年報』刊行規程

新潟医療福祉大学 教職支援センター

- 第1条 新潟医療福祉大学教職支援センター（以下、教職支援センターと記載）は、『新潟医療福祉大学教職支援センター年報』（以下、年報と記載）を原則として年1回刊行する。
- 第2条 年報の編集は、教職支援センター運営委員会の議を経て教職支援センター長が任命した企画・研究部会によって行う。
- 第3条 年報は、他誌において発表済みの研究論文の転載（原則として20,000文字前後）、研究ノート（研究論文にまで至らない研究成果などを8,000文字程度でまとめたもの）、教育実践報告、教職課程および教職支援センターの活動報告、書評などで構成される。
- 第4条 研究論文は発表済のものに限り、企画・研究部会の査読は行わない。
- 第5条 年報への投稿は、新潟医療福祉大学の教職員、大学院生・学部学生、および企画・研究部会が認めた者に許される。
- 第6条 年報の発行部数は200部程度とし、発行部数は別に定める。
- 第7条 年報に掲載される、第3条に定めた研究論文を除く内容の著作権の扱いは、以下の通りとする。  
（1）著作権は、著者に帰属するものとする。  
（2）著作権者は、複製権・公衆送信権等、出版やオンラインでの公開・配信について、新潟医療福祉大学教職支援センターに著作権上の許諾を与えるものとする。
- 第8条 この規程に定めるもののほか、年報刊行に必要な事項は教職支援センター運営委員会が定めるものとする。
- 第9条 この規程の改廃は、教職支援センター運営委員会の議を経て、教職支援センター長が行う。

### 附 則

この規程は、2017年11月21日から施行する。



## 執筆担当者一覧

|       |       |          |                      |
|-------|-------|----------|----------------------|
| 吉田 重和 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 教授 (教職課程長／教職支援センター長) |
| 斎藤トシ子 | 健康科学部 | 健康栄養学科   | 教授                   |
| 森泉 哲也 | 健康科学部 | 健康栄養学科   | 教授                   |
| 渡辺 優奈 | 健康科学部 | 健康栄養学科   | 助教                   |
| 脇野 哲郎 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 教授                   |
| 若月 弘久 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 准教授                  |
| 久保 晃  | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 准教授                  |
| 佐藤 裕紀 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 講師                   |
| 杵渕 洋美 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 講師                   |
| 高田 大輔 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 助教                   |
| 針谷美智子 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 助教                   |
| 上田 純平 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 | 助教                   |
| 丸山 幸恵 | 看護学部  | 看護学科     | 講師                   |
| 和田 直子 | 看護学部  | 看護学科     | 講師                   |

齊藤 公二 新潟市立光晴中学校 (健康科学部 健康栄養学科 卒業生)

|       |       |          |  |
|-------|-------|----------|--|
| 鈴木 渉太 | 健康科学部 | 健康栄養学科   |  |
| 高橋 羽海 | 健康科学部 | 健康栄養学科   |  |
| 山田日菜子 | 健康科学部 | 健康栄養学科   |  |
| 近 怜子  | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 高橋 秀  | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 穴澤沙也可 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 紺野 琢也 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 大日向史伎 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 唐橋 万結 | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 野崎 駿  | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 櫻田 陽  | 健康科学部 | 健康スポーツ学科 |  |
| 池上 悠  | 健康科学部 | 看護学科     |  |
| 鈴木 里彩 | 健康科学部 | 看護学科     |  |
| 佐藤 栞  | 健康科学部 | 看護学科     |  |

## 編集委員一覧

|       |                  |         |
|-------|------------------|---------|
| 高田 大輔 | 教職支援センター運営委員会    | 企画・研究部会 |
| 吉田 重和 | 教職支援センター運営委員会    | 企画・研究部会 |
| 菅原 直実 | 学務部 教務課／教職支援センター |         |
| 阿部つばさ | 学務部 教務課／教職支援センター |         |

## 編集後記

『新潟医療福祉大学教職支援センター年報』第6号をお届けいたします。本年報には、教職課程に関わる教職員の共同研究の成果である研究ノート、各学科で行われている実習や授業、特徴的な取組の紹介、各種実習や教員採用試験を振り返る学生の声、本学教職課程にまつわる各種データなどを掲載いたしました。本号を手にとられた皆さまより、各記事に対しご批正を賜れば幸甚に存じます。

本号の発行にあたり、ご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

(編集委員 高田 大輔)

新潟医療福祉大学教職支援センター年報 第6号 [2021年度版]

発行日 2022年9月26日

編集・発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会

〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

TEL 025-257-4455 (代)

FAX 025-257-4558

印刷 株式会社 ウィザップ

ISSN 2433-7803

